Owner's Guide

操作・困ったときは編

別冊の設置・接続編もご覧ください。

QUALIA 006

お買い上げいただきありがとうございます。

電気製品は安全のための注意事項を守らないと、
火災や人身事故になることがあります。

この「Owner's Guide」には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この「Owner's Guide」と別冊の「設置・接続編」をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

目次　操作・困ったときは編

別冊「設置・接続編」の目次

リモコンの上下キーで機能・コンテンツを選ぶ。
デモモード
デモモードの入／切を設定します。
お問い合わせ
お問い合わせ先が表示されます。
お知らせ
設定
本機を設定します。「設定／調整する」（☞42ページ）と、別冊の設置・接続編をご覧ください。
テレビの設定
外部入力の設定
フォトの設定
メモリースティックの設定
本体の設定
ミックスメディア
26ページ
サンプル
24ページ
メモリーカード
24ページ
デジタルカメラ
24ページ
フォト
"メモリースティック" やデジタルカメラなどに記録した静止画を見ることができます。また、静止画に音楽、効果を組み合わせて楽しむこともできます。
メモリースティック
24ページ
録画予約
20ページ
録画予約確認
22ページ
ビデオ
デジタル放送の番組を本機から予約して録画できます。また、"メモリースティック" に記録した動画を見ることができます。
メモリースティック
27ページ

ホームメニュー一覧

リモコンの左右キーでカテゴリーを選ぶ。

地上	BS	CS	外部入力
地上デジタル番組表（データ）▶ 10ページ	BSデジタル番組表（データ）▶ 10ページ	CS1/2デジタル番組表（データ）▶ 10ページ	i.LINK機器 ▶ 30ページ
地上デジタル番組表（テレビ）▶ 10ページ	BSデジタル番組表（ラジオ）▶ 10ページ	CS1デジタル番組表（ラジオ）▶ 10ページ	
地上アナログ番組表（Gガイド）▶ 10ページ	BSデジタル番組表（テレビ）▶ 10ページ	CS1/2デジタル番組表（テレビ）▶ 10ページ	

地上
地上アナログ放送や地上デジタル放送を選局して見ることができます。また、番組表を表示して番組の説明を見ることができます。

BS
BSデジタル放送を選局して見ることができます。また、番組表を表示して番組の説明を見ることができます。

CS
110度CSデジタル放送を選局して見ることができます。また、番組表を表示して番組の説明を見ることができます。

外部入力
本機につないだ機器の映像・音声を本機で視聴できます。

地上	BS	CS	外部入力
00 地上A ch ▶ 8ページ	000 BS ch（テレビ）▶ 8ページ	000 CS1/2 ch（テレビ）▶ 8ページ	ビデオ1～3 ▶ 28ページ
000 地上D ch（テレビ）▶ 8ページ	000 BS ch（ラジオ）▶ 8ページ	000 CS1 ch（ラジオ）▶ 8ページ	コンポーネント1（D端子）、2（D端子）▶ 28ページ
000 地上D ch（データ）▶ 8ページ	000 BS ch（データ）▶ 8ページ	000 CS1/2 ch（データ）▶ 8ページ	コンポーネント3、4 ▶ 28ページ
			HDMI 1、2 ▶ 28ページ
			PC ▶ 35ページ

オプションボタンと戻るボタンの便利な機能

オプションボタンを押すと、そのときできる便利な機能を表示できます。表示されたできることを選べば、通常の手順より早く操作できます。

本書では、オプションからできることを、以下のマークで紹介しています。

オプションでできること…

XMB（クロスメディアバー）や操作（メニュー）画面を表示しているときに、**戻るボタン**を押すと、**1つ前の画面に戻れます。**

テレビ放送を見る

1 ホーム ボタンを押す。

ホームボタンでホームメニューを表示させ、↑/↓/←/→でアイコンを選べるので、すべての操作をリモコンを閉じたままで行えます。

2

選べる放送

←/→で見たい放送サービスを選ぶ。

地上アナログ 地上デジタル	BSデジタル	110度CSデジタル

3

放送中の番組

選べるチャンネル

↑/↓で見たいチャンネルを選んで、決定を押す。

↑/↓を押し続けると高速でスクロールします。

- リモコンを開いても操作できます。

放送を選ぶ

チャンネルを順送りで選ぶ

数字ボタンに登録されているチャンネルに切り換える

ご注意

- はじめて選局するときは、あらかじめチャンネルを自動設定しておいてください(☞「設置・接続編」の「準備6：お買い上げ時の初期設定をする」、「準備7：地上アナログ放送の設定をする」)。
- 長時間お使いにならないときはメディアレシーバーの電源スイッチで電源を切ってください。

デジタル放送のラジオ/データ放送を楽しむ

ラジオ放送

画像や連動したデータを楽しめるラジオ放送と、音声のみのラジオ放送があり、番組によっては、音楽CD並みの高音質が楽しめます。

データ放送

データ放送では、様々なニュースや情報を見たり、クイズやゲームなど双方向サービスを楽しめます。データ放送は、以下の2種類があります。

独立データ

データのみを専門に扱っている放送サービスです。

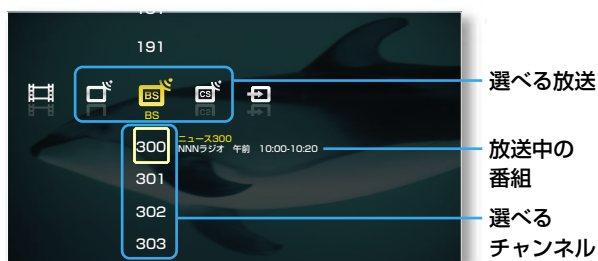
連動データ

デジタル放送のテレビやラジオの番組に連動して見ることができる放送サービスです。

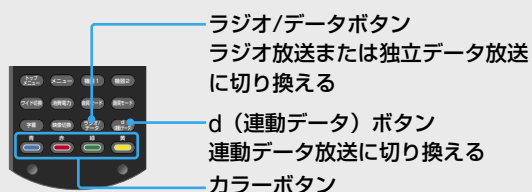
1

を押す。

2 ←/→で見たい放送を選ぶ。

地上デジタル　BSデジタル　110度CSデジタル

3 ↑/↓で視聴したいラジオまたは独立データのチャンネルを選んで、決定を押す。

決定を押す前に、放送中の番組名を確認できます。

- データ放送ではリモコンのボタンで項目を選んだり、数値を入力したりできます。画面の指示に従って操作してください。

他にも、数字ボタンと↑/↓/←/→/決定ボタンを使えます。

オプションでできること…

テレビ/ラジオ/データ放送視聴中

項目	できること
番組説明	番組説明を表示します（☞12ページ）。
いますぐ録画/いますぐ停止*1	「予約設定」画面を表示します（☞21ページ）。
i.LINK操作パネル*1	LINC（リンク）しているi.LINK対応機器のi.LINK操作パネルを表示します（☞30ページ）。
画面メモ	メモ画面を表示します（☞18ページ）。
2画面	2画面表示にします（☞39ページ）。
字幕切換*1	字幕の言語が切り換わります（☞19ページ）。
画質	画質調整の画面を表示します（☞42ページ）。
音質	音質調整の画面を表示します（☞44ページ）。
画面モード	画面モードの設定画面を表示します（☞40ページ）。
ダイヤルアップ切断*1	データ放送で通信中にのみ選べ、通信を切断します。

*1 デジタル放送視聴中のみ

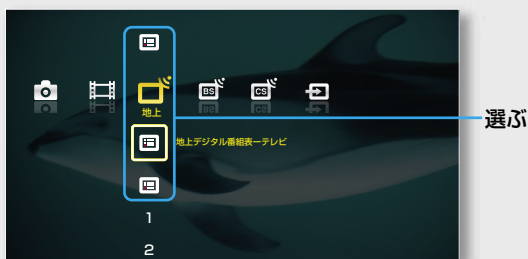
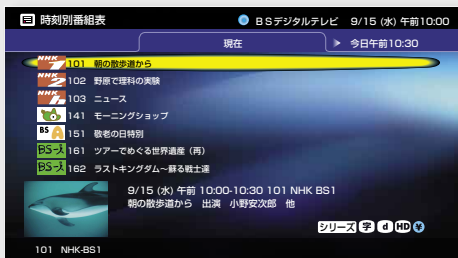
↑/↓を押し続けているときの高速スクロール中は、どの放送サービスを選んでいるかがわかります。

ちょっと一言

- あらかじめ電話回線の接続と設定を行ってください（☞「設置・接続編」）。
- デジタル放送のデータ番組では、本機につないだ電話回線を使って通信を行う場合があります。通信中（通信ランプが点灯）は、電話機やファクシミリなど同一回線上の通信機器は使えません。また、電話料金がかかる場合があります。

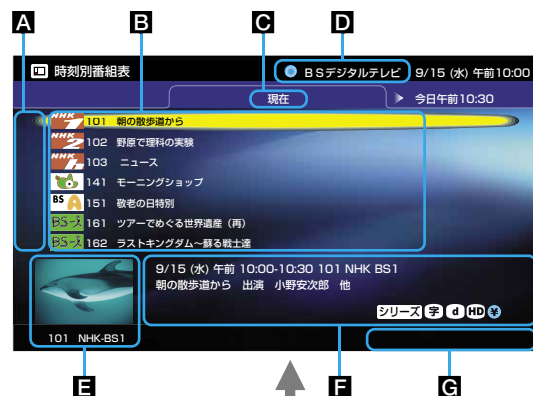
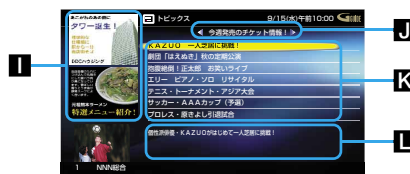
番組表

番組表で見たい番組を探す

地上アナログ、地上デジタル、BSデジタル、110度CSデジタルの放送ごとに、放送局が送信する番組情報を元に、番組表(地上アナログではGガイド*1)を約1週間先まで見ることができます。
また、ジャンル検索やキーワード検索をして、番組を絞り込んで表示したり、番組を選んで予約したりすることもできます。

時刻別番組表

黄で切り換え

見たい時間が決まっているときに使います。

例:BSデジタルの番組表

*1 Gガイド、G-GUIDE、およびGガイドロゴは、米Gemstar-TV Guide International, Inc. の日本国内における登録商標です。

チャンネル別番組表

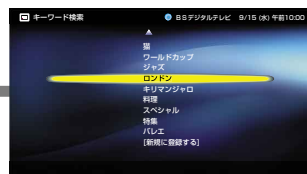
チャンネル別に探すときに使います。

例:BSデジタルの番組表

H

黄で切り換え

ジャンル検索（☞13ページ）
例:BSデジタルのとき

キーワード検索（☞14ページ）
例:BSデジタルのとき

上記の番組はフィクションであり、実際の放送局での放送内容や実際の人物、地名などとは関係ありません。

A 番組の状況欄（デジタル放送のみ）

- ●: 録画中の番組
- ●: 録画予約した番組（☞20ページ）
- ▮: 予約が重なっている番組
  同じ時間帯に予約があるときに表示します。
- ▮: 録画中の予約と重なっている番組。

B 番組一覧

時刻別番組表では番組名とチャンネルが、チャンネル別番組表では番組名と放送日時が表示されます。
↑/↓で番組を選び決定を押すと、デジタル放送では予約に進めます。地上アナログでは選んだチャンネルに切り換わります。

C 時間帯表示欄

現在、番組表に表示中の日付と時間帯。
←/→で、番組表に表示したい時間帯を30分ごとに選べます。

D 放送と放送サービス

デジタル放送の放送（地上デジタル、BSデジタル、CS1デジタル、CS2デジタル）と放送サービス（テレビ、ラジオ、データ）の種類。地上アナログのときは表示されません。

E 視聴中のチャンネルと映像

F で選んでいる番組の情報

G 操作ガイド表示欄

番組表を表示中にリモコンでできることをガイド表示します。

H チャンネル表示欄

現在、番組表に表示中のチャンネル。
←/→で、番組表に表示したいチャンネルを選べます。

I 広告

広告を選ぶと、広告の詳細が表示されます。

J 大カテゴリー

←/→で他のカテゴリーを表示できます。

K 小カテゴリー

↑/↓で選んで決定を押すと、詳しい内容が表示されます。

L で選んでいる小カテゴリーの情報

マークの意味（デジタル放送のみ）

- 字 : 字幕放送（☞19ページ）
- d : テレビやラジオと連動しているデータ放送（☞9ページ）
- MV : マルチビュー放送（☞55ページ）
- HD : デジタルハイビジョン信号 HD（☞54ページ）
- SD : 標準テレビ信号 SD（☞54ページ）
- R : 視聴年齢制限付き番組（☞「設置･接続編」の「個人情報を設定･消去する」→「暗証番号や視聴年齢制限を設定する」）
- ¥ : ペイ･パー･ビュー(PPV)など有料番組（☞19ページ）
- シリーズ : 野球中継や季節ごとの番組（毎週/毎回に属さないもの）

テレビを見る

次のページにつづく⇨

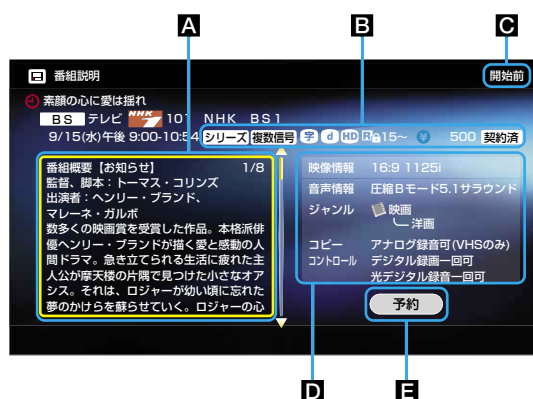
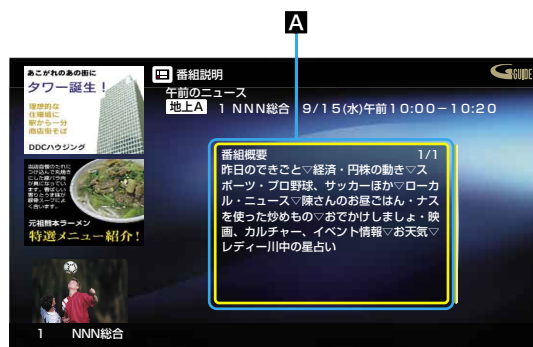
番組説明を見る

番組名やあらすじ、出演者、映像/音声情報、ジャンルなど番組の詳しい情報を見ることができます。
戻るボタンを押すと消えます。

1 **番組表を表示中に、↑/↓/←/→で番組を選ぶ。**

2 **オプションボタンを押す。**

3 **↑/↓で「番組説明」を選んで、決定を押す。**

デジタル放送の番組説明

地上アナログ放送の番組説明

上記の番組はフィクションであり、実際の放送局での放送内容や実際の人物、地名などとは関係ありません。

A 番組内容表示欄
1/8は8ページ中の1ページ目の意味です。

B マーク（デジタル放送のみ）（下記参照）

C 番組の状況
「開始前」や「終了」など

D 番組情報欄
「**映像情報**」（☞54ページ）、「**音声情報**」（☞54ページ）、「**ジャンル**」（☞13ページ）、「**コピーコントロール**」（録画や録音についての情報☞56ページ）

E 「予約」（☞20ページ）
「予約設定」画面を表示します。すでに予約しているときは、予約を取り消せます。

マークの意味（デジタル放送のみ）

- 字 ：字幕放送（☞19ページ）
- d ：テレビやラジオと連動しているデータ放送（☞9ページ）
- MV ：マルチビュー放送（☞55ページ）
- HD ：デジタルハイビジョン信号 HD（☞54ページ）
- SD ：標準テレビ信号 SD（☞54ページ）
- R🔒 ：視聴年齢制限付き番組（☞「設置・接続編」の「個人情報を設定・消去する」→「暗証番号や視聴年齢制限を設定する」）
- ¥ ：ペイ・パー・ビュー（PPV）など有料番組（☞19ページ）

シリーズ：野球中継や季節ごとの番組（毎週/毎回に属さないもの）

複数信号：第2映像など複数の映像/音声信号がある番組

契約済/未契約：放送事業者との契約が済んでいるかどうか（☞「設置・接続編」の「準備14：各放送局に視聴を申し込む」）

他に放送局から、番組の種類を表すマークが付いてくる場合があります。以下はその一例です。

- 二 ：二か国語放送（☞54ページ）
- S ：ステレオ放送（☞54ページ）
- 字 ：字幕放送（☞19ページ）
- B ：圧縮Bモード放送（☞54ページ）
- N ：ニュース番組

信号画面を見るには

番組説明を表示中に緑ボタンを押す。
番組説明に表示されている番組が持っている映像信号や音声信号を見ることができます。

オプションでできること…

各番組表/各検索/トピックスを表示中

項目	できること
番組情報取得*1	時刻別番組表やチャンネル別番組表、ジャンル検索で、表示中の放送の番組情報をデータ取得します。
広告を見る*2	広告の詳しい内容を表示します。
トピックス*2	トピックスに切り換えます。
キーワード検索	キーワード検索に切り換えます。
ジャンル検索	ジャンル検索に切り換えます。
チャンネル別番組表	チャンネル別番組表に切り換えます。
時刻別番組表	時刻別番組表に切り換えます。
番組説明	番組を選んでいるときに、番組説明を表示します。
詳細説明*2	時刻別番組表で広告やトピックスを選んでいるときに、詳しい内容を表示します。
予約する*1	録画予約に進めます（☞20ページ）。
選局	選んだ番組または同じチャンネルで放送中の番組にかわります。
検索	ジャンル検索またはキーワード検索で、検索を開始します。
編集	キーワード検索で、選んでいるキーワードを編集できます。ソフトウェアキーボードが表示されます。
削除	キーワード検索で、選んでいるキーワードを削除します。
新規追加	キーワード検索で、新しいキーワードを追加できます。ソフトウェアキーボードが表示されます。

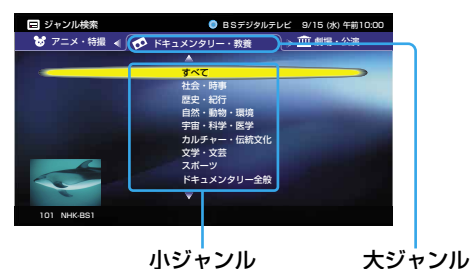
*1 デジタル放送のみ
*2 地上アナログ放送のみ

ジャンルから検索する

番組は複数のジャンルに属していることがあります。ジャンルを指定して検索するとそのジャンルに属する番組を検索します。

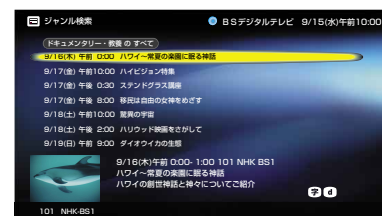
1 **番組表表示中に（黄）ボタンをくり返し押して、「ジャンル検索」を表示する。**

2 **←/→で大ジャンルを選ぶ。**

例：デジタル放送のジャンル検索画面

3 **↑/↓で小ジャンルを選んで、（決定）を押す。**

選んだジャンルの番組が開始時刻順に表示されます。

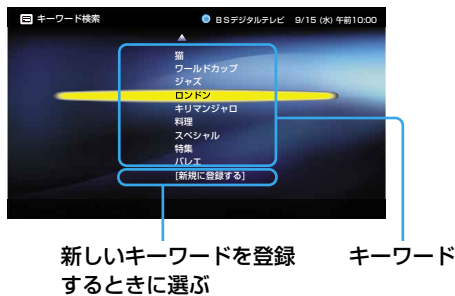
例：デジタル放送の検索結果画面

次のページにつづく⇨

番組表で見たい番組を探す(つづき)

キーワードから検索する

番組説明の「番組概要」に、キーワードが含まれている番組を探します。
新規にキーワードを登録したり、登録したキーワードから検索を行うことができます。
なお、キーワードの文字と「番組概要」に含まれている文字が完全に一致しないと、番組は検索できません。

1 **番組表表示中に(黄)ボタンをくり返し押して、「キーワード検索」を表示する。**

2 **↑/↓でキーワードを選ぶ。**

「新規に登録する」を選んだときは

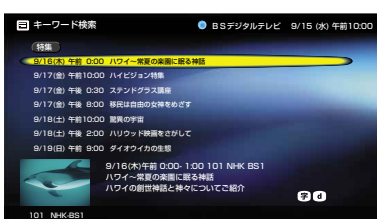
1 **(決定)を押す。**
ソフトウェアキーボードが表示されます。

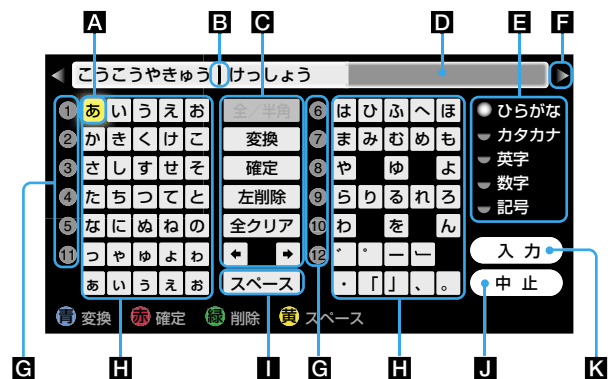
2 **ソフトウェアキーボードで、キーワードを入力する。**
キーワードの入力が終了すると「キーワード検索」画面に戻ります。

3 **↑/↓で登録したキーワードを選ぶ。**

3 **(決定)を押す。**

キーワードを含む番組が開始時刻順に表示されます。

例:デジタル放送の検索結果画面

文字を入力する[ソフトウェアキーボード]

文字を入力する必要があるときに自動的に表示されます。

A **フォーカス**

B **カーソル**

C **編集用ボタン**
「**全/半角**」:英字や記号の全角、半角を切り換えます。
「**変換**」:入力した文字を漢字に変換します。
「**確定**」:文字を確定します。
「**左削除**」:カーソルの左側の文字を削除します。
「**全クリア**」:入力文字表示エリアにある文字をすべて削除します。
「⬅」/「➡」:カーソルを左右に移動します。

D **入力文字表示エリア**
入力中の文字が表示されます。

E 入力できる文字の種類を変えて、ソフトウェアキーボードを表示します。
「全」または「半」が表示されているときは、全角文字または半角文字のみ入力できます。

F **◀/▶マーク**
入力された文字が入力文字表示エリアに表示しきれないときに表示されます。カーソルを移動すると残りの文字が表示されます。

G リモコンの数字ボタンを押すと、同じ数字の行にフォーカスが移動します。さらにくり返し押すとフォーカスが移動します。

H **文字ボタン**
文字や記号を入力します。

I **「スペース」ボタン**
スペース(空白)を入力します。

J **「中止」ボタン**
文字入力を中止して元の画面に戻ります。入力文字表示エリアに表示されている文字は設定されません。

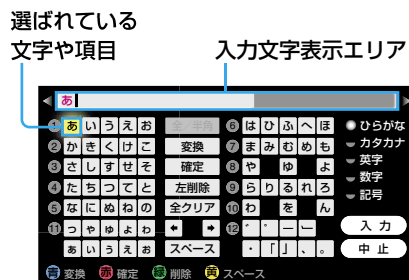
K **「入力」ボタン**
入力した文字を確定してソフトウェアキーボードを消します。

文字や記号を入力する

例：キーワード検索で「愛」を入力する

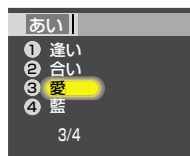
1. **「キーワード検索」（☞14ページ）の手順1を行う。**

2. **↑/↓で「新規に登録する」を選んで、決定を押す。**
ソフトウェアキーボードが表示されます。

3. **↑/↓/←/→で「あ」を選んで、決定を押す。**
入力文字表示エリアに「あ」と表示されます。

4. **↑/↓/←/→で「い」を選んで、決定を押す。**
入力文字表示エリアに「あい」と表示されます。

5. **↑/↓/←/→で「変換」ボタンを選んで、決定を押す。**
正しい文字が表示されたときは手順8にすすんでください。

6. **「変換」が選ばれていることを確認して、決定を押す。**

7. **↑/↓で「愛」を選んで、決定を押す。**
リモコンの数字ボタンで、文字の左側に表示されている数字を選ぶこともできます。

8. **↓で「確定」ボタンを選んで、決定を押す。**

9. **↑/↓/←/→で「入力」ボタンを選んで、決定を押す。**
ソフトウェアキーボードが消えて、キーワードに「愛」が表示されます。

入力した文字を削除するには

入力文字表示エリアに表示されている文字を削除できます。

例：「高校野球の決勝戦」から「の」を削除する

1. **↑/↓/←/→で「←」または「→」ボタンを選ぶ。**

2. **決定をくり返し押して、カーソルを削除する文字の右側に移動する。**

高校野球の｜決勝戦

3. **↑/↓/←/→で「左削除」ボタンを選んで、決定を押す。**

高校野球｜決勝戦

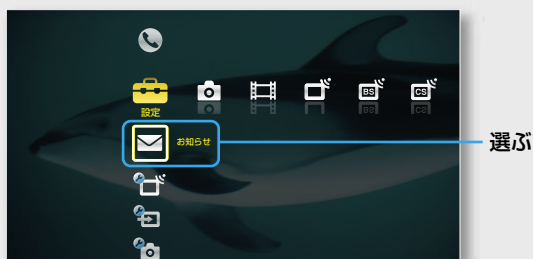
ソフトウェアキーボードで使えるリモコンのボタン

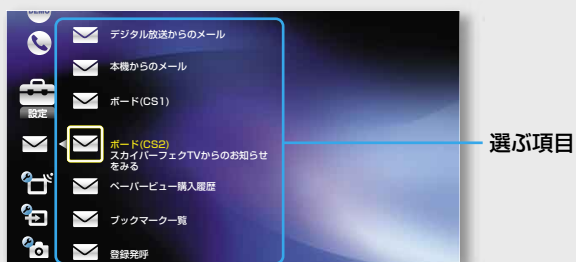
ソフトウェアキーボードを表示しているときに、リモコンのボタンを使ったほうが携帯電話で入力するように簡単に操作できることがあります。

ボタン	できること
青	**「ひらがな」入力、「カタカナ」入力のときは** 入力した文字を漢字に変換します。 「変換」ボタンと同じ働き。 **「英字」入力、「記号」入力のときは** 全角文字と半角文字を切り換えます。 「全/半角」ボタンと同じ働き。
赤	**「ひらがな」入力、「カタカナ」入力のときは** 変換した文字を確定します。 「確定」ボタンと同じ働き。
緑	カーソルの左側の文字を削除します。 「左削除」ボタンと同じ働き。
黄	入力できる文字の種類を変えて、ソフトウェアキーボードを表示します。
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	ソフトウェアキーボードの文字ボタンの行の左端に表示されている数字を見て、数字ボタンで携帯電話のように文字を入力します。
戻る	文字入力を中止して元の画面に戻ります。入力文字表示エリアに表示されている文字は設定されません。 「中止」ボタンと同じ働き。

お知らせを見る

ホームメニューの「(お知らせ)」からも、デジタル放送のいろいろな機能を使えます。

1 ホームを押す。

2 ←/→で「(設定)」を選ぶ。

3 ↑/↓で「(お知らせ)」を選んで、決定を押す。

4 ↑/↓で操作したい項目を選んで、決定を押す。

お気に入りのデータ放送を登録する

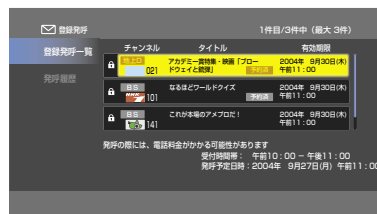
「ブックマーク一覧」を選ぶ。

データ放送によってはブックマークを登録できます。お気に入りのデータ放送を登録しておくと、下記の画面で選ぶだけで切り換えられます。

放送局と情報をやりとりする

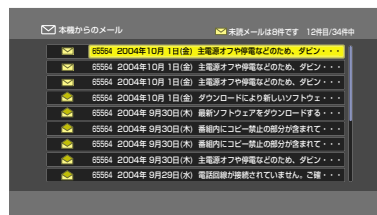
「登録発呼」を選ぶ。

データ放送で、クイズ番組に回答を送ったり、アンケートに投票するなど放送局と通信して楽しむときに、回線が混んでいて通信できないことがあります。そのときは、登録しておくとあとで発信できます。また、発呼受付時間帯以外のものは予約しておくと、発呼予定日時に自動的に発信されます(メディアレシーバーの電源スイッチで電源を切らないでください)。

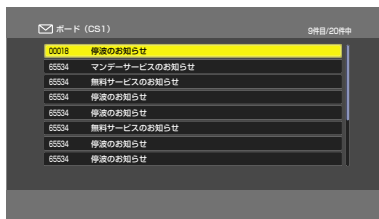
発呼に失敗すると「発呼履歴一覧」画面に▲が表示されます。

あらかじめ「設置・接続編」の「準備15：電話回線を設定する」を行ってください。

本機からのメールを見る

「本機からのメール」を選ぶ。

ダビングやムーブの結果、ダウンロードのお知らせなど、本機が発行したメールを見ることができます。

放送局からのお知らせを見る

「デジタル放送からのメール」または「ボード（CS1）」、「ボード（CS2）」を選ぶ。

放送局からお客様へのお知らせ（メール）や、110度CSデジタルの利用者全員へ共通のお知らせや番組案内など（ボード）を見ることができます。
ボードを見るときは、CSボタンを押して、あらかじめCS1かCS2に切り換えてください。

メールマークの意味

（既読）：すでに読んだメール
（未読）：まだ読んでいないメール
：本機からのメール
地上D：地上デジタルからのメール
BS：BSデジタルからのメール
CS1：CS1からのメール
CS2：CS2からのメール

メールはお客様自身で削除できません。

ペイ・パー・ビュー（PPV）の購入概算額を見る

「ペイパービュー購入履歴」を選ぶ。

先月分と今月分の購入概算額と最近購入した番組の一覧を確認できます。履歴があるときにのみ表示されます。
ペイ・パー・ビューを見るときは☞19ページをご覧ください。

オプションでできること…

「ブックマーク一覧」画面表示中

項目	できること
全件削除	すべてのブックマークを削除します。
期限切れ削除	期限の切れているブックマークを削除します。
リンク*1	選んだ番組にリンクします。
削除禁止/削除禁止解除	選んだ番組を削除できないようにします。削除禁止にしているときは解除できます。
削除	選んだ番組を削除します。

*1 メモと期限切れ以外の番組のとき

登録発呼表示中

項目	できること
全件削除*2	すべて履歴を削除します。
詳細表示	詳細情報を見ることができます。
発呼/発呼中止	発呼受付期間中の番組は、すぐに発呼します。発呼中の番組は発呼を取り消せます。
予約/予約取消	発呼受付開始前の番組は、発呼の予約ができます。予約済みの番組は、予約を取り消せます。
削除禁止/削除禁止解除	選んだ番組を削除できないようにします。削除禁止にしているときは解除できます。
削除	選んだ番組を削除します。

*2 発呼履歴一覧表示中のみ

「ペイパービュー購入履歴」画面表示中

項目	できること
全件削除*3	すべてのペイ・パー・ビュー購入履歴を削除します。

*3 履歴があるときのみ

画面をメモする

番組やビデオカメラレコーダーの映像などで、静止画として保存しておきたい場面や、お料理番組のレシピなど、メモをとりたい場面を静止させて見ることができます。

1 **静止させたい場面が映っているときに、メモボタンを押す。**

メモ画面（静止画）

2 **メモボタンを押して、1画面に戻す。**

“メモリースティック”に保存する

地上アナログとビデオ入力の映像（録画制限されていない映像のみ☞56ページ）は“メモリースティック”に静止画として保存できます。
“メモリースティック”の初期化など、設定について詳しくは、☞47ページをご覧ください。

1 **メモ画面表示中に、決定を押す。**

2 **「はい」が選ばれていることを確認して、決定を押す。**

“メモリースティック”に保存されると、保存先のフォルダ名が表示されます。

3 **メモボタンを押して、メモ画面を消す。**

オプションでできること…

メモ画面表示中

項目	できること
メモを保存	地上アナログ、ビデオ入力のメモ画面を“メモリースティック”に保存します。
メモを解除	メモ画面を解除して、1画面に戻ります。

テレビのその他の機能

映像や音声を切り換える

映像切換ボタンや音声切換ボタンを押す。

押すたびに映像信号や音声信号が切り換わります。

例:第2映像と第1音声を選んでいるとき

字幕放送を見る*1

字幕ボタンを押す。

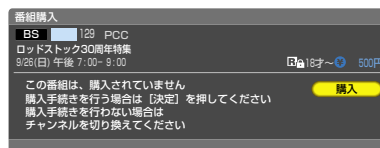
押すたびに字幕の言語が切り換わります。

例：第2言語の字幕

ペイ・パー・ビュー(PPV)*2を見る

ペイ・パー・ビューの番組を選局する。

「番組購入」画面が表示されます。

↑/↓/←/→/(決定)で画面の指示に従って操作してください。
ペイ・パー・ビューの購入概算額を見るには☞17ページをご覧ください。

文字スーパー*3の言語を切り換えるには

「(設定)」→「(テレビの設定)」→「デジタル放送の設定」→「表示設定」→「文字スーパー入/切」→「第1言語」または「第2言語」、「切」(のいずれか)の順に選ぶ。

ちょっと一言

チャンネルを切り換えたときは、第1音声に切り換わります。

*1 字幕放送とはデジタル放送の映画やドラマなどの字幕のことです。

*2 ペイ・パー・ビュー(PPV:PAY PER VIEW)とは「見るたびに支払う」の意味で、デジタル放送の番組単位で随時、視聴購入できる有料番組です。ペイ・パー・ビューには、購入前に内容を確認(プレビュー:事前視聴)できる番組もあります。

*3 文字スーパーとはデジタル放送で文字で表示される臨時ニュースなどです。

録画予約する

本機と録画機器をつなげば、デジタル放送を録画予約できます。録画機器の種類と接続方法によって、**シンクロ録画、AVマウス録画、i.LINK録画**の3通りの録画予約の方法があります（☞「設置･接続編」の「録画するための接続」）。地上アナログ放送は録画予約できません。

1 録画したい番組を選ぶ。

番組の選びかたによって、録画予約の方法が3通りあります。

番組表から選びたいときは

1 ホーム を押す。

2 ←/→で録画したい放送を選ぶ。

3 ↑/↓で「(番組表)」を選んで、決定を押す。

地上アナログは録画予約できません。

4 ↑/↓で録画したい番組を選んで、決定を押す。

「予約設定」画面が表示されます。

5 次ページの手順2に進む。

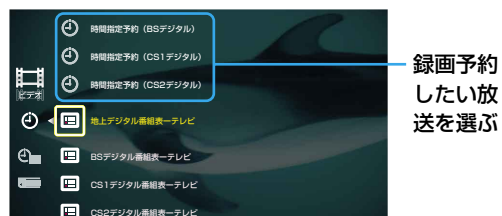
録画したい番組の日時が決まっているときは

1 ホーム を押す。

2 ←/→で「(ビデオ)」を選ぶ。

3 ↑/↓で「(録画予約)」を選んで、決定を押す。

4 ↑/↓で録画予約したい時間指定予約の放送を選んで、決定を押す。

「予約設定」画面が表示されます。

5 次ページの手順2に進む。

ご注意

- 有料番組を予約すると、予約時には料金がかかりませんが、録画が始まると料金がかかります。
- デジタル放送のテレビやラジオと連動しているデータは、i.LINKでつないだ機器でのみ録画できます。
- 放送時間などの変更に対応するように設定（☞「設置･接続編」の「録画するための接続」→「録画予約をするための設定をする」）していても、くり返し設定をしたときは対応しません。
- **メディアレシーバーの電源スイッチで、主電源を切らないでください。**主電源が切れたままだと、予約した時刻になっても電源は入らず、録画が始まりません。
- 機器によっては「いますぐ録画」を実行しても、録画開始までに時間がかかることがあります。
- ハードディスクレコーダー･DVDレコーダー複合機などの複合機器をつないでいるときは、録画予約する前に、複合機器側で録画する機器（HDDやDVDなど）を選んでおいてください。

見ている番組を録画したいときは

1 録画したい番組を見ているときにオプションボタンを押す。

2 ↑/↓で「いますぐ録画」を選んで、決定を押す。

3 「予約確定」が選ばれていることを確認して、決定を押す。

番組が終わると録画は自動で終了します。

「録画方法」を「シンクロ録画」に設定しているときは、本機で録画予約した場合のみメディアレシーバー後面のデジタル放送/ビデオ出力端子から映像信号が出力されます。見ている番組を録画したいときは、必ず、「いますぐ録画」で録画してください。

2 録画予約の設定をする。

1 ↑で設定欄を選んで、決定を押す。

2 ←/→で項目を選んで、↑/↓で設定して、→で次の項目を選ぶ。

録画内容に合わせて必要な設定を行ってください。

日付	録画する日にちを設定できます。
開始時刻	録画開始時刻を設定できます。
終了時刻	録画終了時刻を設定できます。
チャンネル	録画するチャンネルを選べます。
録画先	録画する機器を変更できます。録画したい機器が表示されているか確認してください。 **シンクロ録画/AVマウス**：「録画方法」で選んでいる項目のみ表示されます（☞「設置・接続編」の「録画するための接続」→「録画予約をするための設定をする」）。 **i.LINK**：i.LINK対応機器（HDR、BD、D-VHSのみ）*1をつないでいるときのみ表示されます（☞「設置・接続編」の「i.LINK（アイリンク）機器をつなぐ」）。

*1 HDR、BD、D-VHSについては☞62ページをご覧ください。

3 決定を押す。

4 ↓/←/→で「予約確定」を選んで、決定を押す。

予約完了です。

録画実行中は

- 他のチャンネルやビデオ入力などの外部入力に切り換えて見ることができます。
- リモコンの電源スイッチで電源を切っても録画は継続します。
- メディアレシーバー前面の電源/録画予約/録画ランプが赤色に点灯しているので、録画中であることを確認できます。
- 2画面表示にすると右画面で録画中の映像を見ることができます（☞39ページ）。

録画予約の内容を確認する

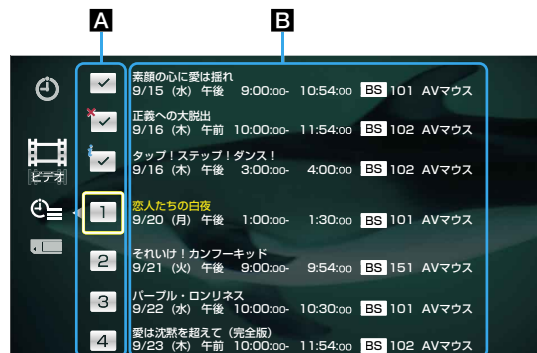
録画予約確認画面で予約の修正や削除ができます。録画予約実行中に、途中で録画を解除することもできます。
予約が重なっていると、正しく実行されないことがありますので、予約を一覧表示して確認してください。

予約を確認する

1 **ホームボタンを押す。**

2 **←/→で「(ビデオ)」を選ぶ。**

3 **↑/↓で「(録画予約確認)」を選んで、決定を押す。**
実行済みのものも含めて、予約が一覧表示されます。

4 **詳細を確認したいときは、↑/↓で予約した番組を選んで決定を押す。**

A 実行済マーク/予約番号（下記参照）

B 予約設定の内容
番組のタイトル、予約日時、チャンネル、録画機器。
くり返し設定をしている予約は、予約の実行が進んでいても設定したときの番組のタイトルが表示されます。

マークの意味

- ：正しく終了した予約。
- ：実行されなかった予約。
  ↑/↓で選んで、決定を押すと表示される詳細で、確認してください。
- ：正しく終了できなかった予約。
  ↑/↓で選んで、決定を押すと表示される詳細で、確認してください。
- ：予約番号。番号の順に実行されます。
- ：録画中の予約。
- ：録画を終了中の予約。録画機器によっては録画を終了するのに多少時間がかかることがあります。
- ：優先設定がされている予約。
- ：重複していて、録画できない予約（☞23ページ）。
- ：くり返し予約の一部に重なりがある予約（☞23ページ）。
- ：重複していて、部分的に録画できない予約（☞23ページ）。

予約を修正する

番組表からの予約は、時間の修正はできません。

1 **録画予約確認画面を表示中に、↑/↓で予約した番組を選んで、決定を押す。**

「予約修正」画面が表示されます。

2 **あらかじめ設定欄が選ばれていることを確認して、決定を押す。**

3 **←/→で項目を選んで、↑/↓で設定して、→で次の項目を選ぶ。**

4 **手順3をくり返して、各項目を修正する。**

5 **決定を押す。**

6 **↓/←/→で「予約確定」を選んで、決定を押す。**

予約を削除する

1 **録画予約確認画面を表示中に、↑/↓で予約した番組を選んで、決定を押す。**

「予約修正」画面が表示されます。

2 **↑/↓/←/→で「予約削除」を選んで、決定を押す。**

3 **←で「はい」を選んで、決定を押す。**

録画予約確認画面に戻ります。

オプションでできること…

(録画予約確認)表示中

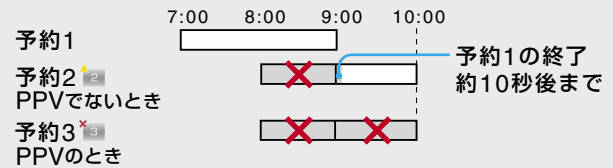
項目	できること
実行履歴の確認	実行済みの予約の履歴を確認します。
実行履歴の全件削除	実行済みの予約の履歴をすべて削除します。
予約修正	選ばれている予約の「予約修正」画面を表示します。
予約削除	選ばれている予約を削除します。
予約優先設定	選ばれている予約の優先設定をしたり、優先設定を取り消したりできます。優先設定がされている予約と重複したときは、優先設定がされている予約が優先して録画されます( )。他の予約が実行中のときも、優先設定がされている予約を優先します( )。

重複している予約はどうなるの？

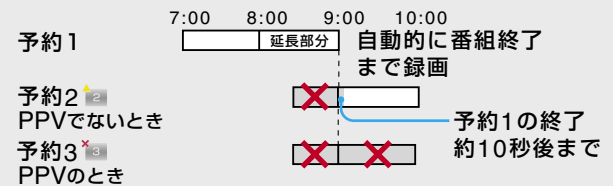
- 下の図で、 の部分は実行されません。
- ペイ・パー・ビュー(PPV)(☞19ページ)は、番組の途中からは録画されず、予約自体が自動的に取り消されます。

放送時刻が重なっているときは？

先に始まる番組(予約1)が優先されます。

あとから始まる番組(予約2)は、予約1の終了約10秒後から録画されます(重複△)。ただし、ペイ・パー・ビュー(予約3)は、予約自体が自動的に取り消されます(重複X)。

前の番組が延長されて、他の予約に重複したときは？

延長された番組(予約1)が自動的に番組終了まで録画されます。

延長により重複した番組(予約2)は、予約1の終了約10秒後から録画されます(重複△)。ただし、ペイ・パー・ビュー(予約3)は、予約自体が自動的に取り消されます(重複X)。

予約が連続しているとき

前の予約の終了時刻と、あとの予約の開始時刻が同じときは、前の予約は終了前の数十秒が録画されません。

開始時刻が同じときは？

次のようになります。

その1：番組表から設定した予約が時間指定予約より優先されます。

その2：番組表から設定した予約のとき

①ペイ・パー・ビューが優先されます。
②地上デジタル、CS1、CS2、BSデジタルの順に優先されます。
③小さいチャンネル番号が優先されます。

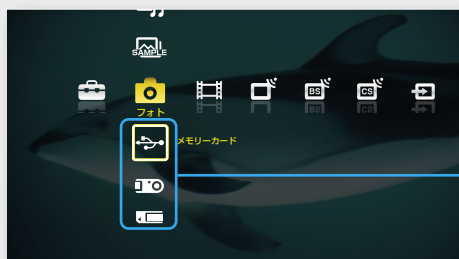
その3：時間指定予約のとき

①地上デジタル、CS1、CS2、BSデジタルの順に優先されます。
②小さいチャンネル番号が優先されます。

静止画を楽しむ

☞“メモリースティック”について☞58ページもご覧ください。
☞USBについて☞60ページもご覧ください。

あらかじめ、“メモリースティック”をメディアレシーバーのメモリースティック挿入口に入れておくかデジタルカメラなどを接続しておいてください(☞25ページ)。

1 ホームを押す。

見たい静止画がある項目を選ぶ

2 ←/→で「(フォト)」を選ぶ。

3 ↑/↓で見たい静止画が保存されている機器や“メモリースティック”を選んで、決定を押す。

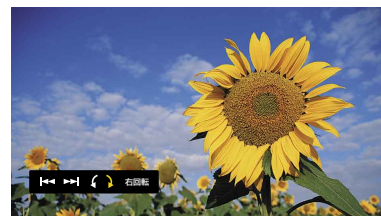
	“メモリースティック”に入っている静止画を見ることができます。
	USBでつないだデジタルカメラに入っている静止画を見ることができます。
	USBでつないだメモリーカードなどに入っている静止画を見ることができます。
SAMPLE	サンプルが表示されます。

4 ↑/↓でフォルダを選んで、決定を押す。

5 ↑/↓で見たい静止画を選んで、決定を押す。
選んだ静止画が画面上に大きく表示されます。

操作パネルで静止画を操作する

静止画表示中にオプションから「操作パネル」を選びます。

←/→で項目を選んで、決定を押します。戻るボタンを押すと、操作パネルが消えます。

選ぶ項目	できること
⏮	前の静止画に送ります。
⏭	次の静止画に送ります。
↻	静止画を右方向に90度回転します。
↺	静止画を左方向に90度回転します。

オプションでできること…

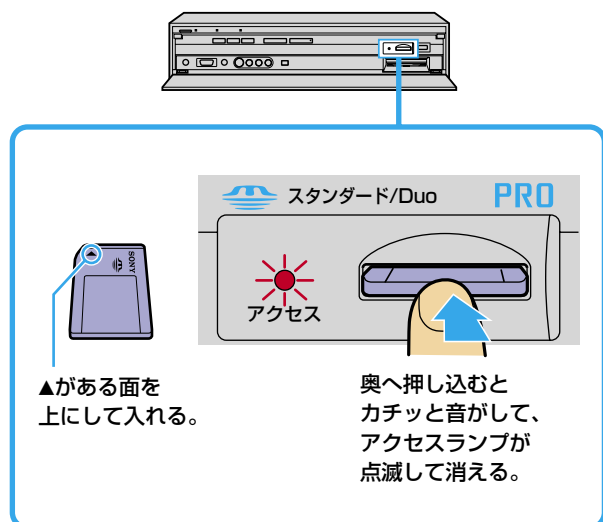
フォルダ*1/サムネイル*2/静止画表示中*3

項目	できること
再生*2	静止画が画面上に大きく表示されます。
右回転*2	静止画が右方向に90度回転します。
左回転*2	静止画が左方向に90度回転します。
保護/保護解除*2	静止画を削除したり回転した状態を保持したりできないようにします。保護されているときは、保護を解除します。
削除*2	静止画を削除します。
情報*1、*2	フォルダや静止画の情報を表示します。
画面情報*3	画面に大きく表示されている静止画の情報を表示します。
操作パネル*3	操作パネルを表示します。表示中は、操作パネルを消します。操作パネルを使って、静止画を操作できます。
画質*3	画質調整の画面を表示します(☞42ページ)。

ご注意

- 表示できないファイルは、下記のように表示されます。
  - ?:表示できない形式のファイル
  - :静止画データが壊れているファイル
  - :ファイルが開けないため表示できないファイル
- 保護されているファイルは、回転した状態を保持したり削除ができません。保護を解除してから行ってください。
- ファイルによっては、大きく表示すると画質が粗くなります。また、サイズによっては大きく表示されません。
- ファイルによっては、大きく表示するときに読み込みに時間がかかるものがあります。

“メモリースティック”の入れかた

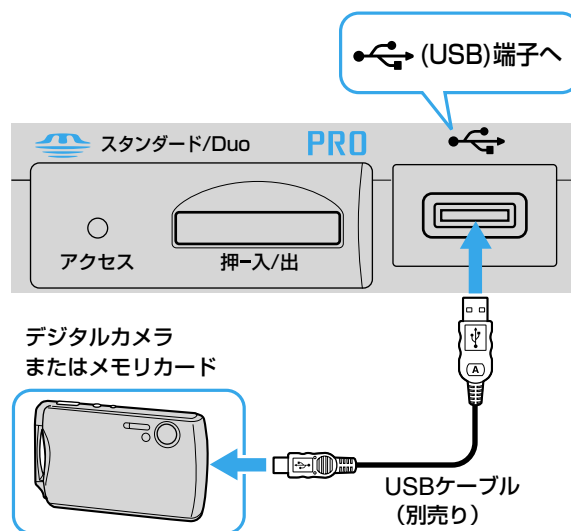
“メモリースティック”をメディアレシーバー前面のメモリースティック挿入口にカチッと音がするまでしっかり入れる。

“メモリースティック”の取り出しかた

アクセスランプが点滅/点灯していないことを確認して、“メモリースティック”を1度奥へ押し込む。

アクセスランプ（赤色に点滅/点灯していないことを確認）　押し込む。

“メモリースティック”が出てきます。

デジタルカメラなどのつなぎかた

デジタルカメラをメディアレシーバー前面の(USB)端子に、USBケーブルでつなぐ。

ソニー製デジタルカメラをUSBでつなぐときは、USB接続の設定を標準（MassStorageモード）にしてください。
USB接続設定について詳しくは、接続機器の取扱説明書をご覧ください。

撮影された画像により近い色で再現するには

サイバーショットなどで撮影された画像を、“メモリースティック”から再生したり、USBでつないで再生するときに、撮影された画像により近い色で再現するには、画質（☞42ページ）を次の設定にしてください。

画質モード	：カスタムプロ
色温度	：1（低）
カラースペース	：ノーマル

ちょっと一言

“メモリースティック デュオ”を本機で使うときは、メモリースティック デュオアダプターをつけずにそのまま挿入してください。

ご注意

- 逆向きに無理に入れると、メモリースティック挿入口が破損することがあります。
- 以下の場合、“メモリースティック”が破損する場合があります。
  - “メモリースティック”のアクセス中に、テレビの電源を切る、または“メモリースティック”を抜く。
  - “メモリースティック”を無理に引き抜く（メディアレシーバーのメモリースティック挿入口も破損する場合があります）。
- 本機はUSBハブには対応していません。
- USBにつないだ機器の動画の再生はできません。

静止画に音楽や効果を組み合わせて楽しむ［ミックスメディア］

☞"メモリースティック"について☞58ページもご覧ください。
☞USBについて☞60ページもご覧ください。

本機や他の録画機器で"メモリースティック"に記録した静止画や、つないだデジタルカメラなどに記録した静止画を、音楽や画面効果と組み合わせて楽しめます。
設定によって音楽や画面効果を変えることができます（☞48ページ）。

1 ホーム を押す。

2 ←/→で「📷（フォト）」を選ぶ。

3 ↑/↓で「（ミックスメディア）」を選んで、決定を押す。

4 ↑/↓で見たい静止画が保存されている機器や"メモリースティック"を選んで、決定を押す。

（メモリースティック）	"メモリースティック"に入っている静止画を見ることができます。
（デジタルカメラ）	USBでつないだデジタルカメラに入っている静止画を見ることができます。
（USB）	USBでつないだメモリーカードに入っている静止画を見ることができます。
SAMPLE	サンプルが表示されます。

5 ↑/↓で見たい静止画の入っているフォルダを選んで、決定を押す。

操作パネルでミックスメディアを操作する

ミックスメディア再生中にオプションから「操作パネル」を選びます。
←/→で項目を選んで、決定を押します。戻るボタンを押すと、操作パネルが消えます。

選ぶ項目	できること
►	再生を始めます。
❚❚	一時停止します。
■	停止して、フォルダ一覧表示に戻ります。

オプションでできること…

フォルダ表示中*1/ミックスメディア再生中*2

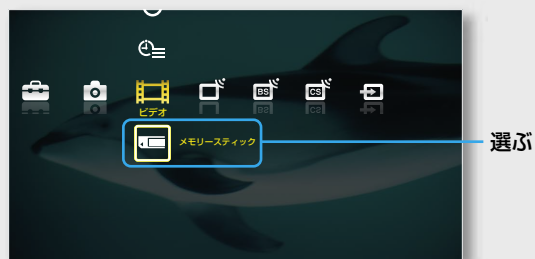
項目	できること
情報*1	フォルダの情報を表示します。
操作パネル*2	操作パネルを表示します。表示中は、操作パネルを消します。操作パネルを使って、ミックスメディアを操作できます。
画質*2	画質調整の画面を表示します（☞42ページ）。
画面情報*2	画像の情報を表示します。

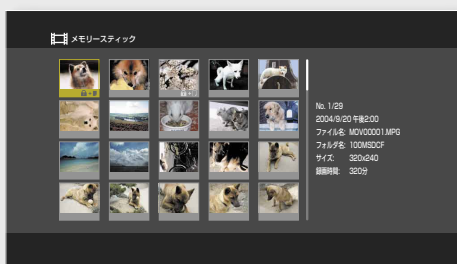
ビデオ

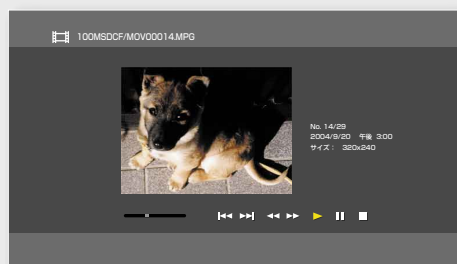
動画を楽しむ[ムービープレーヤー]

☞"メモリースティック"について☞58ページもご覧ください。

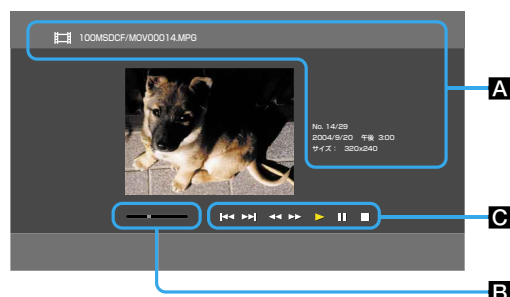
デジタルビデオカメラレコーダーなどで"メモリースティック"に録画/撮影した動画を再生できます。

1 ホームを押す。

2 ←/→で「(ビデオ)」を選ぶ。

3 ↑/↓で「(メモリースティック)」を選んで、決定を押す。

4 ↑/↓/←/→で見たい動画を選んで、決定を押す。

再生が始まります。

表示マークの意味

- : 表示できない画像形式のファイル
- : 動画データが壊れている
- : ファイルが開けないため表示できないファイル
- : 保護されているファイル
- +: 関連ファイル
  表示されているファイルの他に、ファイル名の下4桁が同じファイルが存在し、それらが表示されていないことを示しています。削除すると、それらのファイルも同時に削除されます。

ムービープレーヤーを操作する

A 情報表示部

再生中の画像情報を表示します。

B 再生位置/総時間

C 操作パネル

ムービープレーヤーを操作します。リモコンの←/→で選んで、決定を押します。
リモコンのボタンで直接操作することもできます。

項目/ボタン	できること
►	再生を始めます。
■/II	停止して、動画サムネイルに戻ります/一時停止します。
►►/◄◄	決定を押している間、早送り再生/早戻し再生します。決定を押し続けると再生スピードが速くなります。
►►I/I◄◄	次の動画へ進みます/見ている動画の先頭に戻ります。

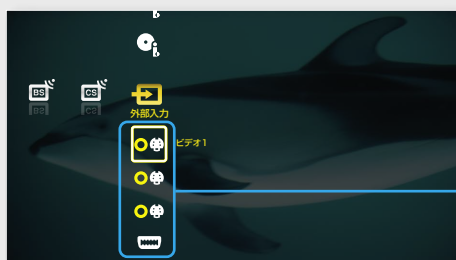
オプションでできること…

サムネイル表示中*1/動画再生中*2

項目	できること
フォルダ選択*1	フォルダ一覧を表示します(ファイルが2001枚以上あるときのみ)。
再生*1	動画を再生します。
保護/保護解除*1	動画を削除できないようにします。保護されているときは、保護を解除します。
削除*1	動画を削除します。
画質*2	画質調整の画面を表示します(☞42ページ)。
音質*2	音質調整の画面を表示します(☞44ページ)。
音声切換*2	再生中の動画の音声を切り換えます。

外部入力

ビデオ機器の映像を見る

1 ホーム を押す。

2 ←/→で「（外部入力）」を選ぶ。

3 ↑/↓で見たい入力を選んで、決定を押す。

	ビデオ1～3入力につないだ機器の映像に切り換わります。
	コンポーネント1、2入力につないだ機器の映像に切り換わります。
	コンポーネント3、4入力につないだ機器の映像に切り換わります。
	HDMI1、2入力につないだ機器の映像に切り換わります。

オプションでできること…

ビデオ機器の映像を視聴中

項目	できること
画面メモ*1	メモ画面を表示します。
2画面	2画面表示にします（☞39ページ）。
画質	画質調整の画面を表示します（☞42ページ）。
音質	音質調整の画面を表示します（☞44ページ）。
画面モード	画面モードを設定する画面を表示します（☞40ページ）。

*1 ビデオ1～3入力のみ

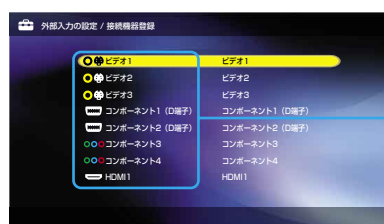
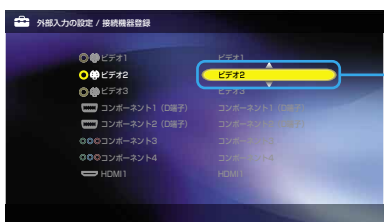
外部入力機器の名前やアイコン表示を変える

ホームメニューに表示される入力端子の名前やアイコンをつないだ機器に合わせて変更できます。「使わない」を選ぶと、ホームメニューに表示されなくなり、入力切換ボタンを押しても切り換えられなくなります。

例：ビデオ2入力にDVD一体型ビデオをつないだときに、名前を「DVD･VHS」に変更する。

1 ホームボタンを押す。

2 ←/→で「(設定)」を選ぶ。

3 ↑/↓で「(外部入力)」を選んで、決定を押す。

4 ↑/↓で「接続機器設定」を選んで、決定を押す。

5 ↑/↓で「ビデオ2」を選んで、決定を押す。

6 ↑/↓で「DVD･VHS」を選んで、決定を押す。

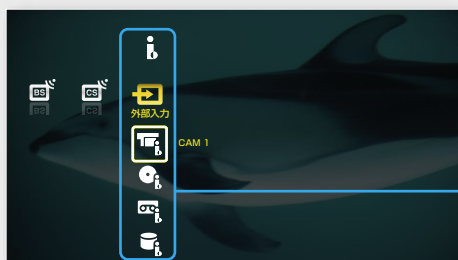
「接続機器設定」変更後のホームメニュー

アイコンの種類

アイコン	名前
	CATVチューナー、地上デジタルチューナー、BS･110度CSデジタルチューナー、地上･BS･110度CSデジタルチューナー、デジタルCSチューナー
	VHS、Hi8(8mm)、D-VHS、ベータマックス、DV
	DVD、ブルーレイディスクレコーダー、レーザーディスク
	DVD･VHS、HDD･DVD、DV･VHS、Hi8(8mm)･VHS
	HDD
	AVアンプ
	カムコーダー
	ゲーム

i.LINKでつないだ機器の映像を見る

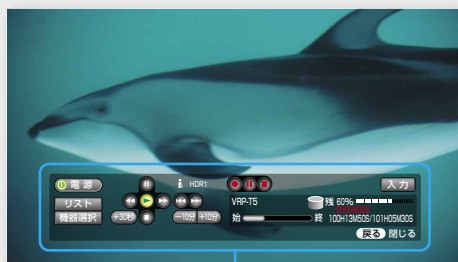
☞i.LINKについて☞61ページもご覧ください。

1 ホーム を押す。

2 ←/→で「(外部入力)」を選ぶ。

3 ↑/↓で見たい機器を選んで、決定を押す。

HDR	HDRのi.LINK操作パネルが表示されます。
BD	BDのi.LINK操作パネルが表示されます。
D-VHS	D-VHSのi.LINK操作パネルが表示されます。
CAM	CAMのi.LINK操作パネルが表示されます。デジタルビデオカメラレコーダーのときは、電源が入っていないとアイコンは表示されません。
i	上記の4種類の機器以外のi.LINK対応機器のi.LINK操作パネルが表示されます。

アイコンは機器をつないでいるときのみ表示されます。

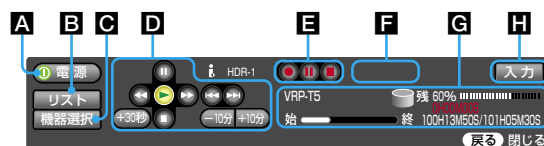
4 i.LINK操作パネルで、再生や録画の操作をする。

i.LINK操作パネル

- リモコンを開いても操作できます。

リモコンの表示窓に「TV」を表示させてください。

i.LINK操作パネルについて

あらかじめ、i.LINK対応機器の接続を行っておいてください(☞「設置・接続編」の「i.LINK(アイリンク)機器をつなぐ」)。

例:HDRのi.LINK操作パネル

A 「電源」ボタン*[1]
LINC中のi.LINK機器の電源を入/切します(電源が入っているときは、左のランプが緑色に点灯します)。

B 「リスト」ボタン*[2]
LINC中のi.LINK対応機器に録画された番組のリストを表示します(☞31ページ)。

C 「機器選択」ボタン
「接続機器選択」画面に切り換え、接続(LINC)機器を選びます。詳しくは☞「設置・接続編」の「i.LINK(アイリンク)機器をつなぐ」→「i.LINK対応機器の設定をする」をご覧ください。

D 再生用操作ボタン(☞31ページ)

E 録画用操作ボタン*[1](☞32ページ)

F 録画中/録画予約中チャンネル*[1]
本機以外から録画しているときは「本機以外からの録画中」と表示されます。

G 機器情報表示部

接続機器の状態

:ハードディスクレコーダー(HDR)
:ブルーレイディスクレコーダー(BD)
:D-VHS、デジタルビデオカメラレコーダー
、、:停止時
、、(回転):録画時
、、(点滅):録画一時停止時
、、(回転):再生時
、、(点滅):再生一時停止時
:録画/再生同時動作中
:ディスクがロックされている
表示無し:電源が入っていない、ディスクやテープが入っていない

残り容量*[2]

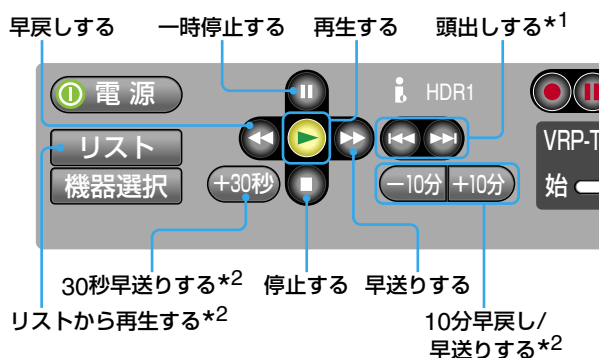
残 60%
空容量　記録済容量

H 「入力」/「出力」ボタン
入力:i.LINK対応機器が出力する映像/音声が表示されます。また、デジタルビデオカメラレコーダーで撮影中は、その映像が本機の画面に表示されます。本機のデジタル放送を録画しているのではありません。
出力:(接続機器表示で「OTHER」と表示される機器のみ)本機で視聴中のデジタル放送のデータをi.LINK対応機器へ出力します。

*[1] HDR、BD、D-VHSのみ
*[2] HDR、BDのみ

デジタル再生する

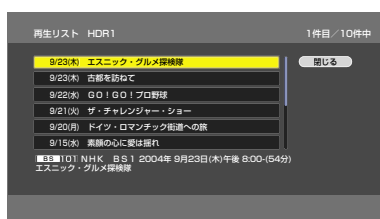
再生用操作ボタンについて

リモコンのボタンでも操作できます。その場合はリモコンの表示窓に「TV」を表示させてください。

*1 HDR、BD、D-VHSのみ
*2 HDR、BDのみ

リストから再生するには

ハードディスクレコーダーまたはブルーレイディスクレコーダーに録画した番組を、リストから選んで再生できます。

1 **i.LINK操作パネルを表示中に、↑/↓/←で「リスト」ボタンを選んで、決定を押す。**
「再生リスト」画面が表示されます。

2 **↑/↓/←で再生したい番組を選んで、決定を押す。**
再生が始まります。

「再生リスト」画面のマークの意味

●:録画中の番組
:ムーブが中断された番組(HDRのみ)
:削除禁止にしている番組
:コピープロテクションにより、番組の一部がダビングできない番組(HDRのみ)
:ダビングできる番組(HDRのみ)

オプションでできること…

i.LINK再生中

i.LINK操作パネル表示中はオプションは表示できません。

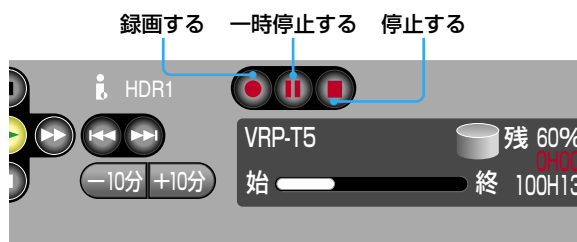
項目	できること
番組説明	i.LINKで視聴中の番組の番組説明を表示します。ただし、「サービスタイプ」や「コピーコントロール」などの番組情報は表示されません。
i.LINK操作パネル	i.LINK操作パネルを表示します。
2画面	2画面表示にします(☞39ページ)。
字幕切換	字幕の言語が切り換わります(☞19ページ)。

「再生リスト」画面表示中(HDRとBDのみ)

項目	できること
再生	選んでいる番組を、前回再生した位置から再生します。
初めから再生	選んでいる番組を、初めから再生します。
削除	選んでいる番組を削除します。
ダビング*3	「ダビング·ムーブする」(☞33ページ)をご覧ください。
ムーブ*3	「ダビング·ムーブする」(☞33ページ)をご覧ください。

*3 HDRのみ

次のページにつづく⇨

デジタル録画する

録画する前に

- 地上アナログ放送は録画できません。
- デジタル放送を録画予約するときは、☞20ページをご覧ください。
- デジタル放送は、デジタルビデオカメラレコーダーなどつないだ機器によっては録画できないことがあります。
- 操作する前に、録画先の機器の準備をしてください。

録画実行中は

チャンネルを切り換えたりビデオ入力などの映像を見ることができます。また、メディアレシーバー前面の電源/録画予約/録画ランプが赤色に点灯しているので、録画中であることを確認できます。
i.LINK操作パネルで録画中は、リモコンやメディアレシーバーの電源スイッチで、電源を切らないでください。

ハードディスクレコーダーに録画中に再生する

同時録再

ハードディスクレコーダーに録画した他の番組をリストから再生します（☞31ページ）。

追いかけ再生

録画中の番組を再生します。i.LINK操作パネルで▶を選んで決定を押します（☞31ページ）。録画中の番組を初めから再生します。

同時録再、追いかけ再生ができるのは

ソニー製ハードディスクレコーダー VRP-T1/VRP-T3/VRP-T5のみです（2005年2月現在）。

ダビング・ムーブする

ダビング

ハードディスクレコーダーに記録した「デジタル録画可」の番組を、i.LINKを搭載したD-VHSなどにコピーすることです。

ムーブ

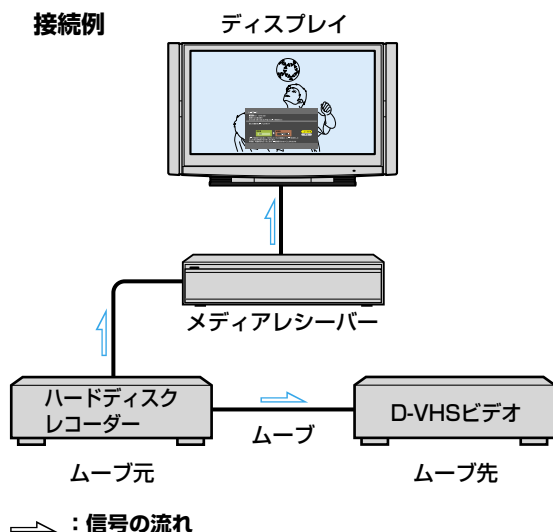
ハードディスクレコーダーに記録した番組を、i.LINKを搭載したD-VHSなどに移動することです。

以下のハードディスクレコーダーとの組み合わせでのみムーブできます（2005年2月現在）。
ソニー製ハードディスクレコーダー VRP-T5
推奨ムーブ先機種
日本ビクター製デジタルハイビジョンビデオ
HM-DHX2、HM-DHX1、HM-DHS1、HM-DH35000（生産完了品）

ダビングやムーブを行う前に

- メディアレシーバー以外の機器からのハードディスクレコーダーへのLINCを解除してください。
- D-VHSにオートリンク機能があるときは、「切」にしてください。
- D-VHSテープの頭出しをしておいてください。

ムーブを行う前に

ムーブを始めるとハードディスクレコーダーに録画されていた元の番組は、ムーブしたところまで消去されますので、あらかじめムーブ先のテープの残量などを確認してからムーブを始めてください。

1 ホームボタンを押して、←/→で「(外部入力)」を選ぶ。

2 ↑/↓でダビングまたはムーブしたい番組が録画されている「(HDR)」を選んで、決定を押す。

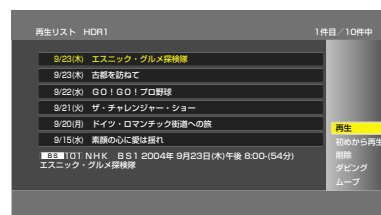
i.LINK操作パネルが表示されます。

3 ↑/↓/←で「リスト」ボタンを選んで、決定を押す。

「再生リスト」画面が表示されます。

4 ↑/↓/←でダビングまたはムーブしたい番組を選んで、オプションボタンを押す。

5 ↑/↓で「ダビング」または「ムーブ」を選んで、決定を押す。

「ダビングモード」または「ムーブモード」画面が表示されます。

次のページにつづく⇨

ご注意

- ムーブを一時中断して再開することもできますが、その場合は中断したときの映像/音声が一部途切れます。
- ムーブ中の映像は表示されません。

6 **←で「録画機」を選んで、決定を押す。**

「ダビングモード」画面

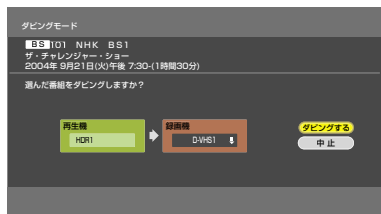
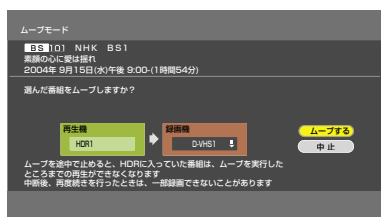
「ムーブモード」画面

7 **↑/↓で録画する機器を選んで、決定を押す。**

8 **→で「ダビングする」または「ムーブする」を選んで、決定を押す。**

「ダビング（ムーブ）できるか確認中です」とメッセージが表示されたあと、ダビングまたはムーブが始まります。

ダビングまたはムーブ中は

チャンネルを切り換えたりビデオ入力などの映像を見ることができます。また、ダビング中はそのままダビングしている映像を見ることもできます。
また、メディアレシーバー前面の電源/録画予約/録画ランプが赤色に点灯しているので、ダビングまたはムーブ中であることを確認できます。
メディアレシーバーの電源スイッチで、主電源を切らないでください。

ダビングやムーブが中断されたときは

「ダビングモード」または「ムーブモード」画面表示中は、画面にエラーメッセージが表示され、キャンセルメールが発行されます。画面を表示していなかったときは、ダビングまたはムーブが正しく実行されたかをメール（☞16ページ）で確認してください。

ダビングやムーブが終了すると

「再生リスト」画面に戻ります。

ダビングやムーブを途中で止めるときは

「ダビングモード」または「ムーブモード」画面で「停止する」を選びます。

ちょっと一言

i.LINK再生中の番組を選んだときは、番組の先頭に戻ってダビングまたはムーブが始まります。

パーソナルコンピューター(PC)の映像を見る

1 ホーム を押す。

2 ←/→で「(外部入力)」を選ぶ。

3 ↑/↓で「(PC)」を選んで、決定を押す。

PC	PC入力につないだパーソナルコンピューターの映像に切り換わります。

パーソナルコンピュータ(PC)入力の設定をする☞50ページもご覧ください。

オプションでできること…

PC入力の映像を表示中

項目	できること
画質	画質調整の画面を表示します(☞50ページ)。
音質	音質調整の画面を表示します(☞50ページ)。
各種設定	表示についての設定ができます(☞50ページ)。

画質や音質、表示の設定および対応入力信号については「パーソナルコンピューター(PC)入力の設定をする」(☞50ページ)をご覧ください。

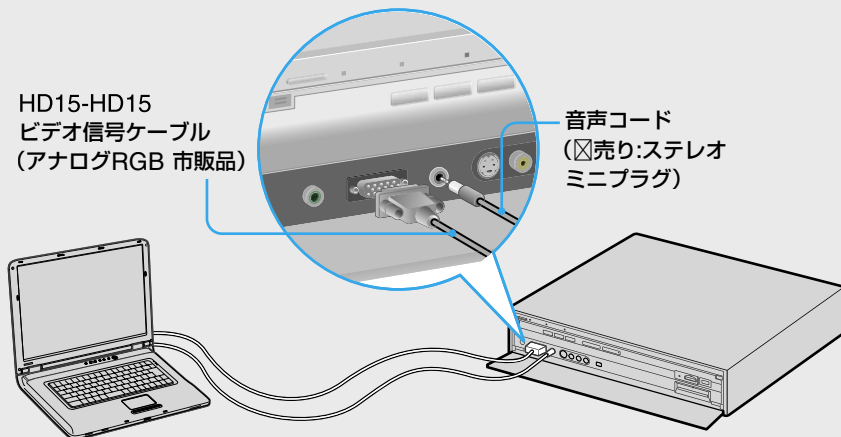
PC入力から他の入力信号に切り換えるには

ホームボタンを押すとホームメニューが表示されます。ホームメニューでお好みの入力を選んでください。

パーソナルコンピューターをつなぐには

メディアレシーバーを別売りのビデオ信号ケーブルでパソコンにつなぐと、本機の大画面にパソコンの画面を映し出すことができます。また、別売りの音声コードをつなぐと、ディスプレイのスピーカーでパソコンの音声を楽しめます。

Macintoshコンピューターにつなぐときは

コンピューターの出力端子につなぎます。また、必要に応じて市販のアダプターをお使いください。アダプターは先にコンピューターに差し込んでから、ビデオ信号ケーブルにつなぎます。

本機につないだ機器の映像を見る

本機のリモコンで他機器を操作する

本機のリモコンで、本機につないだ機器も基本的な操作ができます。あらかじめ機器を登録しておいてください。
本機を操作するときは表示窓に「TV」を表示させてください。

本機のリモコンで操作できる機器

リモコンの表示	登録する機器
VTR	ビデオ、DVD一体型ビデオ
DVD	DVDプレーヤー、DVDレコーダー、DVD一体型ビデオ
HDD/DVD	ハードディスクレコーダー·DVDレコーダー複合機、ソニー製ハードディスクビデオレコーダー、ソニー製チャンネルサーバー
BD	ソニー製ブルーレイディスクレコーダー
AV AMP	ソニー製AVアンプ

「VTR」などリモコンの機器表示に関わらず、すべての種類の機器を登録できます。
例：「VTR」にソニー製のビデオを設定し、「DVD」に他社製ビデオを設定するなど。

本機につないだ機器を登録する

1 **操作切換▲/▼ボタンを押して、「TV」以外の機器を表示させる。**

リモコンの表示窓
例：「VTR」に登録するとき　VTR

2 **メモボタンを押す。**

バックライトが点灯します。

3 **バックライトが点灯している間に、数字ボタンで3桁のリモコンコードを入力して、決定を押す。**

リモコンコードについては次ページのリモコンコード表をご覧ください。

4 **電源スイッチを押して、機器の電源が入るか確認する。**

リモコンを機器に向けて操作してください。

ご注意

ソニー以外のメーカーの複合機器を登録するときは、電源スイッチを押す前に機器1ボタンを押さないと電源が入らないものもあります。

本機につないだ機器の映像を見る

リモコンコード表

メーカー	ビデオ	DVDプレーヤー	DVD一体型ビデオ	ハードディスクレコーダー・DVDレコーダー複合機/DVDレコーダー
ソニー	001 002 003*1 004 005 006	101*1	201	305*1 306 307 308
松下	010 011 012 013 014	102		401 402 403
東芝	015 016 017 018	103		404 405 406
日立	019 020 021 022	104	202	
三菱	023 024 025 026	105		
日本ビクター	027 028 029 030 031 032	106	203 204 205 206	
サンヨー	033 034 035 036		207	
アイワ*2	037 038 039 040 049	107	208	
シャープ	041 042 043	108		
フナイ	044		209	
NEC	045 046 047 048			
パイオニア		109 110		407 408 409
フィリップス		111		
RCA		112		
デノン		113 114		
ヤマハ		115		
SAMSUNG		116	210	
オンキョー		117		

メーカー	ハードディスクレコーダー	ブルーレイディスクレコーダー	AVアンプ	PSX
ソニー	301 302 303 304	501*1 502 503	601 602 603*1 604	701 702 703

*1 お買い上げ時の設定です。
*2 アイワのリモコンコードを設定しても操作できないときは、ソニーのリモコンコードで登録してください。

次のページにつづく⇨

ご注意

- DVDプレーヤー内蔵のソニー製AVアンプは、機種によってはDVDプレーヤーをリモコンの表示の「DVD」に、AVアンプを「AV AMP」に別々に登録しなくてはならないものがあります。
- リモコンの電池を取り出したり、電池が寿命になると、設定した内容は消えて、お買い上げ時の設定に戻ります。もう1度設定し直してください。
- 本機のリモコンでは、機器の基本的な操作ができますが、機器によっては操作できない機能があります。そのような場合は機器に付属のリモコンで操作してください。
- 本機のリモコンのボタンに対応する機能が機器にない場合は、そのボタンは働きません。

ちょっと一言

リモコンコードを正しく入力していても、機器によっては操作できないものもあります。そのような場合は機器に付属のリモコンで操作してください。

本機のリモコンで他機器を操作する（つづき）

本機のリモコンで、本機につないだ機器を操作する

1 **機器に必要な準備をする。**

機器の電源をつなぐなどの準備をしてください。

2 **操作切換▲/▼ボタンを押して、操作する機器を表示させる。**

DVD一体型ビデオなどの複合機器を操作するときは、手順3に進んでください。
複合機器以外の機器を操作するときは、手順4に進んでください。

3 **機器1ボタンまたは機器2ボタンを押して、操作する機器を切り換える。**

DVD一体型ビデオのときは
機器1ボタン：ビデオを操作できます。
機器2ボタン：DVDを操作できます。
ハードディスクレコーダー・DVDレコーダー複合機のときは
機器1ボタン：DVDを操作できます。
機器2ボタン：ハードディスクレコーダーを操作できます。
複合機器によっては、機器1または機器2ボタンで操作できる機器が上記と逆になることがあります。

ご注意
複合機器によっては、機器1または機器2ボタンを押しても、操作できる機器を切り換えられないものがあります。そのような場合は機器に付属のリモコンで操作してください。

4 **リモコンを本機につないだ機器に向けて操作する。**

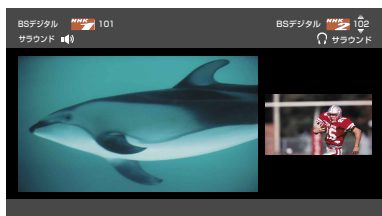
コントロールSで他機器を操作する

ビデオなどを遠くから操作する
コントロールS入力端子のあるソニー製の機器をディスプレイから離れた場所に設置したときなどは、メディアレシーバーのコントロールS出力端子とつないでおけば、機器のリモコンをディスプレイに向けて、機器を操作できます。
複数の機器を同時に操作する
コントロールS端子のあるソニー製のモニターなどを何台もつないで、同時に操作できます。

ご注意
- 本機を操作するときはリモコンの表示を「TV」にしてください。
- メディアレシーバーの電源スイッチで電源を切っているときは、コントロールSで機器を操作することはできません。
- コントロールS接続コードとAVマウスを同時につなぐと、どちらかが動作しなくなる場合があります。そのときは、使わないほうを取りはずしてください。

2画面で楽しむ

2画面で別々の画面を同時に見ることができます。

1 2画面ボタンを押す。

2 2画面ボタンを押して、1画面に戻す。

したいこと	操作
画面サイズをかえる	**←/→を押す。** 大きくしたい側に←/→を押し続け、希望のサイズになったら指を離します。
操作する画面を選ぶ	**←/→を押す。** 操作画面と逆向きに←/→を押します。操作画面と同じ向きに←/→を押すと、画面サイズが切り換わってしまいます。

- リモコンを開いて使います。

メディアレシーバー後面の端子から出力される信号について

- **デジタル放送/ビデオ出力端子**
  右画面の映像と音声を出力する。
- **光デジタル音声出力端子/音声出力端子（5kΩ）（固定）**
  スピーカーから聞こえる音声を出力する*1。

*1 ヘッドホンをつなぐと、音声が出力されなくなります。2画面で「ヘッドホンモード2」にしているときはスピーカーから聞こえている音声が出力されます。カセットデッキなど録音機器をつないでいるときは、ご注意ください。

オプションでできること…

2画面表示中

項目	できること
録画停止*2	録画を停止します。
1画面	1画面表示にします。
ヘッドホンモード	**ヘッドホンモード1**： ヘッドホンをつなぐと、スピーカーの音声が出なくなり、操作画面の音声がヘッドホンで聞けます。 **ヘッドホンモード2**： 操作画面に関係なく、スピーカーとヘッドホンで別々の音声を固定して聞けます。
画質	画質調整の画面を表示します（☞42ページ）。
音質	音質調整の画面を表示します（☞44ページ）。
画面モード	画面モードを設定する画面を表示します（☞40ページ）。

*2 録画中のみ

ちょっと一言

- 操作画面でない画面のチャンネルは、↑/↓でかえられます。
- コンポーネント1～4やHDMI1、2、i.LINK、および左画面と同じビデオ入力は、右画面に表示できません。また、"メモリースティック"やUSB、PC入力のときは、2画面になりません。

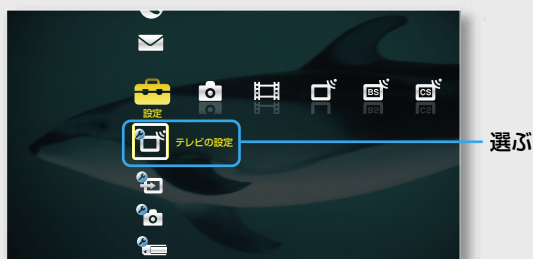
ご注意

録画中は、右画面に録画中の映像が表示されます。その場合は右画面のチャンネル切換や入力切換はできません。

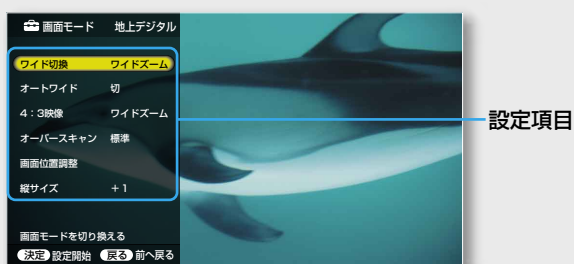
設定

ワイド画面で楽しむ

放送や入力ごとに、別々に設定できます。
ワイド画面は、手動でも自動でも切り換えられます。

1 ホームを押す。

2 ←/→で「(設定)」を選ぶ。

3 ↑/↓で「(テレビの設定)」を選んで、決定を押す。

4 ↑/↓で「画面モード」を選んで、決定を押す。

5 ↑/↓で設定したい項目を選んで、決定を押す。

手動でワイド画面を切り換える*1

「ワイド切換」を選ぶ。

選択項目：ワイドズーム/ズーム/字幕入/フル/ノーマル

*1 リモコンのワイド切換ボタンでも、切り換えられます。

オートワイドの機能とは別に、手動でお好みの画面モードに切り換えられます。画面が変わるたびに画面サイズが切り換わるのが気になるときは、あらかじめ、「オートワイド」(下記)を「切」に設定し、手動でお好みの画面モードを選んでください。

自動でワイド画面を楽しむ/ワイド画面モードの自動切換を切る

「オートワイド」を選ぶ。

1：識別制御信号が放送局から送られているときのみ、最適な画面モードに自動的に切り換えます。

2：(**お買い上げ時の設定**)識別制御信号の有無に関係なく、最適な画面モードに自動的に切り換えます。

切：画面モードは自動的には切り換わらなくなります。「ワイド切換」でお好きな画面モードを選んで固定できます。

その他の設定項目

選ぶ項目	できること
4:3映像	オートワイド「2」のときに4:3映像をどのように表示するかの設定です。 **ノーマル**：4:3映像をそのまま表示します。 **ワイドズーム**：4:3映像をワイドズームで表示します。
オーバースキャン	**＋1または＋2**：オリジナルの映像の画欠けを見えなくします。 **標準**：標準の画サイズで表示します。
画面位置調整 **縦サイズ**	画面の上下が欠けたり、字幕が入りきらないときに調整してください。 「ワイドズーム」、「ズーム」、「字幕入」の画面モードごとに設定できます。

- リモコンを開いて使います。

ワイド切換ボタン

ちょっと一言

番組情報が表示されているときや視聴している番組によっては、ワイド切換できないことがあります。

オートワイドの働きかた

オートワイドには、「1」と「2」があります。下の例は、オートワイド「2」で、「4:3映像」を「ワイドズーム」に設定しているときです。

A:地上アナログ、D:デジタル放送、外:外部入力(PC入力を除く)

オリジナルの映像(映像の種類)	画面モード	オートワイドの映像
A 通常のテレビ(地上アナログ)放送(横縦比4:3) D 標準テレビ信号SDの4:3映像 外 識別制御信号が入っていない横縦比4:3の映像	ワイドズームになる	オリジナルの映像を違和感少なく画面いっぱいに拡大します。
D デジタルハイビジョン信号HDのサイドパネル16:9映像(画面左右の黒帯を除いた映像部分は4:3)	ワイドズームになる	画面の左右の黒帯をカットして、オリジナルの映像を違和感少なく画面いっぱいに拡大します(画面上部に番組情報などが表示されている間はフル画面表示に切り換わります)。
A 外 ビスタビジョンなど映像中に字幕が入った横長の映画(横縦比1.85:1) D 標準テレビ信号SDのレターボックス4:3映像(画面上下の黒帯を除いた映像部分は16:9)で、識別制御信号のあるとき	ズームになる	画面の左右に合わせていっぱいに拡大します。(映像の種類によって、上下に黒い帯が残ることがあります。)
A 外 シネマビジョンなど映像の外に字幕のある横長の映画(横縦比2.35:1)	字幕入になる	画面の左右に合わせていっぱいに拡大しながら、字幕部分だけを圧縮して画面に入れます。
外 横縦比を16:9にする識別制御信号が入ったビデオカメラやDVDソフトなどの映像(ID-1方式やS2方式)	フルになる	天地はそのままで、左右を画面いっぱいに引き伸ばします。
D デジタルハイビジョン信号HDまたは標準テレビ信号SDの16:9映像		オリジナルの映像をワイド画面いっぱいに表示します。
A D 「オートワイド」を「2」、「4:3映像」を「ノーマル」に設定したとき(☞40ページ)(デジタルハイビジョン信号HDを除くすべての映像) 外 横縦比を4:3にする識別制御信号が入ったテレビ放送、ビデオカメラやDVDソフトなどの映像(ID-1方式やS2方式)		オリジナルの映像を拡大せずに、横縦比4:3のままの映像にします。

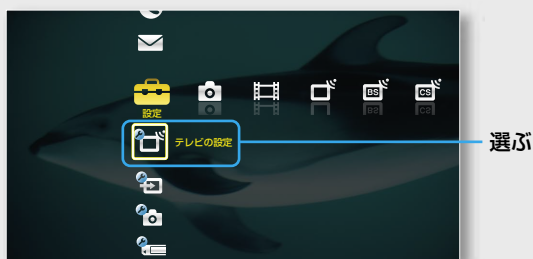
ご注意

- 本機を営利目的、または公衆に視聴させることを目的として喫茶店、ホテルなどに置き、画面モード切り換え機能等を利用して画面の圧縮や引き伸ばし等を行いますと、著作権法上で保護されている著作者の権利を侵害する恐れがありますので、ご注意願います。
- ワイド映像でない従来の4:3の映像を、ワイドズームモードを利用してテレビの画面いっぱいに表示してご覧になると、周辺画像が一部見えなくなったり変形して見えたりします。制作者の意図を尊重したオリジナルな映像はノーマルモードでご覧になれます。
- オートワイド「2」のときは、CMが入ったり番組が変わったりするときなどに、画面サイズが変わって不自然に見えたり、変わるまでに数秒間かかったりすることがあります。

映像を調整する

1 画質を調整したい放送や入力に切り換える。

2 ホーム を押す。

3 ←/→で「(設定)」を選ぶ。

4 ↑/↓で「(テレビの設定)」を選んで、決定を押す。

5 ↑/↓で「画質」を選んで、決定を押す。

6 ↑/↓で設定したい項目を選んで、決定を押す。

画質モードを設定する

選ぶ項目	できること
ダイナミック	映像の輪郭とコントラストを重視した鮮やかな映像（お買い上げ時の設定）。
ナチュラル	ご家庭でのご使用に合わせた、自然さを重視した標準的な映像。**通常は「ナチュラル」をおすすめします。**
カスタムプロ	輪郭強調とコントラストを抑え、DRCの性能をより引き出した、オリジナルにできるかぎり忠実な映像。より細かく調整できます。

すべての画質モードで調整できる項目

選ぶ項目	できること
DRC-MFモード切換	**モード1**：地上アナログやビデオ、デジタル放送の525i（480i）標準テレビ信号 SD や1125i（1080i）ハイビジョン信号 HD など、一般的な映像のときに選びます。 **モード2**：文字や画像、細かい横線が多い映像で、部分的な映像のゆれやチラツキが気になるときに選びます。
ブロックノイズリダクション	マス目状に画面が乱れるときに補正し、ノイズを軽減します。
シネマドライブ	映画フィルムをより忠実でなめらかな動きのある映像に再現します。輪郭がギザギザして見えるときは、「切」にしてください。

- リモコンを開いても設定できます。

「ナチュラル」と「カスタムプロ」で調整できる項目

選ぶ項目	←を押すと	→を押すと
ピクチャー	明暗の差が小さくなる	明暗の差が大きくなる
明るさ	暗くなる	明るくなる
色の濃さ	薄くなる	濃くなる
色あい	赤みがかる	緑がかる
シャープネス	映像の輪郭が柔らかくなる	映像の輪郭がくっきりする
	できること	
DRC-MF パレット	映像のくっきり（リアル感）とすっきり（ざらつき感）を調整します。 ノイズが多いときは「すっきり」を上げてください。	
カラースペース	色再現域を切り換えることができます。「**ワイド**」と「**ノーマル**」のそれぞれで、色再現域を切り換えます。	

「カスタムプロ」でのみ調整できる項目

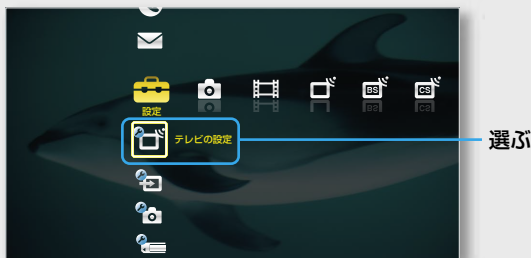
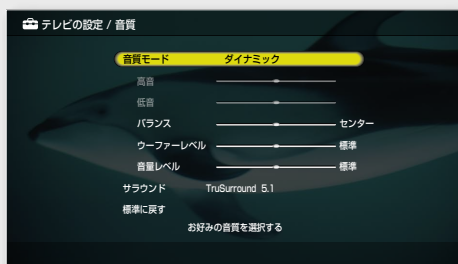
選ぶ項目	できること
ダイレクト	輪郭強調を抑えて、デジタルノイズを軽減します。
H（ハイパー）ホワイト	白の鮮明さを強調します。
色補正	美しく健康的な肌色を再現したり色を鮮やかに再現したりします。
黒補正	黒を強調してコントラストを強くします。
ガンマ補正	映像の明暗部分のバランスを調整します。
デジタルテクスチャーエンハンサー	映像の明暗の差を強調します。
ディテール強調	映像の微妙な部分を強調します。
NR（ノイズリダクション）	「**弱**」、「**中**」、「**強**」：映像のざらつきや色ノイズを軽減します（ゴーストなど電波障害は軽減されません）。 「**切**」：**通常は「切」にしておいてください。**元の映像信号（処理していないオリジナル信号）の状態を確認できます。ただし、映像のざらつきや色ノイズが強調されたり、色にじみが出ることがあります。
色温度	「**4（高）**」から「**1（低）**」にしていくと赤みがかった暖かみのある色調になります。
Rゲイン～Bバイアス	色温度を色ごとに細かく調整します。
シネマブラックプロ	アイリス（絞り）を調整します。 黒が引き締まり、コントラストがよくなります。

音質を調整する

放送や入力ごとに、別々に設定できます。

1 音質を調整したい放送や入力に切り換える。

2 ホーム を押す。

3 ←/→で「(設定)」を選ぶ。

4 ↑/↓で「(テレビの設定)」を選んで、決定を押す。

5 ↑/↓で「音質」を選んで、決定を押す。

6 ↑/↓で設定したい項目を選んで、決定を押す。

ちょっと一言

ディスプレイ後面に内蔵されているウーファースピーカーから低域音が再生されます。音質モードやディスプレイの壁からの設置距離などによっては低域感が強く出る場合があります。その場合には、ウーファーレベルを調整してください。

ご注意

ヘッドホンの音質は調整できません。ヘッドホンの音で調整すると、実際には、ヘッドホンを抜いたときに出るスピーカーの音が調整されます。

音質モードを設定する

選ぶ項目	できること
ダイナミック	重低音を響かせながら、高音も通るように、明瞭感あふれるメリハリのきいた音質。映画やロックコンサートなど、迫力あるコンテンツ向きです。
クリアボイス	人の話し声の領域を強調した音質。ニュースなど、セリフの多いコンテンツ向きです。
カスタム	お買い上げ時はフラットな音質です。オリジナルの音源を活かし、全音域がバランスよく自然に広がっていく音質。クラシック音楽や自然ドキュメンタリーなどのコンテンツ向きです。さらに高音、低音がお好みで調整できます。

調整できる項目

選ぶ項目	←を押すと	→を押すと
高音(カスタムのみ)	低くなる	高くなる
低音(カスタムのみ)	低くなる	高くなる
バランス	左側の音が大きくなる	右側の音が大きくなる
ウーファーレベル	出力レベルが小さくなる	出力レベルが大きくなる
	できること	
音量レベル*1	放送や入力ごとの音の大きさが気になるときに、調節します。音量+/−ボタンで音量を調節しても、音量レベルは変わりません。	
サラウンド*1	TruSurround 5.1*2:5.1chなどデジタル放送のサラウンド音声は、本機の左右のスピーカーで立体感にあふれ、動きのある音声を仮想的に再現します。 TruSurround:TruSurroundの搭載により、通常のステレオ放送でも、本機の左右のスピーカーから映画館にいるような、臨場感あふれる音を再現します。 **切**:5.1chなどデジタル放送のサラウンド音声は、通常のステレオ音声(2ch)に変換して再現します。 それ以外の放送は、オリジナル音声をそのまま再現します。	

*1 センタースピーカー(☞46ページ)にしているときは、設定できません。
*2 5.1chサラウンドの放送のときにのみ選べます。

メディアレシーバー後面の光デジタル音声出力端子から出力される信号について

光デジタル入力対応のオーディオ機器に接続すると、デジタル放送の高音質な音声を楽しめます。
ホームボタンを押して、「(設定)」→「(テレビ設定)」→「デジタル放送の設定」→「接続機器設定」→「光デジタル出力設定」の順に選ぶ。

選ぶ項目	できること
オート	AAC対応AVアンプなどをつないでいるときに選びます。 デジタル放送の音声のときは、AAC音声(デジタル放送用音声方式)がそのまま出力されます。 地上アナログやビデオ機器などからのアナログ音声のときは、PCM音声(2ch)のデジタル信号に変換して出力されます。
PCM	AACに対応していないAVアンプやサンプリングレートコンバーター内蔵のMDデッキなどをつないでいるときに選びます。デジタル放送の音声も、地上アナログやビデオ機器などからのアナログ音声もすべて、PCM音声(2ch)のデジタル信号に変換して出力されます。

音声と映像がずれるのが気になるときは

光デジタル音声出力端子とAVアンプをつないだときに、音声と映像がずれて表示されるのが気になるときに調整できます。
ホームボタンを押して、「(設定)」→「(本体の設定)」→「リップシンク」→「大」または「中」、「小」、「切」(のいずれか)の順に選ぶ。

AVアンプにも同等の機能があるときは、本機の「リップシンク」を「切」にして、AVアンプ側で調整してください。

オーディオ機器につないだスピーカーで音声を聞くときは

ホームボタンを押して、「(設定)」→「(本体の設定)」→「スピーカー設定」→「スピーカー出力」→「切」の順に選ぶ。
本機での音量調節に関係なく、本機のスピーカーから音声が出なくなります。

次のページにつづく⇨

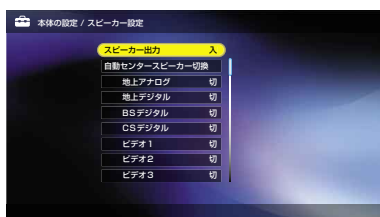
ご注意

「光デジタル出力設定」を「オート」にして、デジタル放送で二重音声の番組を視聴しているときは、本機のスピーカーからは音声が出力されない場合があります。

本機をセンタースピーカーとして使う

あらかじめ接続を行ってください(☞「設置･接続編」の「スピーカーシステムをつなぐ」)。

センタースピーカーに切り換えるには/設定をするには

ホームボタンを押して、「(設定)」→「(本体の設定)」→「スピーカー設定」の順に選ぶ。

ここで設定した放送や入力に切り換えると、本機のスピーカーからはセンター音声のみが出力されます。

選ぶ項目	できること
スピーカー出力	本機のスピーカーから出る音声を切り換えます。
自動センタースピーカー切換	放送や入力を切り換えたときに、自動的に本機のスピーカーからセンター音声が出るように、放送や入力ごとに設定できます。 「スピーカー出力」を「切」にしているときは、設定できません。
センター位相切換	つないだスピーカーの種類や設置場所に合わせて、違和感なく聞こえる音声に切り換えます。 **通常**:お買い上げ時の設定。 **反転**:「通常」の音声に違和感があるときに選びます。 「スピーカー出力」を「切」にしているときは、設定できません。

音量を調節するには

あらかじめ、AVアンプのリモコンコードを登録しておくと、本機のスピーカーもAVアンプ全体の音量も、本機のリモコンで調節できます(☞36ページ)。

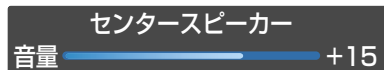
操作切換▲/▼ボタンを押して、リモコンの表示窓に「TV」または「AV AMP」を表示させる。

TV: センター音声(本機のスピーカーから聞こえる音声)の音量を調節します。リモコンはディスプレイに向けます。

AV AMP:AVアンプ全体の音量を調節します。リモコンはAVアンプに向けます。

センタースピーカーとAVアンプの音量バランスを調整するには

センタースピーカーの音量を調節します。1度音量バランスを調整すれば、次にセンタースピーカーにしても同じ音量で聞けます。

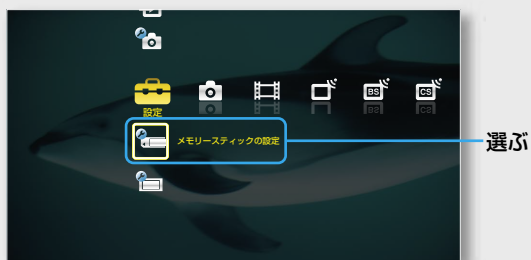
1. **調整したい放送または入力に切り換える。**
   本機のスピーカーからセンター音声が聞こえるようになります。
2. **AVアンプ側で各チャンネルの音量を操作して「0dB(標準の音量)」にする。**
3. **AVアンプ側で主音量(マスターボリューム)を操作してお好みの音量に調節する。**
4. **本機のリモコンの音量+/−ボタンでセンター音声(本機のスピーカーから聞こえる音声)の音量をAVアンプからの音声とバランスが取れるように調節する。**
   聞きやすい音量の数値をメモしておくと便利です。

センタースピーカー
音量 +15

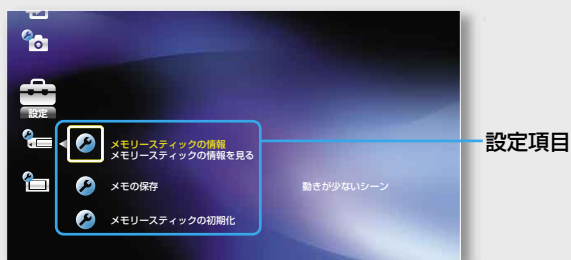
ご注意

センター入力端子にAVアンプをつないでいないときにセンタースピーカーにすると、本機のスピーカーから音声が聞こえなくなります。
そのときに音量+ボタンで音量を上げすぎると、次に音声が出力されるときに、突然大きな音になることがあります。

“メモリースティック”の設定をする

本機で“メモリースティック”に記録するときの画質などを、お好みに合わせて設定できます。また、“メモリースティック”の情報を見たり、“メモリースティック”を初期化したりできます。

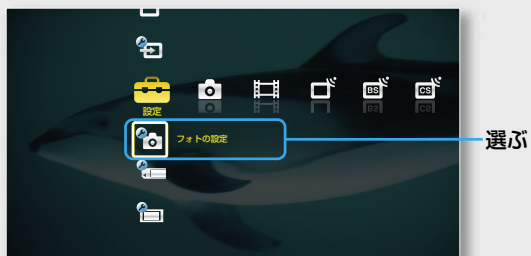
1 ホームを押す。

2 ←/→で「(設定)」を選ぶ。

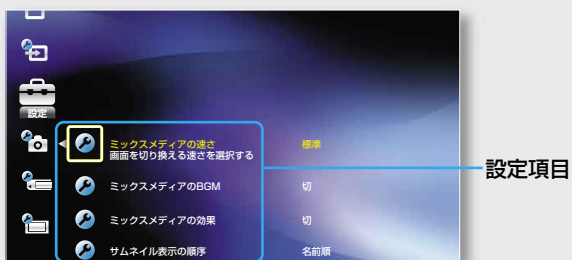
3 ↑/↓で「(メモリースティックの設定)」を選んで、決定を押す。

4 ↑/↓で設定したい項目を選んで、決定を押す。

選ぶ項目	できること
メモリースティックの情報	“メモリースティック”の情報を表示します。
メモの保存	メモしたい映像の動きの速さによって保存方式を設定します。メモ画面の記録について詳しくは、「画面をメモする」(☞18ページ)をご覧ください。 **動きが少ないシーン**:料理番組のレシピや情報画面などを保存するときに選びます。 **動きが激しいシーン**:スポーツ番組の決定的瞬間や映画のアクションシーンなどを保存するときに選びます。
メモリースティックの初期化	“メモリースティック”内のデータすべてをフォーマット(初期化)します。

フォト（ミックスメディア）の設定をする

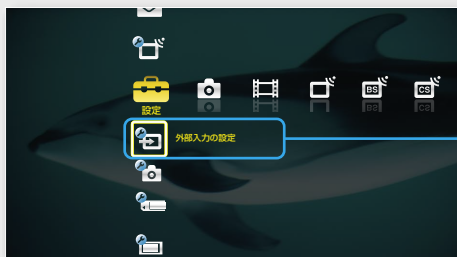
ミックスメディア実行時の音楽や画面効果を設定できます。

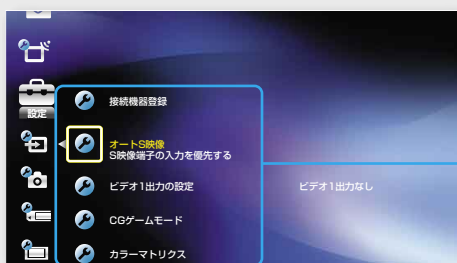
1 ホーム を押す。

2 ←/→で「（設定）」を選ぶ。

3 ↑/↓で「（フォトの設定）」を選んで、決定を押す。

4 ↑/↓で設定したい項目を選んで、決定を押す。

選ぶ項目	できること
ミックスメディアの速さ	静止画を自動で送る速さを設定します。 「**速い**」/「**標準**」/「**遅い**」
ミックスメディアのBGM	ミックスメディア再生中に流すBGM音楽を設定します。 **エナジー**：アップテンポな曲 **ファンタジー**：軽快な曲 **ノスタルジー**：落ち着いた曲
ミックスメディアの効果	静止画切換の表示のしかたを設定します。 「**フラッシュチェッカー**」/「**ムービングスクエア**」/「**スリットライト**」/「**切**」
サムネイル表示の順序	サムネイル表示の順序を設定します。 「**名前順**」/「**名前順（逆）**」/ 「**日時順**」/「**日時順（逆）**」

外部入力の設定をする

1 ホーム を押す。

2 ←/→で「(設定)」を選ぶ。

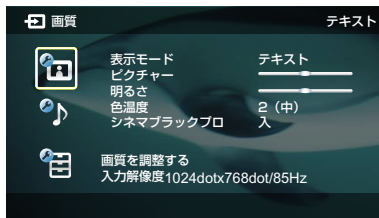
3 ↑/↓で「(外部入力の設定)」を選んで、決定を押す。

4 ↑/↓で設定したい項目を選んで、決定を押す。

選ぶ項目	できること
接続機器登録	画面に表示される入力端子の名称やアイコンを、入力端子ごとに変更できます(☞29ページ)。 「使用しない」にすると、ホームメニューに表示されなくなり、リモコンの入力切換ボタンを押しても切り換えられなくなります。
オートS映像	ビデオ1～3入力のS2映像入力端子と映像入力端子の両方につないだときは、ビデオの映像信号をどちらの端子から入力するかを設定します。 **ビデオ1/ビデオ2/ビデオ3** **入**：S2映像入力端子から入力された映像を見る。 **切**：映像入力端子から入力された映像を見る。
ビデオ1出力の設定	ビデオ1入力の映像や音声を、デジタル放送/ビデオ出力端子から出力させたいときは、「ビデオ1出力あり」に設定してください。
CGゲームモード	**入**：CGの多いゲームに適した映像を楽しめます。 **切**：DVDの映画などの自然画に適した映像を楽しめます。
カラーマトリクス	通常はお買い上げ時の設定のままお使いください。色あいが不自然になったときに設定します。

パーソナルコンピューター(PC)入力の設定をする

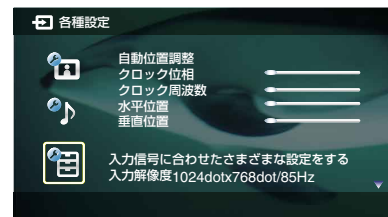
メディアレシーバー前面のPC入力端子にパーソナルコンピューターをつないでいて、PC入力の映像を表示しているときは、オプションからPC入力独自の画質や音質、表示について設定ができます。

オプションでできること…

画質調整

選ぶ項目	できること
表示モード	**ビデオ**:動画を見るのに適した映像になります。 **テキスト**:文字や表を見るのに適した映像になります。
ピクチャー	明暗の差を調整します。
明るさ	明るさを調整します。
色温度	「4(高)」から「1(低)」にしていくと赤みがかった暖かみのある色調になります。
シネマブラックプロ	アイリス(絞り)を調整します。黒が引き締まり、コントラストがよくなります。

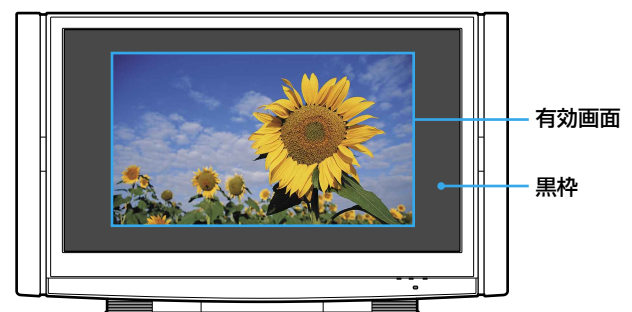
音質モード

選ぶ項目	できること
ダイナミック	重低音を響かせながら、高音も通るように、明瞭感あふれるメリハリのきいた音質。
クリアボイス	人の話し声の領域を強調した音質。
ナチュラル	オリジナルの音源を活かし、全音域がバランスよく自然に広がっていく音質。

各種設定

選ぶ項目	できること
自動位置調整	自動的に、入力信号にあった表示位置にします。 入力信号によっては、自動位置調整により最適な画面にならない場合があります。その場合は手動で「クロック位相」や「クロック周波数」、「水平位置」、「垂直位置」を調整してください。
クロック位相	画面にチラツキがある場合に調整します。
クロック周波数	画像に縦じま状のノイズがある場合に調整します。
水平位置/垂直位置	画像の水平/垂直位置を調整します。
画面サイズ切換*	垂直周波数60Hzの信号のみ切換可能です。 **ノーマル**:オリジナルのサイズで表示します。 **フル1**:オリジナル映像の横縦比率を保ったまま、有効画面いっぱいに表示します。 **フル2**:オリジナルの映像を有効画面いっぱいに表示します。

* 信号によっては、設定した画面サイズどおりにならないことがあります。

PC入力時の有効画面について

PC入力の映像を表示しているときは、下の図のような有効画面になります。

PC入力対応信号表

解像度			水平周波数[kHz]	垂直周波数[Hz]	VESA規格
信号名	水平[Pixel]	垂直[Line]			
VGA	640	400	31.5	70	–
	720	400	31.5	70	–
	640	480	31.5	60	○
	640	480	37.9	72	○
	640	480	37.5	75	○
	640	480	43.3	85	○
SVGA	800	600	35.1	56	○
	800	600	37.9	60	○
	800	600	48.1	72	○
	800	600	46.9	75	○
	800	600	53.7	85	○
XGA	1024	768	48.4	60	○
	1024	768	56.5	70	○
	1024	768	60	75	○
	1024	768	68.7	85	○
WXGA	1280	768	47.8	60	○
SXGA	1280	1024	64	60	○

Sync on Green/Composite Syncには対応していません。
対応信号表以外の信号を入力した場合には、正常に表示されなかったり、各種設定ができない場合があります。

その他の設定をする

順送りで選べるチャンネルを変更する

したいこと	操作
チャンネル+/−ボタンで、すべてのチャンネルを順送りで選ぶ	「(設定)」→「(テレビの設定)」→「チャンネル選局」→「シームレス」の順に選ぶ。 **シームレス**:視聴中の放送サービス(テレビ、ラジオ、データ)の中で、すべてのチャンネルを順送りします。 **通常**:視聴中の放送(地上アナログ、地上デジタル、BSデジタル、110度CSデジタル)と放送サービスの中で、チャンネルを順送りします。

表示画面での操作音を設定する

したいこと	操作
操作音を設定する	「(設定)」→「(本体の設定)」→「操作音」の順に選ぶ。 **切**:番組表や番組説明、予約設定の画面を表示しているときに、操作音を鳴らさないようにします。 **入**:番組表や番組説明、予約設定の画面を表示しているときに、操作音を鳴らします。

画面の表示位置を調整する

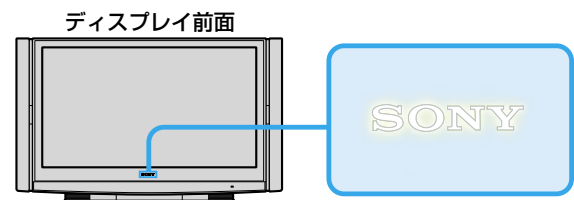
したいこと	操作
画面の表示位置を調整する	「(設定)」→「(本体の設定)」→「表示位置調整」の順に選ぶ。 画面四隅に表示される黄色い枠を基準にして、↑/↓/←/→で画面表示の位置を調整する。

高地で使うための設定をする

高山地など標高の高い所では、ディスプレイ内が低地に比べ熱くなることがあります。本機はディスプレイ内の温度を検知して、自動で電源を切ることができます。

したいこと	操作
高地モードに切り換える	「(設定)」→「(本体の設定)」→「高地モード」→「入」の順に選ぶ。 **切**:通常の設定です。 **入**:標高1500m以上の場所でお使いのときに、設定してください。ファンの回転数を上げ、より冷却効果を高めます。

ディスプレイ前面のソニーマークを光らせる[イルミネーション]

ディスプレイ前面のソニーマークを、電光飾(イルミネーション)により光らせることができます。

したいこと	操作
イルミネーション	「(設定)」→「(本体の設定)」→「イルミネーション」→「入」の順に選ぶ。 **切**:電源を入/切するときのみ、ソニーマークが白く光ります。 **入**:電源が入っているときに、ソニーマークが白く光ります。

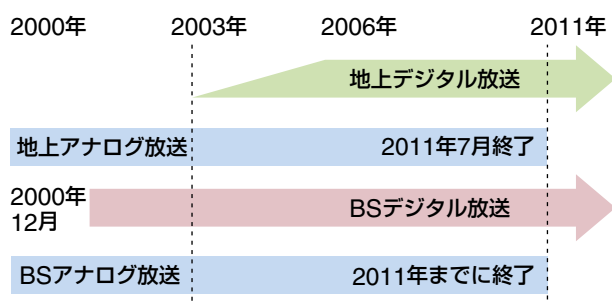
デジタル放送について

本機は地上デジタルとBS・110度CSデジタルチューナーを内蔵しています。

地上デジタル放送について

アナログ放送からデジタル放送への移行

地上デジタルは、関東、中京、近畿の三大広域圏の一部地域で2003年12月より放送開始され、その他の地域でも、2006年末までに放送が開始される予定です。地上アナログは2011年7月*1に、BSアナログは2011年*1までに放送が終了することが、国の方針として決定されています。

*1 2005年2月現在の情報です。

アンテナについて

地上デジタルを受信するには、UHFアンテナが必要です。

現在お使いのUHFアンテナでも地上デジタルを受信できます。

ただし、地上デジタルのチャンネルによってはアンテナなどの交換や調整が必要となる場合があります。詳しくは、お買い上げ店にお問い合わせください。

なお、ケーブルテレビで受信・視聴するときは、UHFアンテナは不要です。

ケーブルテレビ（CATV）について

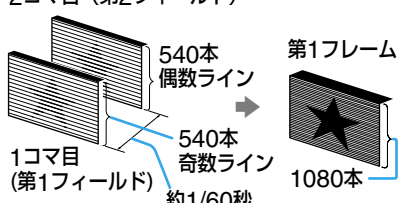
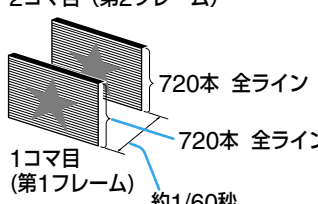
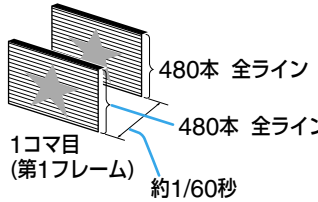
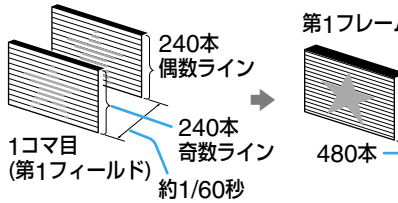
地上デジタルは、ケーブルテレビでも受信・視聴できます。

お住まいの地域のケーブルテレビで地上デジタルが放送開始されているかは、ケーブルテレビ放送会社にお問い合わせください。なお、ケーブルテレビ放送会社によって送信方式が異なりますが、本機はパススルー方式のすべての周波数に対応しています。

BS・110度CSデジタル放送について

- 高画質・高音質で、各種テレビ放送・データ放送・ラジオ放送が楽しめます。
- BSデジタルの有料放送や110度CSデジタルは受信契約が別途必要です。

B-CASカードについて

デジタル放送（地上デジタル、BSデジタル、110度CSデジタル）を視聴するときは、B-CASカードを必ず挿入してください。

- 2004年4月から、番組の著作権保護のためにB-CASカードを利用します。
  B-CASカードを挿入しないと、すべてのデジタル放送を視聴できなくなります。
- 2004年4月からデジタル放送には、「一回だけ録画可能」のコピー制御信号が加えられます。詳しくは、「録画制限と著作権保護について」（☞56ページ）および録画機器の取扱説明書をご覧ください。

次のページにつづく⇨

デジタル放送について（つづき）

画像について

下記のように**全部で4種類の画像方式があります。**

画像方式	説明
1125i（1080i）のデジタルハイビジョン信号 HD	1125本（1080本）の走査線*1を約1/60秒ごとに奇数ラインと偶数ラインを交互に流す（飛び越し走査：インターレース方式*1）画像方式。 2コマ目（第2フィールド） 540本 偶数ライン／1コマ目（第1フィールド） 540本 奇数ライン 約1/60秒 → 第1フレーム 1080本
750p（720p）のデジタルハイビジョン信号 HD	750本（720本）全部の走査線を順番どおりに描く（順次走査：プログレッシブ方式*1）画像方式。画面や文字のちらつきが少ないため、静止画放送に適しています。 2コマ目（第2フレーム） 720本 全ライン／1コマ目（第1フレーム） 720本 全ライン 約1/60秒
525p（480p）の標準テレビ信号 SD	525本（480本）全部の走査線を順番どおりに描く（プログレッシブ方式*1）画像方式。画面や文字のちらつきが少なくなります。 2コマ目（第2フレーム） 480本 全ライン／1コマ目（第1フレーム） 480本 全ライン 約1/60秒
525i（480i）の標準テレビ信号 SD	525本（480本）の走査線を約1/60秒ごとに奇数ラインと偶数ラインを交互に流す（インターレース方式*1）画像方式。地上アナログやBSアナログと同等の解像度です。 2コマ目（第2フィールド） 240本 偶数ライン／1コマ目（第1フィールド） 240本 奇数ライン 約1/60秒 → 第1フレーム 480本

iはインターレース（飛び越し走査）、pはプログレッシブ（順次走査）の略。（　）内は有効走査線数*1で数えたときの別称です。
*1の詳しい説明は、用語集（☞91ページ）をご覧ください。

音声について

デジタル放送には、次のような音声モードがあります。

音声モード	説明
モノラル	通常のニュース放送などに使われています。
ステレオ	音楽番組などに使われています。
サラウンド	映画などに使われています。
圧縮Bモード	CDと同等の高音質になります。モノラルやステレオ、サラウンドが圧縮Bモードで送信されるときは「番組説明」画面に「圧縮Bモード」と表示されます。

また、上記の音声の他にも、二か国語番組などの二重音声や、音声信号が複数ある番組の第2音声などがあります。

本機のスピーカーから聞こえる音声

5.1chサラウンドなどの音声は、通常のステレオ放送（2ch）に変換されます。

「番組説明」画面（☞12ページ）での表示	左スピーカーの音声	右スピーカーの音声
モノラル	モノラル	モノラル
ステレオ	ステレオ（L）	ステレオ（R）
3/1サラウンド 3/2サラウンド 5.1サラウンド	ステレオ（L+RL+C）	ステレオ（R+RR+C）

（L：左フロント、R：右フロント、RL：左リア、RR：右リア、C：センター）

1つの放送局でのマルチ放送について

地上デジタルとBSデジタルでは、1つの放送局が、デジタルハイビジョン信号 HD の1チャンネル放送と、標準テレビ信号 SD の複数チャンネル(2～5チャンネル)放送を、右の図のように時間帯によって切り換えるマルチ放送とがあります。

それぞれのチャンネル(191ch、192ch、193ch)で同じ番組が放送されます(イベント共有)。時刻別番組表(☞10ページ)を見るときや、チャンネル+/ーボタンでチャンネルを選ぶときは、代表チャンネルのみが表示されます。

HD デジタルハイビジョン信号

SD 標準テレビ信号

➡自動的に切り換わる

⇨チャンネル+/ーボタンで切り換える

➡数字ボタンでチャンネル番号を入力して切り換える

右記の番組はフィクションであり、実際の放送局での放送内容とは関係ありません。

1つの放送局

191ch 192ch 193ch

13:00 映 画 HD (代表チャンネル=191ch)

14:00 a テニス SD (191ch) ⇔ ニュース SD (192ch) ⇔ ロックコンサート SD (193ch) A

15:00 b b b

c ワールドサッカー HD (191ch) B

16:00

17:00 アイスホッケー HD (191ch) ⇔ 引き続き ワールドサッカー SD (194ch)

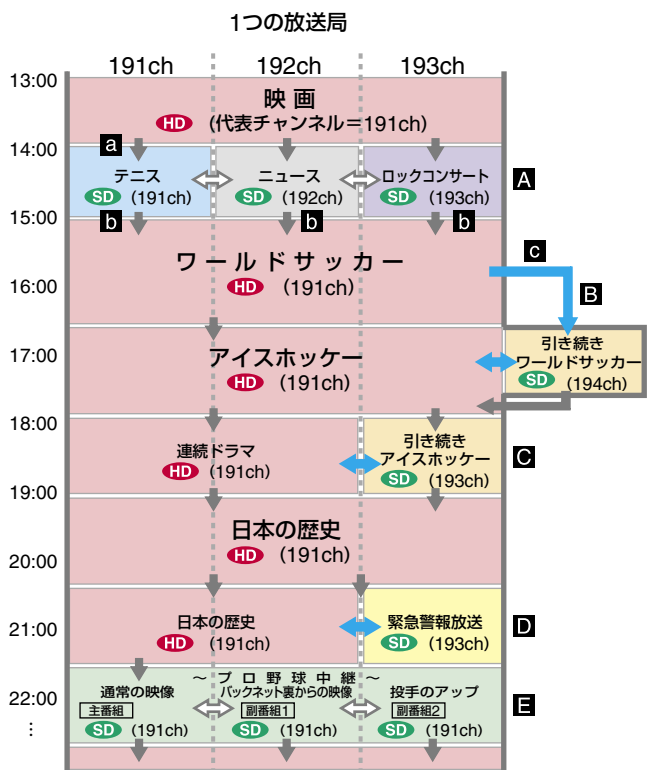
18:00 連続ドラマ HD (191ch) ⇔ 引き続き アイスホッケー SD (193ch) C

19:00 日本の歴史 HD (191ch)

20:00

21:00 日本の歴史 HD (191ch) ⇔ 緊急警報放送 SD (193ch) D

22:00 ～プロ野球中継～ 通常の映像 主番組 SD (191ch) ⇔ バックネット裏からの映像 副番組1 SD (191ch) ⇔ 投手のアップ 副番組2 SD (191ch) E

⋮

A 複数のチャンネルで違う番組を同時に放送 [マルチチャンネル放送]

上の例のように、同じ放送局の別々のチャンネルで、テニス、ニュース、ロックコンサートなどのようにそれぞれ違う番組を同時間帯に放送します。

a マルチチャンネル放送開始/b マルチチャンネル放送終了

B 延長した番組を最後まで放送[臨時放送]

上の例のように、サッカー中継が予定放送時間内に終わらないときに、同じ放送局の別チャンネルで引き続き試合終了まで放送し、元のチャンネルでは予定どおり、後番組のアイスホッケーを放送します。

c 臨時放送開始

C 他のチャンネルで引き続き放送 [イベントリレー]

放送中の番組が終了したあと別チャンネルで引き続き放送を行うときは、お知らせが表示されます。見るときは、「選局する」を選んでください。時間になると自動的に切り換わります。

D 地震などの災害時に特別番組を放送 [緊急警報放送]

警戒警報や津波警報が発令されたときなどは、別チャンネルで緊急警報放送を行っていることの案内が表示されます。見るときは、「選局する」を選んでください。

電源スタンバイ時にも自動的に緊急警報放送を表示するようにするには

「(設定)」→「(テレビの設定)」→「デジタル放送の設定」→「各種設定･その他」→「緊急警報放送設定」→「電源を入れる」の順に選ぶ。

E さまざまな角度から番組を放送 [マルチビュー放送]

上の例のように、プロ野球中継で、同じチャンネルのまま、最大3方向(通常の映像、バックネット裏からの映像、投手のアップ)の画面を、映像切換ボタンで切り換えて見ることができます。

雨天など受信状態が悪いときの放送 [降雨対応放送]

お買い上げ時は、「降雨対応放送に切り換わりました」と表示され、画質や音質が通常放送に比べ低下した状態で引き続き受信するように設定されています。

ちょっと一言

降雨対応放送に切り換わらないようにするには

「(設定)」→「(テレビの設定)」→「デジタル放送の設定」→「受信設定」→「BS/CS設定」→「降雨対応放送受信」→「切」の順に選ぶ。

録画制限と著作権保護について

デジタル放送では、番組の著作権を保護し、不正コピーやインターネットへの不正な配信を防ぐため、コピー制御信号を番組に多重し、暗号をかけて放送されております。同梱されているB-CASカードは必ず挿入してください。

デジタル放送の番組には次のような「コピー制御信号」が付加されております

● **録画禁止**

「録画禁止」の番組は、著作権が保護されているためデジタル録画できません。地上デジタルやBSデジタルの無料放送は、VHSなどのアナログ録画機器で録画できますが、BSデジタルの有料放送や110度CSデジタルは、番組によってアナログ録画できない場合があります。

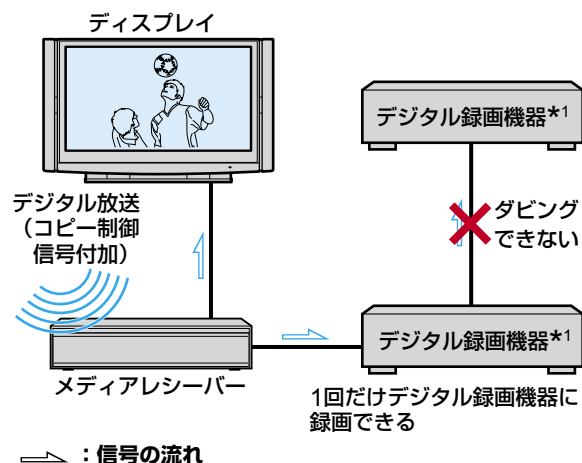
● **1回だけ録画可能**

「1回だけ録画可能」な番組は、著作権保護技術に対応した録画機器及び記録メディアにてデジタル録画できます。しかし、デジタル録画した番組をさらにデジタル録画（コピー）することはできません。VHSなどのアナログ録画機器では録画に制約はありません。

● **録画可能**

個人的に利用される場合に限って、制限なしに録画可能です。

「番組説明」画面（☞12ページ）の番組情報欄で「コピーコントロール」情報を確認してください。

「1回だけ録画可能」の例

*1 ハードディスクレコーダー、D-VHS、DVDレコーダーなどです。

「1回だけ録画可能」な番組の録画について

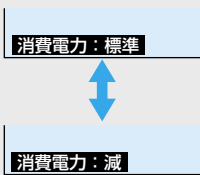
録画機器	接続方法	録画制限
i.LINK対応機器（☞62ページ）	i.LINK接続	録画可能
DVDレコーダーやハードディスクレコーダーなど	アナログ接続（映像・音声コード）	録画可能*2
VHSなど	アナログ接続（映像・音声コード）	録画可能

*2 DVDレコーダーでは、CPRM対応の録画用DVD-RWディスクを使用して、VRモードでのみ録画できます。また、CPRM対応のDVD-RAMディスクを使用して録画できます。

i.LINKで録画するときの録画制限について

本機はDTLAのコピープロテクション技術に対応しています。著作権保護に対応したi.LINK対応機器には、デジタルデータのコピープロテクション技術が採用されています。
この技術のひとつは、DTLA（The Digital Transmission Licensing Administrator）というデジタル伝送における著作権保護技術の管理団体から許可を受けているものです。
このDTLAのコピープロテクション技術を搭載している機器間では、コピーが制限されている映像/音声/データにおいて、i.LINKでのデジタルコピーができない場合があります。また、DTLAのコピープロテクション技術を搭載している機器と搭載していない機器との間では、i.LINKでデジタルの映像/音声/データのやりとりができない場合があります。

アナログ接続で録画するときの録画制限について

本製品は、マクロビジョン社が保有する米国特許及びその他知的財産権によって保護されている著作権保護技術を採用しております。この著作権保護技術の使用は、マクロビジョン社の許可が必要で、また、マクロビジョン社の特別な許可がない限り家庭用及びその他の一部鑑賞用の使用に制限されています。分解、解析したり、改造することも禁じられております。

光デジタル音声出力における録音制限について

著作権が保護されている番組では、光デジタル音声出力からの信号を録音できない場合があります。

あなたが録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できませんのでご注意ください。

本機の省エネ対応について

本機では、通常時の消費電力量を設定によって抑えたり、しばらく何も操作をしなかったときなどに自動で電源が切れるようにするなど、省エネに対応しています。

したいこと	操作
消費電力	リモコンの消費電力ボタンを押すたびに、右のように切り換わり、消費電力を軽減できます。 消費電力：標準 消費電力：減
オートシャットオフ*[1]	約9分間、無信号を検出すると「オートシャットオフ」と画面に表示され、その1分後に電源スタンバイになります。深夜などの放送終了後には、自動で電源スタンバイになります。 *[1] 地上アナログのときのみ働きます。
無操作電源オフ	「無操作電源オフ」を「1時間」または「2時間」、「3時間」に設定すると、チャンネル切り換えや音量調節など、設定した時間内に何も操作をしなかったときは、「無操作電源オフにより、まもなく電源が切れます」と表示され、その1分後に電源が自動で切れます。お買い上げ時の設定は、「切」になっています。 「(設定)」→「(本体の設定)」→「無操作電源オフ」の順に選ぶ。
オフタイマー	見ている番組の終了時間などに合わせて、自動的にテレビの電源を切るように設定できます。設定できる時間は30分、60分、90分、120分です。設定した時間が過ぎると、自動的に電源が切れ、電源スタンバイになります。 「(設定)」→「(本体の設定)」→「オフタイマー」の順に選ぶ。

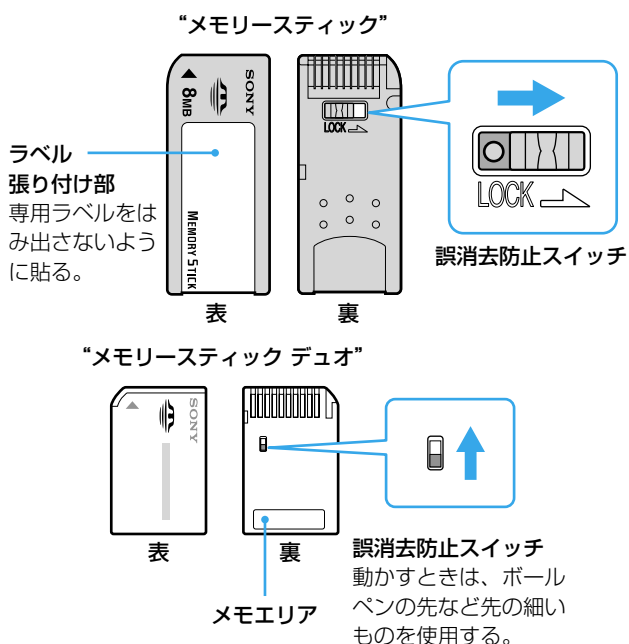
“メモリースティック”について

“メモリースティック”、“メモリースティック PRO”、“メモリースティックデュオ”、MEMORY STICK、MEMORY STICK PRO および MEMORY STICK Duo は、ソニー株式会社の商標です。
別売りの“メモリースティック”(“Memory Stick”)は小さくて軽いのに、フロッピーディスクより大容量のIC記録メディアです。
“メモリースティック”に画像を記録、編集した機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

“メモリースティック”、“メモリースティック PRO”および“メモリースティック デュオ”についてのご注意

記録されている静止画・動画を誤って消さないためには

誤消去防止スイッチをスライドさせて、「LOCK」にしてください。ただし、画像を回転(☞24ページ)した状態を保持できなくなります。

“メモリースティック”

“メモリースティック デュオ”

以下の場合、静止画や動画のファイルが破壊されることがあります

破壊された場合の内容の補償については、ご容赦ください。大切なデータは、バックアップを取っておくことをおすすめします。
- データの読み込み中、書き込み中(アクセスランプが点滅中)に、“メモリースティック”を取り出したり、本機の電源を切ったりした場合
- 静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使った場合

取り扱いについて

以下のことをお守りください。
- 持ち運びや保管の際は、“メモリースティック”を付属の収納ケースに入れる
- 端子部に触れたり、金属を接触させない
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしない
- 分解や改造をしない
- 水にぬらさない
- “メモリースティック”を差し込む部分を強く押したり、曲げたりしない

使用場所について

以下の場所での使用や保存は避けてください。
- 高温になった車の中や炎天下など気温の高い場所
- 直射日光のあたる場所
- 湿気の多い場所や腐食性のものがある場所

以下の場合、“メモリースティック”が壊れたり、メディアレシーバーの“メモリースティック”挿入口が破損することがあります

- “メモリースティック”のメモエリアに強い圧力で書き込みをした場合
- 逆向きに無理に入れた場合

ご注意

- パソコンでフォーマット(初期化)した“メモリースティック”は本機では使用できない場合があります。
- すべてのメモリースティック・メディアの動作を保証するものではありません。

本機が対応している“メモリースティック”

“メモリースティック”対応表

“メモリースティック”の種類	記録/再生
“メモリースティック” “メモリースティック” （メモリーセレクト機能付） “メモリースティック デュオ”	○
“メモリースティック” （マジックゲート/高速データ転送対応） “メモリースティック デュオ” （マジックゲート/高速データ転送対応）	○*1、*2
“マジックゲート メモリースティック” “マジックゲート メモリースティック デュオ”	○*1
“メモリースティック PRO” “メモリースティック PRO デュオ”	○*1、*2、*3

*1 マジックゲート機能が必要なデータの記録/再生はできません。
*2 パラレルインターフェースを利用した高速データ転送に対応しておりません。
*3 アクセスコントロール機能には対応しておりません。

本機で再生できるファイル（静止画と動画）について

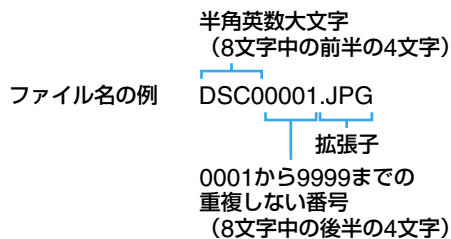
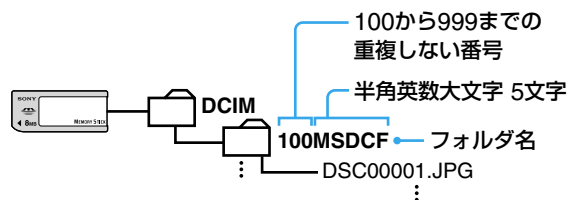
以下のファイルが再生できます。

- 本機で記録した静止画
- デジタルスチルカメラやデジタルビデオカメラレコーダーなどの“メモリースティック”対応機器でJPEG形式で記録された静止画
- ソニー製の機器で録画された以下のMPEG1形式の動画
  - MPEG MOVIE
  - MPEG MOVIE AD/EX/HQ/HQX/CV
  - VAIO Giga Pocket MPEG1（ビデオCD相当）

本機で表示できるファイルやフォルダの名前について

拡張子が「JPG」（静止画）、「MPG」（動画）のファイルのみ表示できます。

ファイル名の例　DSC00001.JPG

- 半角英数大文字（8文字中の前半の4文字）
- 拡張子
- 0001から9999までの重複しない番号（8文字中の後半の4文字）

上記の拡張子を持ったファイルのうち、DCF準拠のファイルのみ表示します。

記録内容の補償について

本機を使用中、不具合により記録されなかった場合の内容の補償については、ご容赦ください。

ご注意

- パソコンなどでファイル名を変更したときは、正常に表示されないことがあります。
- 再生できる静止画の画像サイズは、16×16ドットから4096×4096ドットまでです。
- 静止画のときは、1つのフォルダに1000個を超えるファイルがある場合は表示されません。また、ソート機能も働かないので、フォルダを分割してください。なお、フォルダは100個までしか表示されません。
- 本機では、1GBまでの“メモリースティック”で動作を確認しています。1GBを超える容量の“メモリースティック PRO”での動作を保証していません。

USBについて

つなぎかたや操作方法について詳しくは、「静止画を楽しむ」（☞24ページ）をご覧ください。

対応機種について

本機はソニー製USBインターフェース付デジタルカメラおよびデジタルビデオカメラレコーダーDV方式ハンディカムに対応しています。
動作確認機種については以下のホームページでご確認ください。
http://www.sony.co.jp/SonyDrive

動作確認機種以外の機器をつなぐと故障の原因になりますのでつながないでください。

本機の⭠（USB）端子について

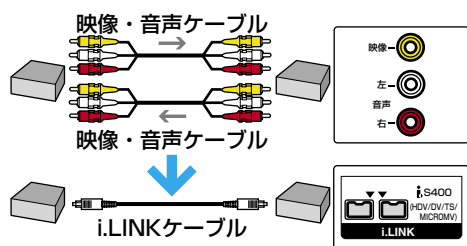
- USB Full-Speed（Max 12Mbps）に対応しています。
- 一般的なUSB機器に対応するものではありません。
- USB機器を使用しないときは、はずしてください。
- ハブおよびハブ内蔵の機器には対応していません。
- USBでつないだ機器は、静止画を見る機能にのみ対応しています。

ご注意
動画の再生はできません。

i.LINK(アイリンク)について

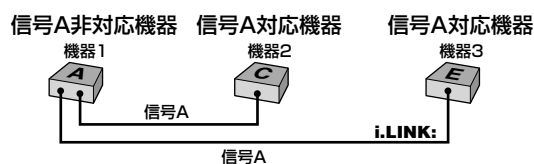
i.LINKとは？

i.LINKは高速かつ双方向なデジタル･インターフェースです。
i.LINK端子を持つ機器間で、デジタル映像やデジタル音声、他機制御信号などを相互にやりとりでき、とても便利です。

- デジタル放送を高画質/高音質のまま記録できます。さらに、番組情報も同時に記録することが可能です。
- i.LINKケーブル1本だけでi.LINK対応機器間を接続して双方向通信ができます。
  同時に、他機を操作したり、その機器の情報を読み書きすることが可能です*1。

- 最大で400Mbps（メガビーピーエス）の高速通信が可能です*2。
- 著作権を保護しながらデジタル映像やデジタル音声などの通信ができます*3。
- i.LINKに関して更に詳しく知りたい方は、以下のホームページをご覧下さい。
  http://www.sony.jp/products/i-link/index.html

i.LINKでの接続について

- 複数台接続
  i.LINK対応機器は、i.LINKケーブルで数珠つなぎに接続します（「デイジー･チェーン」と呼びます）。途中から分岐もできます。
  一番長い経路で17台まで接続できます。また、最大接続台数は63台です。

- LINC（リンク）する:操作したいi.LINK対応機器を選ぶ。
  i.LINKケーブルで接続しただけでは、本機からi.LINK対応機器を操作できません。まず、操作したい相手機器を選ぶ必要があり、これを「LINCする」といいます。「LINCする」と本機から相手の機器を操作できます。
- 複数のi.LINK対応機器を接続した時は信号を中継できます。そのため、接続順序を特に気にする必要はありません*4。

- 接続が輪（ループ）の形にならないようにしてください。デジタル信号は、接続した全ての機器に流れます。信号を出力した機器に同じ信号が戻らないように接続します。接続が輪（環状）になることを「ループ」と呼びます。

次のページにつづく⇨

*1 i.LINKは、すべてのi.LINK対応機器間での動作を保証するものではありません。i.LINK対応機器間でデータや制御信号をやりとりできるかどうかは、それぞれの機器の機能によって異なります。

*2 i.LINKの最大データ転送速度は、約100/200/400Mbpsが定義されており、200MbpsのものはS200、400MbpsのものはS400と表記されます。最大データ転送速度が異なる機器同士を接続した場合や、機器の仕様により、実際の転送速度が表記と異なることがあります。

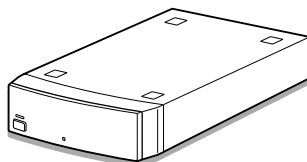
*3 本機は、DTLAの著作権保護技術に対応しています。詳しくは、著作権保護のページ（☞56ページ）を参照して下さい。

*4 i.LINKのデジタル信号は、その機器で取り扱えるかどうかに関わらず、接続した他のi.LINK対応機器に中継されます。ただし、一部のi.LINK対応機器の中には、電源が切られていたり省電力モードに入っていると、データを中継しない機器があります。i.LINKでの接続の際は、接続する機器の取扱説明書もご覧ください。

i.LINK(アイリンク)について(つづき)

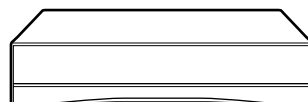
本機で操作できるi.LINK対応機器

本機では、次のi.LINK対応機器を操作できます(2004年10月現在)。
あらかじめ、☞「設置･接続編」の「i.LINK(アイリンク)機器をつなぐ」を行ってください。

ソニー製ハードディスクレコーダー *1

推奨機器
VRP-T1/VRP-T3/
VRP-T5などです。

i.LINK操作パネルでは、「HDR」と表示されます。

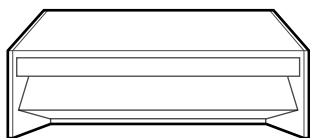
*1 ソニー製のデジタル レコーディング ハードディスクドライブ(Digital Recording HDD)のことです。

D-VHSビデオ

推奨機器
日本ビクター製デジタル
ハイビジョンビデオ
HM-DHX2/HM-DHX1/
HM-DHS1またはHM-
DH35000(生産完了品)です。

i.LINK操作パネルでは、「D-VHS」と表示されます。
D-VHS側で「オートリンク」を「切」にしておいてください。

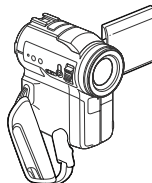
この製品に関するお問い合わせ

日本ビクター株式会社　お客様ご相談センター
TEL. 0120-282-817(フリーダイヤル)
携帯電話やPHSなどから
東京:TEL. 03-5684-9311
大阪:TEL. 06-6765-4161
受付時間:月～金曜日 9:00 ～ 17:00(祝祭日を除く)

ソニー製ブルーレイディスクレコーダー *2

推奨機器
BDZ-S77です。

i.LINK操作パネルでは、「BD」と表示されます。

*2 「OTHER」と表示されるときは、ソフトウェアのアップグレードが必要です。

ソニー製デジタルビデオカメラレコーダー

推奨機器
MICROMV方式または
DV方式デジタルビデオ
カメラレコーダーや
DVデッキなど*3です。

i.LINK操作パネルでは、「CAM」と表示されます。

*3 ソニー製デジタルビデオカメラレコーダー DCR-VX1000はお使いになれません。

その他のi.LINK対応機器

上記の4種類の機器以外にもi.LINKに対応した機器をつなぐことができ、i.LINK操作パネルでは、「OTHER」と表示されます。

本機で録画や再生の操作はできませんが、i.LINK操作パネルで「入力」や「出力」を選ぶと映像や音声の信号を送受信できます。その他の操作はi.LINK機器側で行ってください。

ご注意

- 上記推奨機種以外のD-VHSを本機につなぐと、正しく動作しない場合があります。
- ソニー製ハードディスクレコーダーをお使いのときは、リモコンまたはメディアレシーバーの電源スイッチで電源を切ると、約10分後にハードディスクレコーダーの電源も自動的に切れます。ただし、録画予約、ダビング、ムーブ中は、リモコンの電源ボタンで電源スタンバイにしても、ハードディスクレコーダーの電源は切れません。

修理に出す前に

修理に出す前に、もう1度、点検をしてください。それでも、正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。
ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

セットの型名：

ケーディエス　キュー
KDS-70Q006

ディスプレイの型名：

エスディーエム　エフ　キュー
SDM-F7000Q

メディアレシーバーの型名：

エムビーディー　キュー
MBD-Q006

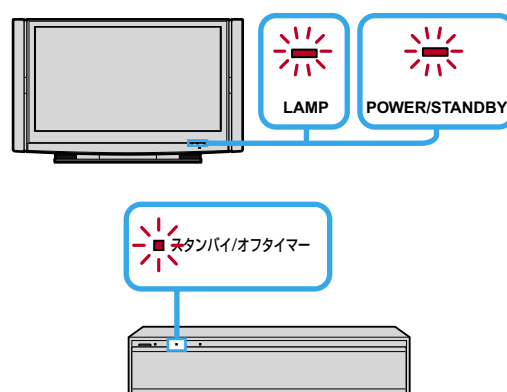
リモコンの型名：

アールエム　ジェイ
RM-J1100

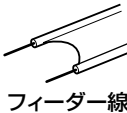
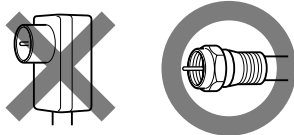
故障の状況：できるだけくわしく

購入年月日：

自己診断表示ー画面が消え、スタンバイ/オフタイマーランプが点滅したら

本機には自己診断表示機能がついています。これは本機に異常が起きたときに、メディアレシーバーのスタンバイ/オフタイマーランプの点滅およびその速さで本機の状態をお知らせするための機能です。

1 メディアレシーバー前面のスタンバイ/オフタイマーランプの点滅回数を数えてください。3秒おきに点滅します。
たとえば、2回点滅→3秒あき→2回点滅…この場合の点滅回数は2回です。
2 ディスプレイ前面のランプの点滅を確認してください。
ディスプレイのLAMPランプが点滅しているときは
光源用ランプが切れています。新しいランプと交換してください。
ディスプレイのPOWER/STANDBYランプが3回点滅したときは
ディスプレイ前面のランプカバーの取り付けが不完全です。ランプカバーが正しく取り付けられているか確認してください。
ディスプレイのPOWER/STANDBYランプが点滅し続けているときは
メディアレシーバーの電源スイッチで主電源を切り、メディアレシーバーとディスプレイ両方の電源コンセントを抜いてから、ソニーサービス窓口に点滅の状態をお知らせください。内容によっては、修理が必要な場合があります。

映像

デジタル放送を視聴しているときは、「デジタル放送」(☞69ページ)をご覧ください。

画像が出ない

症状	対処のしかた
すべてのチャンネルが映らない。	• 電源コードを、メディアレシーバーおよびディスプレイと壁のコンセントにしっかりつないでください。 • ディスプレイケーブルがディスプレイとメディアレシーバーにしっかりつながれているか確認してください。 • メディアレシーバーの電源スイッチを押して、主電源を入れてください。 • アンテナ線をしっかりつないでください。 • メディアレシーバー後面にあるアッテネーター(減衰器)のスイッチを「入」または「切」にして画面が出るようにしてください。
特定のチャンネルだけが映らない。	• チャンネルを合わせ直してください(☞「設置・接続編」の「準備7:地上アナログ放送の設定をする」→「チャンネルを設定する」)。 • メディアレシーバー後面にあるアッテネーター(減衰器)のスイッチを「入」または「切」にして画面が出るようにしてください。
テレビの電源が突然切れた/いつのまにか消えていた(電源スタンバイ状態になった)。	• オートシャットオフが働いていませんか?(☞57ページ) • オフタイマーを設定していませんでしたか?(☞57ページ) • 「無操作電源オフ」を設定していませんか?(☞57ページ) 「無操作電源オフ」を「切」にしてください。 • 光源用ランプが切れていませんか?リモコンで電源を入れて、ディスプレイのLAMPランプとメディアレシーバーのスタンバイ/オフタイマーランプが赤く点滅する場合は、光源用ランプを交換してください(☞86ページ)。 • 本機は機内温度が上がると自動で電源が切れます。排気口や吸気口にほこりがたまっていないか確認してください。また、1500m以上の高地でお使いのときは、機内温度が上がりやすいので「高地モード」を「入」にしてください(☞52ページ)。
つないだ機器の画像が出ない。	• 接続コードをしっかりつないでください。 • リモコンの入力切換用のボタンを押してください。 • S映像入力のときは、「オートS映像」を「入」にしてください(☞49ページ)。
パーソナルコンピューターの画像が出ない。	• 接続するパソコンの種類によっては、画像が表示されない場合があります。パソコンの設定を変更して、PC入力対応信号表(☞51ページ)にある信号を出力するようにしてください。 パソコンの設定方法について詳しくは、お使いのパソコンの取扱説明書をご覧ください。

きれいに映らない

症状	対処のしかた
画像が二重、三重になる。	• アンテナ線をしっかりつないでください。 • アンテナの位置、方向、角度を調整してください。 • 「GR設定」を「入」または「切」にしてください。 「(設定)」→「(テレビの設定)」→「地上アナログチャンネル登録」の順に選ぶ。 • ゴースト・リダクション(GR設定)が働くのは地上アナログ放送のみです。録画機器の再生映像など、本機につないだ機器の映像には働きません。 • ゴースト・リダクションは、チャンネルを切り換えたあと数秒してから働きます。働いているときに画像が一瞬またたくことがありますが、故障ではありません。 • 受信している電波が弱いときは、ゴースト・リダクションに時間がかかることがあります。

きれいに映らない（つづき）

症状		対処のしかた
雪が降るような画面、うすい画面、風がふくとちらつく。		● アンテナがこわれたり曲がったりしていないか確認してください。 ● アンテナの寿命を確認してください（通常3～5年、海辺では1～2年）。
斑点や点模様が走る。		● ヘアードライヤー、自動車、バイクなどからの雑音電波の干渉を受けています。アンテナはなるべく道路から離して設置してください。
色がつかない、色がおかしい、画面が暗い。		● 画質モードを設定してください（☞42ページ）。 ● 画質を調整してください（☞42ページ）。 ● 「消費電力：減」のときは、画面が暗くなります（☞57ページ）。
画面に光る点、または光らない点がある。	輝点・滅点	● プロジェクションテレビの映像は微細な画素の集合です。画面の一部に画素欠けや輝点が存在する場合がありますが、故障ではありません。
画面がまぶしい。		● 画質モードを設定してください（☞42ページ）。 ● 「消費電力：減」にしてみてください（☞57ページ）。
ノイズが多い。		● 付属のVHF/UHF用アンテナ接続ケーブルを使って、テレビアンテナをつないでいるか確認してください。 ● アンテナ線は、他の電源コードや接続ケーブルから、できるだけ離してください。 ● フィーダー線や室内アンテナは特に電波妨害を受けやすいため、お買い上げ店などにご相談ください。 フィーダー線 ● プラスチック製のアンテナアダプターはノイズが入りやすいので、F接栓型アンテナケーブルを使ってください。
ビデオの再生/録画時に縞状のノイズが出る。		● ビデオとメディアレシーバーが近いため、干渉しあっています。ビデオをメディアレシーバーからできるだけ離して置いてください。
画面がぼけている。		● 気温の低い部屋でご使用になっていませんか？結露しているかもしれません。部屋が暖まるまで、そのまましばらくお待ちください。自然に直ります。

次のページにつづく⇨

ワイド画面が切り換わる

症状	対処のしかた
画面モードが勝手に切り換わる。	● オートワイドが働いていませんか？（☞40ページ） 「オートワイド」が「1」または「2」のときは、本機が最適な画面を判断しているためです。 気になるときは「オートワイド」を「切」にしてください。 ● CMが入ったり、番組が変わったりするときなどに、画面サイズが変わって不自然に見えたり、変わるまでに数秒間かかったりすることがあります。番組に最適な画面を本機が判断しているためです（☞41ページ）。 ● 識別制御信号のある画像を受信して、自動的に信号に対応した画面モードになるためです（☞41ページ）。
画像の横縦比がおかしい。	● 本機から録画した16:9の映像を、画面の横縦比4:3のワイド機能のないテレビで再生すると映像が縦長に引き伸ばされて出力されます。

音が出ない/雑音が多い

症状	対処のしかた
画像は出るが、音が出ない。	● 音量が下がりきっていないか確認してください。 ● 画面に「消音」の表示が出ているときは、リモコンの消音ボタンか音量＋ボタンを押して表示を消してください。 ● ヘッドホンを抜いてください。 ● 「スピーカー出力」が「切」になっていませんか？ 「入」にしてください（☞46ページ）。 ● 「自動センタースピーカー切換」が「入」になっていませんか？通常は「切」にしておいてください（☞46ページ）。
音声出力端子から音が出ない/録音ができない。	● ヘッドホン端子にヘッドホンをつないでいませんか？ヘッドホンをつないでいるときは、音声出力端子からは音が出ません。
センタースピーカーにしたときに本機のスピーカーから音が出ない。	● メディアレシーバー後面のセンター入力端子にAVアンプなどのセンタースピーカー出力をつないでいますか？（☞「設置・接続編」の「スピーカーシステムをつなぐ」） ● AVアンプを消音などにしていませんか？ ● センター音声のある番組やDVDソフトですか？
センタースピーカーにしているときに、チャンネルを切り換えると、本機のスピーカーから音声が聞こえなくなる。	● センター音声のない番組に切り換わったためです。 「自動センタースピーカー切換」を「切」にしてください（☞46ページ）。
センタースピーカーをやめると、本機のスピーカーから音声が聞こえなくなる。	● ビデオやDVDプレーヤーなどの音声出力をメディアレシーバーの音声入力端子につないでいますか？本機のスピーカーで音声を聞く機器は、映像端子と共に音声端子もメディアレシーバーにつないでおいてください（☞「設置・接続編」の「本機で再生するための接続」）。
雑音が多い。	● 付属のVHF/UHF用アンテナ接続ケーブルを使って、地上波アンテナをつないでいるかを確認してください。 ● アンテナ線は他の電源コードや接続ケーブルからできるだけ離してください。 ● フィーダー線や室内アンテナは特に電波妨害を受けやすいため、お買い上げ店などにご相談ください。 フィーダー線 ● 「オートステレオ設定」を「切」にしてください。 「（設定）」→「（テレビの設定）」→「地上アナログチャンネル登録」の順に選ぶ。
聞きたい音声になっていない。	● 二か国語放送などで、副音声や第2音声（デジタル放送のみ）になっていませんか？（☞19ページ）
映像より音声のほうが早く聞こえる。	● 機器をメディアレシーバーの光デジタル音声出力端子につないでいるときは、「リップシンク」を設定してください（☞45ページ）。

次のページにつづく⇨

本機から異音がする

症状	対処のしかた
「ピシッ」というきしみ音が出る。	● 電源を入れているかどうかに関わらず、周囲との温度差でキャビネットが伸縮し、「ピシッ」という音が出ることがありますが、本機に影響はありません。
電源スタンバイ時に「カチッ」と音がする。	● 故障ではありません。これはデジタル放送からのデータを取得するために本機の電源が自動的に入るためで、本機に影響はありません。（このとき通信ランプが点灯します。）（☞83ページ）
電源を入れたときに「カチッ」という音がする。	● 電源を入れたときに、内部の回路が働くため音がしますが、故障ではありません。
「ブーン」という音がする。	● ディスプレイおよびメディアレシーバー内部のファンが回っている音です。故障ではありません。 ● スタンバイのときも、衛星からのデータを取得するため（☞83ページ）、ファンが回っている音がすることがあります。データ取得が終わったら自動的に電源スタンバイ状態に戻り、ファンも止まります。また、メディアレシーバーの電源スイッチで主電源を切ると、メディアレシーバーのファンはすぐに止まりますが、ディスプレイの冷却ファンは約2分間回り続けます。
ファンの音が気になる。	● 「高地モード」（☞52ページ）を「入」にして使用しているときは、ファンの回転速度が上がります。設置する場所によっては、ファンの音が気になることがありますが、故障ではありません。

デジタル放送

デジタル放送が映らない/乱れる

症状	対処のしかた
デジタル放送のチャンネルが映らない。	● B-CASカードは挿入されていますか?(☞「設置・接続編」の「準備1:B-CASカード(デジタル放送用ICカード)を挿入する」) ● B-CASカードの向きは正しいですか?(☞「設置・接続編」の「準備1:B-CASカード(デジタル放送用ICカード)を挿入する」) ● ダウンロードを行う設定にしていますか?本機がダウンロードを自動で行う設定にしておけば、本機内部のソフトウェアを常に最新にバージョンアップします。手動でのダウンロードはできません(☞84ページ)。 ● 強風などで設置したアンテナの向きが変わっていませんか?アンテナの向きを調整してください。
チャンネル+/−ボタンで選局できない。	● お買い上げ時は、デジタル放送の放送サービス(テレビ、ラジオ、独立データ)内で順送り選局します。ご覧になっている放送(地上デジタル、BSデジタル、110度CSデジタル)と放送サービス(テレビ、ラジオ、独立データ)をご確認ください(☞8ページ)。 ● 「チャンネル設定」で、チャンネル+/−ボタンで選局できるチャンネルを設定できます。 「(設定)」→「(テレビの設定)」→「デジタル放送の設定」→「受信設定」→「チャンネル設定」の順に選ぶ。 ● 複数のチャンネルで同時に同じ番組を放送しているとき(イベント共有)は、代表チャンネルのみが選局できます(☞55ページ)。
画面が黒くなり何も映らない。	● 音声だけのラジオのチャンネルが選ばれたためです。故障ではありません。 ● 2画面のとき、操作画面でデジタル放送のラジオや独立データを選ぶと、操作画面は黒くなり何も映らなくなります。
デジタル放送のチャンネルを切り換えたり、番組が切り換わったりするときにノイズが出る。	● デジタルハイビジョン信号HDと標準テレビ信号SDなど映像の解像度が変化するときに、同期信号などの白い線が見えることがありますが、故障ではありません。
地上デジタルのアンテナ受信設定ができない/放送を受信できない。	● 地上デジタルに対応したUHFアンテナにつないでください。 ● アンテナ線をしっかりつないでください。 ● お住まいの地域で地上デジタル放送が開始されているか、ご確認ください。
地上デジタルが映らない/画像が乱れている。	● メディアレシーバー後面にあるアッテネーター(減衰器)のスイッチを「入」または「切」にしてください。 ● 地上波アンテナの位置・方向・角度を調整してください(☞「設置・接続編」の「準備10:地上デジタル放送の設定をする」→「地上デジタルのアンテナレベルを確認する」)。 ● 本機の近くで携帯電話や電子レンジなどを使用すると、映像や音声が乱れることがありますのでご確認ください。 ● 「チャンネルスキャン」で「初期スキャン」または「再スキャン」を行ってください。 「(設定)」→「(テレビの設定)」→「デジタル放送の設定」→「受信設定」→「地上デジタル設定」→「チャンネルスキャン」の順に選ぶ。 ● 県域設定を変更していませんか?地上デジタルは、地域によって放送が異なります。必ず、「初期スキャン」を行ってください。 「(設定)」→「(テレビの設定)」→「デジタル放送の設定」→「受信設定」→「地上デジタル設定」→「チャンネルスキャン」の順に選ぶ。

次のページにつづく⇨

デジタル放送が映らない/乱れる（つづき）

症状	対処のしかた
地上デジタルの放送局のマークが表示されない。	● 地上デジタルの各放送局を一定時間視聴すると、放送局のマークが表示されます。
BSデジタル・110度CSデジタルが映らない/画像が乱れている。	**衛星アンテナを直接つないでいる場合** ● 衛星アンテナの前方に障害物があれば取り除いてください。 ● 衛星アンテナに雪が付着していませんか？ ● 衛星アンテナ側は防水型コネクターをつないでください。 ● ケーブルの芯線をコネクターに正しく差し込んでください。 ● 「衛星アンテナ設定」を「オート」または「入」にしてください。 「(設定)」→「(テレビの設定)」→「デジタル放送の設定」→「受信設定」→「BS/CS設定」→「衛星アンテナ設定」→「オート」または「入」の順に選ぶ。 ● 衛星アンテナの方向・角度を調整してください（☞「設置・接続編」の「準備12：BS・110度CS放送の設定をする」→「衛星アンテナの向きを調整する」）。 **マンションなどの共同受信システムの場合** ● ケーブルの芯線をコネクターに正しく差し込んでください。 ● サテライト/UV分波器でVHF/UHFとBSデジタル・110度CSデジタルを分波してください（☞「設置・接続編」の「準備3：衛星アンテナをつなぐ」）。 ● 「衛星アンテナ設定」を「切」にしてください。 「(設定)」→「(テレビの設定)」→「デジタル放送の設定」→「受信設定」→「BS/CS設定」→「衛星アンテナ設定」の順に選ぶ。 **複数のBS機器をサテライト分配器でつないでいる場合** ● 衛星アンテナ用電源を供給する機器のスイッチを「入」にしてください。 **その他** ● 雨や雪が降ると映りが悪くなることがあります。また、お住まいの地域が晴れていても、BSデジタル・110度CSデジタルを送信する放送衛星会社の地域で雨や雪が降っていると映りが悪くなることがあります。 ● 本機の近くで携帯電話や電子レンジなどを使用すると、映像や音声が乱れることがあります。 ● サテライト専用の同軸ケーブルを使ってください。 ● 有料BSデジタルや110度CSデジタルの受信契約（加入申し込み）をしていますか？
BSデジタルは映るのに110度CSデジタルが映らない。	● アンテナや分配器、ブースターなどが110度CSデジタルに対応していますか？詳しくは、お買い上げ店か、マンション管理会社にお問い合わせください。 ● 「衛星アンテナレベル」を確認してください。 「(設定)」→「(テレビの設定)」→「デジタル放送の設定」→「受信設定」→「BS/CS設定」→「衛星アンテナレベル」の順に選ぶ。 ● 110度CSデジタルをご覧になるには受信契約が必要です。
BSデジタル・110度CSデジタルの映像が、通常に比べ画質/音質が低下した映像に勝手に切り換わる。	● 激しい雨など受信状態が悪いときなどに、降雨対応放送に切り換わる場合があります。頻繁に切り換わるときは、「降雨対応放送受信」を「切」にしてください（☞55ページ）。

困ったときは

デジタル放送の音声が乱れる/おかしい

症状	対処のしかた
音声が出ない/音声がおかしい。	● 二か国語放送などで、副音声や第2音声(デジタル放送のみ)になっていませんか?(☞19ページ) ● 「サラウンド」を「切」にしてください(☞44ページ)。 「TruSurround」にしていると、番組によっては、音が聞こえにくかったり、消えてしまったりすることがあります。
二か国語が混じって録画機器に録音されていた。	● デジタル放送/ビデオ出力端子につないだ録画機器にシンクロ録画またはAVマウスを使って録画するときは、あらかじめ「二重音声設定(シンクロ録画・AVマウス)」を設定してください(☞「設置・接続編」→「録画するための接続」→「録画予約をするための設定をする」)。 「主/副」を選んだ場合、録画機器で再生するときは録画機器のリモコンで聞きたい音声を選んでください。

BSデジタル・110度CSデジタル番組の購入などができない

症状	対処のしかた
ペイ・パー・ビュー(PPV)が購入できない。	● メディアレシーバーと電話回線が正しくつながれているか確認してください(☞「設置・接続編」の「準備4:電話回線につなぐ」)。 ● 電話回線の種類などが正しく設定されているか確認してください(☞「設置・接続編」の「準備15:電話回線を設定する」)。 ● ネットワーク(LAN)ケーブルをつないで、ネットワーク設定を行っていてもペイ・パー・ビューは購入できません。電話回線の接続が必要です。 ● 番組によっては購入可能時間が決まっているものがあります。 ● 番組の購入可能件数を超えると購入できなくなります。

次のページにつづく⇨

電源/録画予約/録画ランプが緑色に点滅する/表示が消えない

症状	対処のしかた
電源/録画予約/録画ランプが緑色に点滅する。 または、「取扱説明書をご覧いただき、BSアンテナ電源（コンバーター電源）を確認してください」と表示される。	**衛星アンテナをつないでいるときは** ①「設置･接続編」の「準備3：衛星アンテナをつなぐ」の内容を確認してください。それでも表示が消えないときは、メディアレシーバーの電源スイッチで電源を切り、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。 ②表示が消えたときは、「衛星アンテナ設定」を「オート」または「入」にしてから、もう1度受信設定してください。 「（設定）」→「（テレビの設定）」→「デジタル放送の設定」→「受信設定」→「BS/CS設定」→「衛星アンテナ設定」→「オート」または「入」の順に選ぶ。 **マンションなど共同受信システムのときは** ①「設置･接続編」の「準備3：衛星アンテナをつなぐ」の手順1 ～ 2に従って操作し、手順3で「衛星アンテナ設定」を「切」にしてください。 ②それでも表示が消えないときは、メディアレシーバーの電源スイッチで電源を切り、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

番組表

地上アナログ放送の番組表（Gガイド）について

番組表に表示されないチャンネルや番組がある

症状	対処のしかた
番組表が表示されない。	**番組情報の取得は、次の手順が必要になります。** ①接続と設定が終了しても、番組表のデータを受信するまでは表示されません。 ②受信までに、1日程度かかることがあります。 「設置･接続編」の「準備7：地上アナログ放送の設定をする」～「準備9：地上アナログ放送の番組表（Gガイド）の設定をする」を確認してください。 ● 日付や時刻が正しく設定されているか確認してください。 ● 録画中や2画面表示中は番組情報を取得できないことがあります。 ● 主電源が切の状態では番組情報は取得できません。 ● 番組表のデータを送信している放送局の受信状態が悪い場合、番組表を表示できないことがあります。 ● 間違った地域番号やガイドチャンネルが設定されていると番組情報を取得できません。「地域設定」で、正しい地域番号を入力し直してから「地上アナログ自動設定」を行ってください。 ● Gガイド番組情報送信放送局（ホスト局）または取得時刻が変わった可能性があります。正しい放送局や時刻を設定してください。 ● Gガイド番組情報送信放送局（ホスト局）または取得時刻が誤った設定に変更されています。「地域設定」と「地上アナログ自動設定」をもう1度やり直してください。 ● CATV（ケーブルテレビ）でご覧になっている場合、ケーブルテレビ会社の局内機器の都合により、番組情報が取得できない可能性があります。詳しくは、ケーブルテレビ会社にお問い合わせください。 ● お住まいの地域によっては、番組表を受信できない場合があります。 ● 番組表（Gガイド）取得チャンネルに設定されているチャンネルが、受信チャンネルに設定されていない場合、番組表を表示できません。 「地上アナログチャンネル登録」で、「受信チャンネル」の設定を行ってください。
表示されない放送局がある。	● 間違った地域番号が設定されています。「地域設定」で、正しい地域番号を入力し（☞「設置･接続編」の「準備9：地上アナログ放送の番組表（Gガイド）の設定をする」）、その後で「地上アナログ自動設定」をもう1度やり直してください。 ● 番組表のデータに含まれない放送局は表示されません。
番組表が更新されない。	● 更新時の受信状態が悪い場合、最新の番組表を受信できないことがあります。 ● 録画中や2画面表示中は番組情報を取得できないことがあります。 ● 主電源が切の状態では番組情報は取得できません。 ● Gガイド番組情報送信放送局（ホスト局）または取得時刻が変わった可能性があります。正しい放送局や時刻を設定してください（☞「設置･接続編」の「準備9：地上アナログ放送の番組表（Gガイド）の設定をする」）。

次のページにつづく⇨

番組表に表示されないチャンネルや番組がある(つづき)

症状	対処のしかた
「Gガイド受信チャンネルが設定されていないため番組表(Gガイド)を表示できません」と表示される。	● 番組表(Gガイド)取得チャンネルに設定されているチャンネルが、受信チャンネルに設定されていない場合、番組表を表示できません。 「地上アナログチャンネル登録」で、「受信チャンネル」の設定を行ってください。
番組表に表示されない番組がある。	● 受信状態が悪い場合、すべての番組表データを受信できないことがあります。 ● 時刻別番組表には、短い番組(5分間の番組など)は表示されません。チャンネル別番組表を使ってください(☞11ページ)。 ● 表示されている時刻に放送されない番組ではありませんか?
間違った放送局名が表示される。	● 間違った地域番号が設定されています。「地域設定」で、正しい地域番号を入力し直し(☞「設置・接続編」の「準備9:地上アナログ放送の番組表(Gガイド)の設定をする」)、その後で「地上アナログ自動設定」をもう1度やり直してください。 ● 引越しなどをして、地域番号が変更になったときは、「地域設定」で新しい地域番号を入力し直し(☞「設置・接続編」の「準備9:地上アナログ放送の番組表(Gガイド)の設定をする」)、その後で「地上アナログ自動設定」をもう1度やり直してください。

デジタル放送の番組表について

番組表に表示されないチャンネルや番組がある

症状	対処のしかた
番組表に表示されないチャンネルがある。	● デジタル放送では、番組表(☞10ページ)には各放送(地上デジタル、BSデジタル、CS1デジタル、CS2デジタル)の放送サービス(テレビ、ラジオ、データ)ごとに番組が表示されます。 ● 「チャンネル設定」で、番組表に表示されるチャンネルを設定できます。 「(設定)」→「(テレビの設定)」→「デジタル放送の設定」→「受信設定」→「チャンネル設定」の順に選ぶ。
番組表に表示されるデジタル放送の番組が少ない。	● 番組表を表示しているときに、オプションボタンを押して「番組情報取得」を選んでください(☞13ページ)。番組情報を取得し直します。
検索をしたときに表示される番組数が少ない。	● お買い上げ時、または長時間メディアレシーバーの電源スイッチで主電源を切った状態のときは、次に電源スイッチを押して主電源を入れたあとは、番組表に表示される番組が少ないことがあります。本機では、主電源を切っているときは放送局が送信する番組情報をデータ取得できないためです。
ジャンル検索した番組のジャンルが「番組説明」画面で表示されるジャンルと違っている。	● 「番組説明」画面(☞12ページ)では、代表的なジャンルが1つしか表示されませんが、1つの番組が複数のジャンル情報を持っていることがあり、それぞれのジャンルで検索できるためです。
キーワード検索をしても検索できない。	● キーワード検索は、デジタル放送の番組情報データの「番組概要」から検索するため、「番組概要」にキーワードが含まれていないと、検索できません。「番組概要」と一致したキーワードを入力してください。 ● キーワードの文字と「番組概要」の文字が完全に一致していないと、番組が検索できません。英数、半角/全角の違いやスペースも文字として検索するため、「番組概要」と一致したキーワードを入力してください。

予約

予約した番組が録画できない

症状	対処のしかた
録画予約した番組が録画されない。	● メディアレシーバーにつないだ録画機器側の入力を確認してください。 ●「録画方法」を「シンクロ録画」に設定しているときは、本機で録画予約した場合のみメディアレシーバー後面のデジタル放送/ビデオ出力端子から映像信号が出力されます。 見ている番組を録画したいときは、必ず、「いますぐ録画」(☞21ページ)で録画してください。 ● 予約した番組の開始時刻が変わったとき、「流動編成・イベントリレー対応設定」が「しない」に設定されていると、正しく録画できません。番組の変更に合わせて録画するには、「流動編成・イベントリレー対応設定」を「する」に設定してください(☞「設置・接続編」の「録画するための接続」→「録画予約をするための設定をする」)。 ● 予約が重複しているときは、ペイ・パー・ビュー(☞19ページ)は、番組の途中からは録画されず、予約自体が自動的に取り消されます(☞23ページ)。 ● 著作権が保護されている番組では、録画できない場合があります(☞56ページ)。 ●「録画予約確認」で、録画されなかった理由を確認してください(☞22ページ)。 ● 受信できる放送のチャンネル番号などが自動的に変わっていることがあります。予約した番組のチャンネル番号が変わっていると、録画ができないことがあります。
i.LINKでハードディスクレコーダーまたはブルーレイディスクレコーダー、D-VHSビデオに録画予約した番組が録画されない。	● i.LINK対応機器が正しく接続されているかご確認ください。ループになっていたりホップ数をオーバーしていたりすると、i.LINK対応機器が使えなくなります(☞61ページ)。 ● 接続に異常はありませんか? i.LINKケーブルがはずれていないかご確認ください。 ● 他のi.LINK対応機器をLINCしていませんか?録画実行中に、予約したハードディスクレコーダーまたはブルーレイディスクレコーダー、D-VHS以外のi.LINK対応機器をLINCすると、予約が取り消されることがあります。
AVマウスを使って録画予約した番組が録画されない。	● AVマウスの取り付け位置は正しいですか? ● 動作テストに1度成功しても、リモコンの受光感度の低い録画機器によっては、AVマウスでの録画予約がうまくいかないことがあります。 ● リモコンコードは正しく設定できていますか? (☞「設置・接続編」の「録画するための接続」→「AVマウスを設定する」) お使いの録画機器によってはリモコンコードを設定できないことがあります。 ● お使いの録画機器のメーカー名とリモコンコードが正しく入っていて、AVマウスで操作できるか動作確認してください。 ● 次の機器ではAVマウスは使えません。シンクロ録画に対応している機器はシンクロ録画を行ってください。シンクロ録画に対応していない機器は録画機器の予約機能を使って録画してください。 − ビデオ一体型テレビ(テレビデオやビデオコンボなど)のとき − AVマウスのリモコンコードで録画機器が操作できないとき(メーカーによっては、本機で操作できないリモコン信号が採用されているためです。)

次のページにつづく⇨

予約した番組が録画できない(つづき)

症状	対処のしかた
AVマウスを使って録画予約した番組が録画されない。(つづき)	● お使いの録画機器は、電源スイッチを押すたびに電源が入/切するタイプですか?入→スタンバイ→切のように切り換わるタイプの録画機器では、正しく録画できないことがあります。 ● 予約後、開始時刻までにメディアレシーバーの電源スイッチで主電源を切っていると、電源が入らないため、録画が実行されません。 ● 予約の際、録画機器の電源を「切」にしましたか? ● 録画機器の入力切換は正しいですか? ● ソニー製のDVDレコーダーやハードディスクレコーダー、ブルーレイディスクレコーダーなどで録画するときは、自動的に本機をつないだ入力に切り換わるように設定してください(☞「設置・接続編」の「録画するための接続」→「AVマウスを設定する」)。 ● 地上アナログは録画予約できません。お使いの録画機器の予約機能を使って録画してください。 ● ソニー製ハードディスク搭載DVDレコーダーにAVマウスをつなぐときは、リモコンコードを「DVD(1)」に設定してください(☞「設置・接続編」の「録画するための接続」→「AVマウスを設定する」)。
本機で再生している映像が録画できない。	● 次の映像や音声は、デジタル放送/ビデオ出力端子からは出力されません。 － コンポーネント入力端子につないだ機器からの映像・音声信号 － "メモリースティック"に記録された静止画・動画 － 字幕放送やi.LINKで録画した番組の字幕の映像信号 － デジタル放送のラジオやデータの画像(音声は出力され記録できます) － i.LINKで録画したデジタル放送のラジオやデータの画像(音声は出力され記録できます) － S2映像出力端子からは、デジタル放送の映像とビデオ1～3入力のS2映像入力端子につないだ機器の映像のみが出力されます。
録画予約した番組の再生した映像が映らない、乱れる。	● 「録画予約確認」画面で、録画時の状況を確認してください(☞22ページ)。

メニューやリモコン

メニューが選べない/表示が消えない

症状	対処のしかた
設定したメニューの項目が正しく反映されていない。	● デジタル放送の信号には、多くの情報が含まれています。そのため、メニューの項目を設定した直後(約2分以内)に、メディアレシーバーの電源スイッチで主電源を切ると、設定した内容が反映されないことがあります。このときは、もう1度設定し直してください。
「B-CASカードとのアクセスが成立しません　B-CASカードを抜き差ししても直らない場合はカスタマーセンターに連絡してください」と表示される。	● B-CASカードが奥までしっかり入っているか、入れる向きが前後、表裏逆向きになっていないか確かめてから、もう1度正しい向きで入れ直してください(☞「設置・接続編」の「準備1:B-CASカード(デジタル放送用ICカード)を挿入する」)。 入れ直してもメッセージが表示されるときは、ご覧になっているデジタル放送の放送局や110度CSの衛星サービス会社のカスタマーセンターへお問い合わせください(☞「設置・接続編」の「準備14:各放送局に視聴を申し込む」)。 ● B-CASカードが破損している場合は、ご覧になっているデジタル放送の放送局や110度CSの衛星サービス会社のカスタマーセンターまたはB-CASカスタマーセンター(電話番号0570-000-250)へお問い合わせください。 ● 付属のB-CASカード以外は使えません。

リモコンが働かない/おかしな働きをする

症状	対処のしかた
リモコンで本機を操作できない。	● リモコンを開いたときに、表示窓に「TV」と表示されていますか？ 表示されていないときは操作切換▲/▼ボタンを押して、「TV」を表示させてから、本機を操作してください。 ● 電池を交換してください。 ● 電池の⊕⊖を正しい向きに入れてください。 ● スタンバイ/オフタイマーランプが赤く点灯していないときは、メディアレシーバーの電源スイッチを押してください。 ● リモコンをディスプレイのリモコン受光部に正しく向けて、近くから操作してください。 ● リモコン受光部に蛍光灯などの強い照明があたっているときは、照明があたらないように、照明器具または本機の位置を調整してください。 ● 近くに電子レンジがあるときは操作できないことがあります。 ● バージョンアップ(☞85ページ)中は、リモコンで操作できません。 ● リモコンを開いた状態のときは、裏面(銀色側)のボタンは働きません。
本機のリモコンで、つないだ機器を操作できない。	● リモコンコードは正しく登録されていますか？（☞36ページ)。 ● コントロールS接続コードをつないでいない機器を操作するときは、リモコンを直接機器に向けてください(☞38ページ)。 ● コントロールS接続コードをつないだ機器を操作するときは、リモコンをディスプレイまたはつないだ機器のどちらか一方に向けてください(☞38ページ)。つないだ機器に付属しているリモコンを使うときも同じです。

次のページにつづく⇨

リモコンが働かない/おかしな働きをする（つづき）

症状	対処のしかた
リモコンの(1)～(12)の数字ボタンを押しても、チャンネルが選べない。	**ワンタッチ選局の場合** ● 数字ボタンを押す前に、見たい放送（地上アナログ、地上デジタル、BSデジタル、110度CSデジタル）に切り換えましたか？ （☞8ページ） **10キー選局の場合** ● 数字ボタンを押す前に、見たい放送（地上アナログ、地上デジタル、BSデジタル、110度CSデジタル）に切り換えて、(10キー)を押しましたか？ ● 地上デジタルのチャンネルでチャンネル番号に枝番があるときは、チャンネル番号を入力した後で、(11)を押してから枝番を入力してください。 ● 11チャンネルは(1)を2回、12チャンネルは(1)と(2)を続けて押してから、(12)を押してください。 ● (1)～(10)の数字ボタンに続けて(12)を押してください。
電源ボタン以外のボタン操作で本機の電源が入る。	● 故障ではありません。電源ボタン以外でも、ホームボタンや(1)～(12)の数字ボタン、チャンネル＋/－ボタン、地上アナログボタン、地上デジタルボタン、BSボタン、CSボタンを押せば、本機の電源が入ります。

i.LINK(アイリンク)

i.LINK対応機器を操作できない

症状	対処のしかた
i.LINK対応機器をLINCできない/操作できない/操作に時間がかかる。	● 接続に異常はありませんか？ i.LINKケーブルがはずれていないかご確認ください。また、i.LINK対応機器の電源ケーブルがはずれていないかご確認ください。 ●「接続機器選択」画面で、LINCしたい機器の左横に◎マークが表示されていますか？(☞「設置・接続編」の「i.LINK(アイリンク)機器をつなぐ」→「i.LINK対応機器の設定をする」) ● i.LINK対応機器が正しく接続されているかご確認ください。ループになっていたりホップ数をオーバーしていると、i.LINK対応機器を使用できなくなります(☞61ページ)。 ● 機器によっては、正しくLINCできないことがあります。また、LINCできても、デジタル信号が正しくやりとりされないことがあります。詳しくは、つないだi.LINK対応機器の取扱説明書をご覧ください。 ● つないだ機器の電源が切られていたり、省電力モードに入っていませんか？ i.LINKのデジタル信号は、つないだ他のi.LINK対応機器にも中継されるため、途中の機器の状態にも影響されます。詳しくは、つないだi.LINK対応機器の取扱説明書をご覧ください。 ● i.LINKは、すべてのi.LINK対応機器間での接続動作を保証するものではありません。i.LINK機器間でデータやコントロール信号がやりとりできるかどうかは、それぞれの機器の機能によって異なります。 ● 接続対象機器以外の機器の動作は保証しません。また、推奨機種以外のD-VHSをつないでも、正しく動作しない場合があります。 **対応していない機器** － ソニー製デジタルビデオカメラレコーダー DCR-VX1000 － パソコン － MDデッキ ● 最大データ転送速度が異なる機器をつないだ場合や、機器の仕様により、実際の転送速度が表記と異なることがあります。最大データ転送速度は、i.LINK端子の周辺に表記されていて、数字は転送速度を表します。表記がS400ならば、400Mbpsが最大データ転送速度になります。
i.LINK操作パネルが操作できない。	● 本機のi.LINK操作パネルを使って操作できるi.LINK対応機器を確認してください(☞62ページ)。 ● D-VHSによっては、本機のi.LINK操作パネルで操作できないことがあります。 ● D-VHSによっては、⏮を押したときに前の番組の先頭まで巻き戻してしまうことがあります。 ● ソニー製D-VHSビデオデッキSLD-DC1も、本機のi.LINK操作パネルで操作できますが、デジタルハイビジョン信号HDは録画できません。
リモコンでi.LINK機器を操作できない。	● リモコンを開いたときに、表示窓に「TV」と表示されていますか？ 表示されていないときは操作切換▲/▼ボタンを押して、「TV」を表示させてから、本機を操作してください。

困ったときは

次のページにつづく⇨

i.LINK（アイリンク）（つづき）

デジタル録画・再生・ダビングができない

症状	対処のしかた
ハードディスクレコーダーまたはブルーレイディスクレコーダー、D-VHSにデジタル録画できない。	● ハードディスクレコーダーまたはブルーレイディスクレコーダー、D-VHSをLINCしてください（☞30ページ）。 ● 著作権が保護されている番組では、記録できない場合があります（☞56ページ）。 ● ソニー製D-VHSビデオデッキSLD-DC1は、デジタルハイビジョン信号 HD を録画できません。
ハードディスクレコーダーからD-VHSにダビングできない。	● D-VHSによってはダビングできません。 ● D-VHSにオートリンク機能があるときは「切」にしておいてください。
i.LINK対応機器に録画された番組や映像を再生できない。	● デジタルビデオカメラレコーダーの映像を再生するときに、デジタルビデオカメラレコーダーの電源は入っていますか？

ムーブができない

症状	対処のしかた
ハードディスクレコーダーからD-VHSにムーブできない/失敗した。	● お使いの機器はムーブに対応していますか？（☞33ページ） ● DVカムコーダーやDVデッキを接続すると、ダビングやムーブができないことがあります。ダビングやムーブを行うときはこれらの機器をはずしてください。 ● D-VHSによってはムーブできません。 ● D-VHSにオートリンク機能があるときは「切」にしておいてください。

“メモリースティック”とUSB

“メモリースティック”について

“メモリースティック”が使えない/エラーになる

症状	対処のしかた
“メモリースティック”の画像が出ない。	• “メモリースティック”は正しく挿入されていますか？（☞25ページ） • ホームメニューの「(フォト)」または「(ビデオ)」で「(メモリースティック)」を選んで操作してください(☞24、26、27ページ)。 • “メモリースティック”に静止画または動画が記録されていますか？
「このメモリースティックは保存できません」と表示される。	• 書き込みできない“メモリースティック”です。メモした画面の保存はできません。他の“メモリースティック”を使ってください。
「メモリースティックに保存できない信号です」と表示される。	• “メモリースティック”にメモした画面を保存できるのは、地上アナログとビデオ入力の映像だけです(☞18ページ)。
「メモリースティックがありません」と表示される。	• “メモリースティック”は正しく挿入されていますか？（☞25ページ）
「メモリースティックエラー」と表示される。	• “メモリースティック”の異常です。“メモリースティック”を1度抜いて、入れ直してみてください(☞25ページ)。 • “メモリースティック”が壊れていることがあります。他の“メモリースティック”を入れてみてください。
ファイル名が正しく表示されない。	• ファイル名をパソコンなどで変更していませんか？（☞59ページ） • ファイル名は正しくつけられていますか？（☞59ページ）
「フォーマットエラー」または「フォーマットが必要です」と表示される。	• “メモリースティック”が正しく初期化されていません。“メモリースティック”を初期化し直す(☞47ページ)か、別の“メモリースティック”を入れてください。
「メモリースティックタイプエラー」と表示される。	• 本機では使用できない“メモリースティック”です(☞59ページ)。
「メモリースティックがロックされています」と表示される。	• “メモリースティック”の誤消去防止スイッチを解除してください(☞58ページ)。

困ったときは

次のページにつづく⇨

“メモリースティック”が使えない/エラーになる(つづき)	
症状	対処のしかた
「読み出し専用のメモリースティックです」と表示される。	● 読み出し専用の“メモリースティック”です。“メモリースティック”への書き込みはできません。
「アクセスは禁止されています」と表示される。	● “メモリースティック PRO”の電子ロック機能が有効になっています。専用のソフトウェアで電子ロックを解除してください。
「ファイルが多すぎます　フォルダ別表示モードになります」と表示される。	● 動画ファイルを最大2000個までシームレスに表示できます。記録されているファイルが2000個より多いときは、フォルダ別表示モードに切り換わります。フォルダを選びたいときは、オプションから「フォルダ選択」を選んでください(☞27ページ)。
「表示されないフォルダがあります」と表示される。	● 静止画が入っているフォルダは、100個までしか表示されません。
「表示されないファイルがあります」と表示される。	● 静止画は1つのフォルダに1000個までしか表示されません。記録されているファイルが1000個より多いときは、ファイルを複数フォルダに分けてください。

USBについて

USBにつないだ機器の画像が出ない	
症状	対処のしかた
デジタルカメラの画像が出ない/アイコンが表示されない。	● USBケーブルは正しく接続されていますか?（☞25ページ） ● デジタルカメラの電源は入っていますか? ● デジタルカメラにメモリーカードなどは正しく入っていますか? ● デジタルカメラに入れているメモリーカードなどがフォーマットされていなかったり、壊れたりしていませんか?正しくフォーマットされているか、またはデジタルカメラなどで表示できるか確認してください。

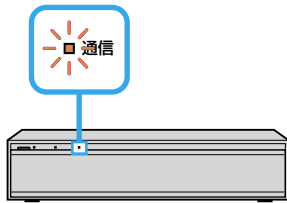
電源スタンバイ中の動作について

電源スタンバイ中(スタンバイ/オフタイマーランプが赤く点灯)、以下のデータを受信したときに、「カチッ」と音がして、メディアレシーバー前面の通信ランプが長時間にわたり点灯し続けることがあります。

－デジタル放送を正しく受信するためにデジタル放送から送られてくるデータの受信中および最新のソフトウェアのダウンロード中

－放送局が送信する番組表などの番組情報データ取得中

－放送局が送信する有料放送の契約·購入状況、双方向サービス情報の取得中

ダウンロード中/データ取得中の表示

通信ランプ点灯中は、本機内部の回路が自動的に動作し、データ受信とソフトウェアの書き換えを行っていますが、**受信するデータによっては数時間かかる**ことがあります。また、動作中は回路保護のため、冷却ファンも同時に動作し続けますが、故障ではありません。

データ受信やソフトウェアの書き換えが終了すると、自動的に電源スタンバイ状態に戻り、通信ランプも消灯します。

ダウンロードの流れについて

自動でデジタル放送からダウンロードする機能について

本機の電源が入っている間に最新バージョンの本機内部ソフトウェアをダウンロードし、リモコンで電源オフした時に内部ソフトウェアをバージョンアップする機能です。ソフトウェア書き換え用のデータ信号は、デジタル放送電波の中に含まれて送信されます。

お買い上げ時は、本機がダウンロードを自動で行う設定(「デジタル放送からのダウンロード」が「オート」)になっているため、お客様が操作や設定することなく、常に最新版に書き換えられたソフトウェアで、デジタル放送を正しく受信し、お楽しみいただけます。

次の2つの条件を満たしていれば、電源スタンバイ中に、自動でダウンロードが行われます

条件1 衛星アンテナの「現在の受信レベル」が『20以上』になっている。または、地上デジタルを安定して受信できている。

衛星アンテナレベルが20未満のとき、または地上デジタルが安定して受信できていないときは、ダウンロードが正しく行われません。衛星アンテナのときはアンテナの向きを調整して、受信レベルを20以上にしてください。地上波アンテナのときはお買い上げ店にご相談ください。

アンテナの受信レベルを確認するには

ホームメニューの「地上デジタルアンテナレベル」および「衛星アンテナレベル」画面に表示されます。

衛星アンテナのときは、20以上であれば、ダウンロードが正しく行われます。

「地上デジタルアンテナレベル」画面を表示するには

「(設定)」→「(テレビの設定)」→「デジタル放送の設定」→「受信設定」→「地上デジタル設定」→「地上デジタルアンテナレベル」の順に選ぶ。

「衛星アンテナレベル」画面を表示するには

「(設定)」→「(テレビの設定)」→「デジタル放送の設定」→「受信設定」→「BS/CS設定」→「衛星アンテナレベル」の順に選ぶ。

条件2 「デジタル放送からのダウンロード」が「オート」の設定*1になっている。

「デジタル放送からのダウンロード」が「しない」に設定されていると、ダウンロードが行われません。

「デジタル放送からのダウンロード」を設定するには

「(設定)」→「(テレビの設定)」→「デジタル放送の設定」→「各種設定･その他」→「デジタル放送からのダウンロード」→「オート」の順に選ぶ。

*1 お買い上げ時の設定です。

ご注意

- 手動ではダウンロードできません。
- ダウンロードを行わないように設定すると、デジタル放送が正しく受信できなくなることがあります。そのため、自動でダウンロードできる設定のままお使いいただくよう、強くおすすめします。
- お買い上げ時は「自動チャンネル変更」が「する」に設定されているため、新しく放送局が開設されたときなどは、ダウンロードによって受信できる放送のチャンネル番号などが自動的に変わります。録画予約を設定しているときは、チャンネル番号が変わると正しく予約が行われないことがありますので、ご注意ください。

  「(設定)」→「(テレビの設定)」→「デジタル放送の設定」→「受信設定」→「地上デジタル設定」→「自動チャンネル変更」の順に選ぶ。

ダウンロードが行われるときは

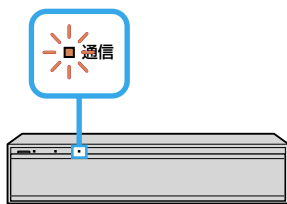
デジタル放送からソフトウェア書き換え用のデータ信号が送信されてきたときは、「**ダウンロードのお知らせ」のメールが届きます。**

「ダウンロードのお知らせ」のメールを確認したいときは☞16ページをご覧ください。

ダウンロードの実行中は

ダウンロードは自動的に行われます。

数時間ごとに、デジタル放送から数分程度のソフトウェア書き換え用のデータ信号が送信され、本機がその信号を受信し、本機内部のソフトウェアを最新の内容に自動で書き換えます。書き換えは、30分前後かかります（内容により時間は異なります）。

また、ダウンロード中は、メディアレシーバー前面の通信ランプが点灯します。

ダウンロードについてのQ&A

「1回目の信号でうまくダウンロードできなかったら？」
ご安心ください。ソフトウェア書き換え用のデータ信号は、一定の期間内に何回も送信されます。

「電源コードを抜いておくとダウンロードされないの？」
電源コードが抜かれていたり、メディアレシーバーの電源スイッチで主電源を切ったりしたときは、ダウンロードは行われません。

「ダウンロード中に主電源を切るとどうなるの？」
ダウンロード中は、メディアレシーバーの電源スイッチで電源を切ったり、電源コードを抜いたりしないでください。ダウンロードの中断により、ソフトウェアの書き込みが途中で終了し、誤動作を起こす場合があります。

「ダウンロードによって、設定内容がお買い上げ時の状態に戻ったりしないの？」
ご安心ください。お客様が設定した内容は書き換えられることなく、保持されます。

バージョンアップの実行

視聴中にダウンロードが終了した場合は、リモコンで電源を切ると自動で内部ソフトウェアをバージョンアップします。

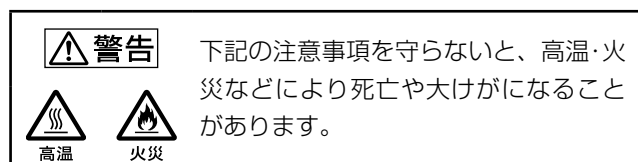
ダウンロード終了後、メディアレシーバーのスイッチで電源を切った場合は、次に電源を入れたときに確認画面が表示されます。「開始する」を選んで(決定)を押すか、または数秒間なにも操作をしなければ、自動的に電源が切れて、内部ソフトウェアをバージョンアップします。バージョンアップ中は、しばらく操作できないことがあります。

バージョンアップが正常に終了すると

「ダウンロードのお知らせ」のメールが自動的に削除され、そのかわりに、「**バージョンアップ終了のお知らせ」のメールが届きます。**

光源用ランプを交換する

光源として使用されているランプは消耗品ですので、定期的な交換が必要です。使用時間の経過により映像が次第に暗くなり、最終的には不点灯状態になります。不点灯状態になるとき、まれに大きな破裂音を伴うことがあります。
ディスプレイ前面のLAMPランプが赤く点滅したときは、お近くのソニー商品取扱い販売店などで別売りの新しいランプユニットXL-5000を購入してください。なお、本機には交換用スペアランプが1個付属しています。

⚠警告 下記の注意事項を守らないと、高温･火災などにより死亡や大けがになることがあります。

- 新しいランプは、**必ずランプユニットXL-5000をお使いください。**それ以外のものをお使いになると、故障の原因となります。
- **ランプ交換以外の目的でランプを取り出さないでください。**やけどや火災の原因となることがあります。
- ランプを交換する前に**必ず電源を切り、数分たってから電源プラグを抜いてください。**
  電源スイッチを切っても、約2分間は冷却用ファンが動いています。
- ランプ前面のガラス面などは、電源を切って30分たっても100度以上になっていることがあります。さわるとやけどの原因となりますので、**充分冷えてからランプを交換してください。**
- **取り出したランプをお子様の手の届くところや、燃えやすい物の近くには置かないでください。**
- 取り出した**ランプに水などをかけたり、ランプ内部に異物を入れないでください。**ランプが破損する場合があり危険です。
- ランプを抜いたあとの**ランプ収納部**に金属類や燃えやすい物などの**異物を入れないでください。**火災や感電の原因となります。また、やけどの危険がありますのでランプ収納部に**手を入れないでください。**
- **ランプは確実に取り付けてください。**正しく取り付けられていないと、画面が暗くなったり、火災の原因となることがあります。
- 前面パネルの取りはずしや取り付け作業は2人で行うようおすすめします。

使用済みのランプついて

本機のランプおよび交換用スペアランプの中には、水銀が含まれています。廃棄の際は、一般の廃棄物と一緒にせず、地方自治体の条例または規則に従ってください。

1 メディアレシーバーの電源スイッチを切り、数分たってからメディアレシーバーとディスプレイ両方の電源プラグをはずす。

電源スイッチを切っても、約2分間は冷却用ファンが動いています。
電源プラグは、電源スイッチを切って数分たってから抜いてください。ランプ交換は、電源プラグを抜いて30分以上たってから行ってください。
用意した交換用スペアランプを箱から出しておいてください。

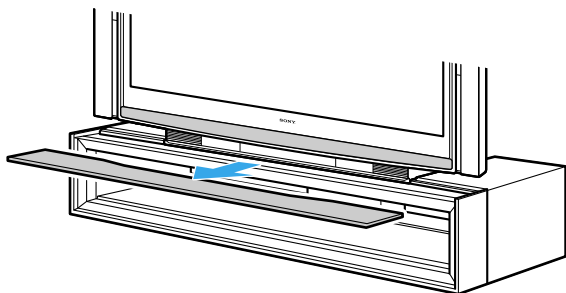
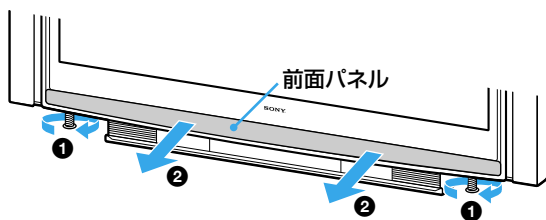
ご注意

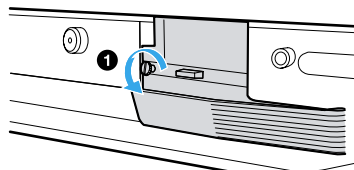
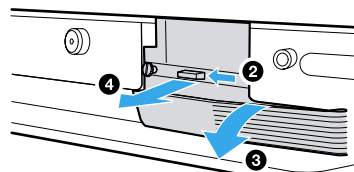
交換用スペアランプを揺すったりしないでください。振動はランプを傷めたり、寿命が短くなる原因となります。

ご注意

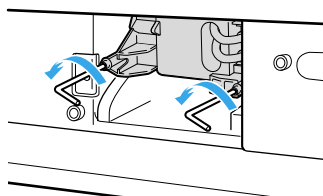
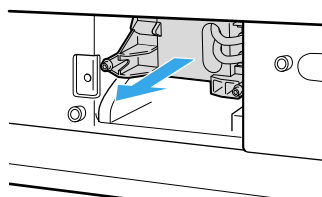
光源用ランプ前面のガラス面やランプ収納部のガラス部分には直接手で触れたり、汚したりしないでください。テレビの画質の悪化や、ランプの寿命が短くなる原因となります。

2　別売りの専用テレビスタンドSU-SX10をお使いのときは、テレビスタンドの前面カバーを取りはずす。

取りはずしかたについては、テレビスタンドの取扱説明書をご覧ください。

3　ディスプレイの前面パネルをはずす。

❶ 前面パネル下の両端にあるネジをゆるめる。
❷ 前面パネルの矢印部分を持ち、少し強めに手前に引いて取りはずす。
このとき前面パネルを本機やスタンドにあてて傷つけないようにご注意ください。

4　本機右側のランプカバーをはずす。

❶ ランプカバーのネジをゆるめる。

❷ ランプカバーのつまみを左に押す。
❸ ランプ下のパネルを取りはずす。
❹ ランプカバーのつまみを持ち、手前に引いて取りはずす。

5　ランプを取り出す。

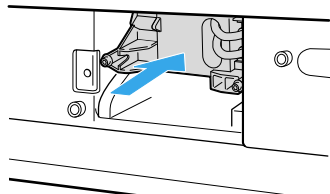
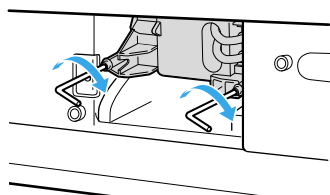
使用直後のランプは非常に高温になっています。ランプ前面のガラス面およびその周辺とランプ収納部のガラス部分には絶対さわらないようご注意ください。

左右2か所のネジを交換用スペアランプに付属の六角レンチでゆるめる。

手前に引き出す。

次のページにつづく⇨

ご注意

- 取り出したランプはすぐに交換用スペアランプの空き箱に収納してください。また、このときポリ袋の中には入れないでください。
- ランプを取り出したあと、ランプ挿入口の中に付着しているほこりを掃除機で吸い取ってください。
- ランプカバーをしっかり取り付けていないと、自己診断機能が働き、ディスプレイ前面のPOWER/STANDBYランプが赤く3回点滅します（☞63ページ）。

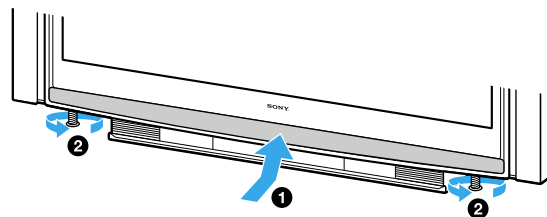
6 新しいランプを取り付ける。

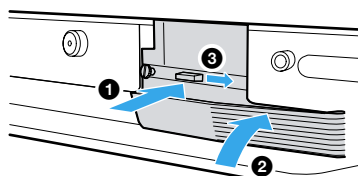
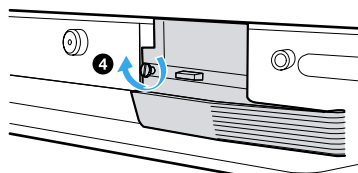
ランプは確実に取り付けてください。

ランプ前面のガラス面を左にして、
しっかりと入れる。

左右2か所のネジを交換用スペア
ランプに付属の六角レンチで
しっかりと締める。

7 ランプカバーを取り付ける。

ランプカバーは確実に取り付けてください。
正しく取り付けられていないと、電源が入
りません。

❶ ランプカバーを元の位置に入れる。
❷ ランプ下のパネルをはめる。
❸ ランプカバーのつまみを右に押す。

❹ ネジをしっかりと締める。

8 前面パネルを取り付ける。

❶ 前面パネル上部をスクリーン下部に差し入れ、押す。
❷ パネル下の両端にあるネジをしっかりと締める。

ご注意

- 本機には交換用スペアランプ（1個）が付属していますが、新しいランプについてはお近くの販売店で別売りのランプユニットXL-5000を購入してください。また、ランプは寿命が来る前に、ご用意されるようおすすめします。
- 前面パネルは重いので、指をはさんだり落としたりしてけがなどしないようにしてください。

お手入れ

ディスプレイのスクリーン面のお手入れについて

スクリーン面は反射による映り込みを押さえるため、特殊な表面処理を施してあります。誤ったお手入れをした場合、性能を損なうことがありますので、以下のことをお守りください。

- スクリーン表面に付いた汚れは、付属のクリーニングクロスで軽く拭いてください。
- 汚れがひどいときは、付属のクリーニングクロスに水で薄めた中性洗剤を少し含ませて、拭きとってください。
- スクリーン表面に付いたほこりは、付属の静電防止ブラシで取り除いてください。ほこりとともに静電気も取り除くため、ほこりが付きにくくなります。
- アルコールやベンジン、シンナー、酸性洗浄液、アルカリ性洗浄液、研摩剤入り洗浄剤、化学ぞうきんなどはスクリーン表面を傷めますので絶対に使用しないでください。
- 汚れた付属のクリーニングクロスは、中性洗剤を薄めたぬるま湯で洗って、くり返しお使いください。
- 布にゴミが付着したまま強く拭いた場合、傷が付くことがあります。

外装のお手入れについて

- 乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。汚れがひどいときは、薄い中性洗剤溶液を少し含ませた布で拭きとり、乾いた布でカラ拭きしてください。
- アルコールやベンジン、シンナー、殺虫剤をかけると、表面の仕上げを傷めたり、表示が消えてしまうことがあるので、使用しないでください。
- 布にゴミが付着したまま強く拭いた場合、傷が付くことがあります。

保証書とアフターサービス

本機は日本国内専用です。電源電圧や放送規格の異なる海外ではお使いになれません。

保証書について

- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です（ランプは除く）。
- ランプの保証期間は、90日間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

「困ったときは」の項を参考にして、故障かどうかをお調べください。

それでも具合が悪いときはサービス窓口へ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にある、お近くのソニーサービス窓口にご相談ください。
BSデジタル、110度CSデジタルの放送局との受信契約や番組に関しては、ご覧になりたい放送局のカスタマーセンターや衛星サービス会社、B-CASカスタマーセンター（電話番号0570-000-250）に問い合わせてください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では、カラーテレビの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとでも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、ソニーサービス窓口にご相談ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

型名： KDS-70Q006
型名について詳しくは、☞63ページをご覧ください。
故障の状態：できるだけくわしく
購入年月日：

お買い上げ店 TEL.
お近くのサービスステーション TEL.

This television is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.

その他

用語集

五十音順

ア行

インターレース（飛び越し走査）（☞54ページ）

走査線525本のうち、まず奇数番目の走査線（262.5本）を1/60秒かけて描き（この1画面を1フィールドという）、次にその間を埋めるように偶数番目の走査線（262.5本）を描き、合わせて走査線525本の1枚の完全な画面（フレーム）を作っていく飛び越し走査のことです。

カ行

緊急警報放送（☞55ページ）

地上デジタル、BSデジタルの標準テレビ信号SDのマルチ放送を利用した放送です。
緊急警報放送には、地震などの災害時に放送される緊急ニュース番組などがあります。

ケーブルテレビ（CATV）（☞53ページ）

契約者と放送局をケーブルで直接結んで番組を提供する有線放送です。地上アナログのテレビ番組や地上デジタル、BSアナログに加え、スポーツや映画の専門チャンネル、地域情報番組や文字放送などを見ることができます。

降雨対応放送（☞55ページ）

激しい雨による映像・音声の遮断を防ぐために、通常の放送に並行して、降雨に強い方式で同じ番組を送るものです。
本機では、お買い上げ時、番組によって降雨対応放送に自動的に切り換わるように設定されています。
降雨対応放送は、画質や音質が通常の放送に比べ低下します。

サ行

識別制御信号（☞40ページ）

識別制御信号とは、オリジナル映像の横縦比をテレビで忠実に再現するためのコントロール信号です。この信号を含んだ映像には、次のものがあります。
– デジタル放送の標準テレビ信号SD
– 横縦比情報の入ったビデオカメラなどの記録映像（ID-1方式やS2方式）
– D4入力端子からの横縦比情報の入った映像

字幕放送（☞19ページ）

画面上に、セリフなどの字幕を表示できる放送です。
本機では、字幕を入/切したり、字幕の言語を切り換えたりできます。

シンクロ録画（☞21ページ）

本機から録画する番組の信号が、録画機器の入力端子に入力されると、録画機器側で自動で録画を開始する機能です。

走査線（☞54ページ）

テレビは、左から右へ流れる電子ビームを上から下へ送ることで画面を作っています。この電子ビームが作る線を走査線と呼び、走査線によって、どのように画面を作っていくかで、インターレースやプログレッシブなどの方式があります。

タ行

地上デジタル（☞8ページ）

2003年12月に一部地域で放送が開始された、地上波によるデジタル放送です。UHFの周波数帯域を利用して送信されます。
デジタル信号で大量の情報を扱えるので、多チャンネルの放送を高画質・高音質で楽しめます。くっきりはっきりした高画質のHDTV（高精細度テレビ）や、また文字や画像などのデータ放送などがあります。

デジタルハイビジョン信号HD（☞54ページ）

デジタル放送の画像方式で、1125iと750pがあり、大画面になっても走査線（テレビ画面を水平に走る線）が目立たなく、35mm映画なみの臨場感あふれる高精細画質を楽しめます。

デジタル・リアリティー・クリエーション：マルチファンクション（DRC-MF）（☞42～43ページ）

地上アナログやビデオなどのNTSC映像を、ソニー独自のデジタル信号処理アルゴリズムによって、高精細なリアル映像につくり換えます。従来の線形補間方式の処理とは全く異なり、動画部分の輪郭のボケが少ないスッキリとした画像になります。また、映像によって、きめ細かく自然な映像にする「モード1」と、チラツキを抑えた映像にする「モード2」を切り換えられます。
さらに、本機では、DRC-MFパレットで映像に合った好みの画質に調整できます。

ハ行

ビスタビジョン（☞41ページ）

画面の横縦比が1.85:1になっている映像ソフトのことです。一般的には画像の中に字幕が入る映画などに使われています。

標準テレビ信号SD（☞54ページ）

デジタル放送の画像方式で、525pと525iがあり、525iは地上アナログと同等の画質です。

プログレッシブ（順次走査）（☞54ページ）

飛び越し走査（「インターレース」の項目を参照）をしないで、1フレーム目で525本全部の走査線を順番どおりに描き、次のフレームも同じ場所を525本全部の走査線で描いていく順次走査のことです。

マ行

マルチチャンネル放送（☞55ページ）

地上デジタルやBSデジタルの標準テレビ信号SDのマルチ放送を利用した放送です。
同じ放送局の複数のチャンネルで、それぞれ違う番組を放送する場合と、同じ放送局の別のチャンネルで臨時放送を行う場合があります。

マルチビュー放送（☞55ページ）

地上デジタルやBSデジタルの標準テレビ信号SDのマルチ放送を利用した放送です。
生中継の番組などで、最大3つの映像を同じチャンネルで楽しめます。
それぞれのカメラからの映像を、本機のリモコンの映像切換ボタンで切り換えて見ることができます。

その他

次のページにつづく⇨

ヤ行

有効走査線数（☞54ページ）

走査線のうち、映像信号が載っている走査線の数のことを言います。地上アナログでは、525本ある走査線のうち有効走査線数は480本です。BSアナログのハイビジョン放送では同じく1125本中1035本、デジタルハイビジョン信号HDでは、1125本中1080本となっています。
なお、有効走査線に含まれていない残りの走査線（映像信号の載っていない走査線）には、画面の横縦比を規定した識別制御信号などが載っています。

ラ行

臨時放送（☞55ページ）

地上デジタルやBSデジタルの標準テレビ信号SDのマルチチャンネル放送を利用した放送です。
同じ放送局の別のチャンネルで、臨時放送を行います。

数字・アルファベット順

110度CSデジタル（☞8ページ）

2002年3月から始まった、110度デジタル衛星N-SAT-110によってデジタル信号で映像や音声を流す放送のことです。大量の情報を扱えるので、多チャンネルの放送を高画質・高音質で楽しめます。文字や画像などのデータ放送、音楽CD並みの高音質な放送などがあります。

5.1ch（**チャンネル**）
（☞44、54ページ）

左フロント、右フロント、センター、左リア、右リアの5本のスピーカーとサブウーファーから、それぞれ独立した音声を出力できるサラウンド方式です。
本機の光デジタル音声出力端子に5.1ch対応のオーディオ機器をつなぐと、本機が受信した5.1chサラウンドの音声を楽しめます。

AAC（☞45ページ）

デジタル放送で標準に定められたデジタル音声方式です。「アドバンスド・オーディオ・コーディング（Advanced Audio Coding）」の略で、高い圧縮率で音楽CD並みの音質を実現します。

B-CASカード（**デジタル放送用ICカード**）（☞53ページ）

プラスチック・カードに集積回路を埋め込んだものです。チャンネルの契約、購入内容などの情報がB-CASカードに記憶されます。記憶された情報は、電話回線を通じて放送局に送信されます。

BSデジタル（☞8ページ）

2000年12月から始まった、放送衛星（BS）によってデジタル信号で映像や音声を流す放送のことです。大量の情報を扱えるので、多チャンネルの放送を高画質・高音質で楽しめます。くっきりはっきりした高画質のHDTV（高精細度テレビ）や、また文字や画像などのデータ放送、音楽CD並みの高音質な放送などがあります。

DCF（☞59ページ）

（社）電子情報技術産業協会にて制定された統一規格“Design rules for Camera File systems”のことです。

EPG（☞10ページ）

「エレクトロニック・プログラム・ガイド（Electronic Program Guide）」の略で、放送局から送信される番組表（タイトルや番組説明、放映時間など）のことです。

Gガイド（☞10ページ）

（株）インタラクティブ・プログラム・ガイドがサービス主体となり、特定の放送局の放送波を利用して番組表を送信するサービスです。
番組表のデータ送信は（株）インタラクティブ・プログラム・ガイドとデータ送信を行う放送局側で行われているため、都合によりデータが送信されない場合もあります。

HDMI（☞28ページ）

テレビ接続機器のデジタル映像・音声信号を直接つなぐインターフェースです。HDMI端子（DVDプレーヤー、AVアンプなど）とテレビを1本のケーブルで接続することで高画質な映像とデジタル音声を楽しめます。
対応している映像信号：525i（480i）、525p（480p）、1125i（1080i）、750p（720p）
対応している音声信号：リニアPCM 32kHz、44.1kHz、48kHz、

ID-1方式（**ビデオID-1システム**）
（☞41ページ）

ビデオ信号の一部にデジタルのID信号を加算することにより、画面の横縦比（16:9、4:3またはレターボックス）の情報を記録するシステムの名前です。本機はID-1方式に対応しています。ID-1方式対応のビデオカメラやビデオデッキなどを、本機のビデオ1～3入力端子につなぐと、ID-1方式の画像となります。ただし、あらかじめビデオカメラなどで「ワイドTV」モードを「入」にして録画した画像に限ります。

i.LINK（☞30、61ページ）

i.LINK（アイリンク）および i.LINKロゴ はIEEE1394の親しみやすい呼称としてソニーが提案し、国内外多数の企業からご賛同いただいている商標です。
IEEE1394は電子技術者協会によって標準化された国際標準規格です。

JPEG（☞59ページ）

デジタルスチルカメラなどで採用されている、静止画像を圧縮する代表的な方式です。この方式を決定した団体(Joint Photographic Experts Group）の名前がそのまま使われています。

LINC（リンク）（☞61ページ）

LINCは、Logical Interface Connection（ロジカル･インターフェース･コネクション:「論理的な接続を行う」の意）の略です。

Mbps（メガビーピーエス）（☞61ページ）

Mbps（メガビーピーエス）とは、「Mega bits per second」の略で、1秒間に通信できるデータの容量を示しています。
400Mbpsでは、1秒間に400メガビットのデータを転送します。

MPEG1（☞59ページ）

デジタルスチルカメラなどで採用されている、カラー動画を圧縮する代表的な方式です。MPEGとは、国際標準化機構（ISO）のワーキンググループ(Motion Picture Experts Group）の名前がそのまま使われています。

PCM（☞45ページ）

アナログ音声をデジタル音声に変換する方式です。「パルス･コード･モジュレーション(Pulse Code Modulation)」の略で、手軽にデジタル音声を楽しめます。

PPV（ペイ・パー・ビュー）（☞19ページ）

「見るたびに支払う」という意味で、1回視聴するごとに購入する番組のことです。

S2映像端子（S2方式）（☞41ページ）

S映像のC端子へ直流電圧を加算することにより、画面の横縦比(16:9または4:3)の情報を記録するシステムの名前です。
縦長に圧縮された画像は「フル」モードに、レターボックスの映像は「ズーム」モードに自動的に戻す識別制御信号が入っています。
本機はS2方式に対応しています。
S2映像出力端子が付いたビデオカメラなどを、本機のS2映像入力端子につなぐと、S2方式の画像となります。
ただし、あらかじめビデオカメラなどで「ワイドTV」モードを「入」にして録画した画像に限ります。

各部の名前
Identifying parts and controls

メディアアレシーバー前面/ Media Receiver Front Panel

電源/録画予約/録画ランプ
☞21、32、34ページ
Power/Timer Recording/Recording indicator pages 21, 32, 34

スタンバイ/オフタイマーランプ
☞57、63ページ
Standby/Off Timer indicator pages 57, 63

電源スイッチ
Power switch

通信ランプ
☞85ページ
Transmission Status indicator page 85

電源　電源/録画予約/録画　スタンバイ/オフタイマー　通信

ラジオ/データ　放送切換　入力切換　－ 音量 ＋　－ チャンネル ＋

ラジオ/データボタン
☞9ページ
Radio/Data button page 9

放送切換ボタン
☞8ページ
Broadcast Select button page 8

入力切換ボタン
☞8ページ
Input Select button page 8

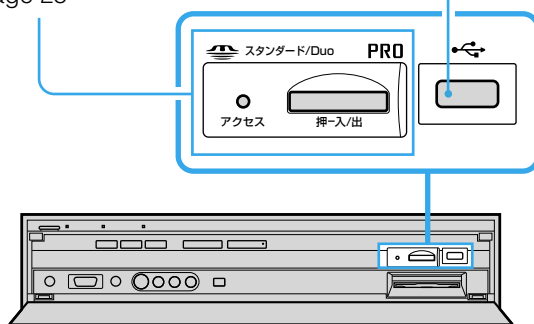
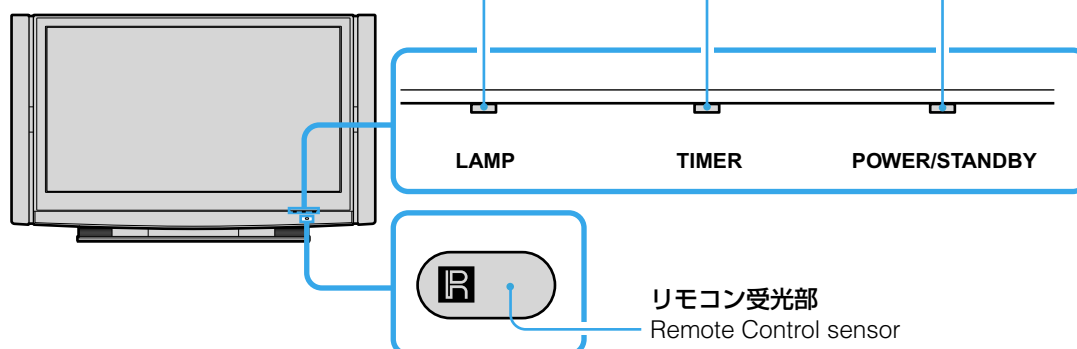
チャンネル＋/－ボタン*[1]☞8ページ
Channel ＋/－ buttons page 8

音量＋/－ボタン
Volume ＋/－ buttons

メディアアレシーバー前面パネルの開けかた

その他

ちょっと一言

*[1] の付いたボタン（チャンネル＋ボタン）の上には、凸点（突起）が付いています。操作の目印として、お使いください。

ディスプレイ前面/ Display Front Panel

その他

次のページにつづく⇨

ランプの点灯について

主電源「切」のとき

□ 電源/録画予約/録画　□ スタンバイ/オフタイマー　□ 通信

電源スタンバイのとき

□ 電源/録画予約/録画　■ スタンバイ/オフタイマー　□ 通信

赤点灯

電源が入っているとき

■ 電源/録画予約/録画　□ スタンバイ/オフタイマー　□ 通信

緑点灯　オフタイマーが働いているときは、赤く点灯（☞57ページ）

ダウンロード中（☞85ページ）
データ取得中（☞83ページ）

□ 電源/録画予約/録画　■ スタンバイ/オフタイマー　■ 通信

赤点灯　オレンジ点灯

衛星アンテナ電源のショートなど
（☞「設置・接続編」の「準備3：衛星アンテナをつなぐ」）

緑点滅

自己診断表示（☞63ページ）

□ 電源/録画予約/録画　■ スタンバイ/オフタイマー　□ 通信

赤点滅

主電源「切」以外のときは、左記に加えて、次のランプも点灯します。

録画予約待機中

■ 電源/録画予約/録画　□ スタンバイ/オフタイマー　□ 通信

オレンジ点灯

予約した録画の実行中（☞21、32ページ）
i.LINKダビング/ムーブ中（☞34ページ）

■ 電源/録画予約/録画　□ スタンバイ/オフタイマー　□ 通信

赤点灯

ディスプレイケーブルがはずれている

■ 電源/録画予約/録画　□ スタンバイ/オフタイマー　□ 通信

オレンジ点滅

通信中（☞「設置・接続編」の「準備4：電話回線につなぐ」）
ダウンロード中（☞85ページ）、データ取得中（☞83ページ）
（電源スタンバイ時は点灯しません）

■ 電源/録画予約/録画　□ スタンバイ/オフタイマー　■ 通信

緑点灯　オレンジ点灯

光源用ランプが切れているとき（☞63、86ページ）

□ 電源/録画予約/録画　■ スタンバイ/オフタイマー　□ 通信

赤点滅

リモコン/Remote Control

↑/↓/←/→/ (決定) ボタン
↑/↓/←/→/ (決定) button

番組表ボタン☞10ページ
TV Program button page 10

メモボタン☞18ページ
Memo button page 18

戻るボタン☞7ページ
Return button page 7

オプションボタン☞7ページ
Option button page 7

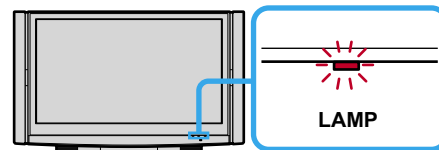
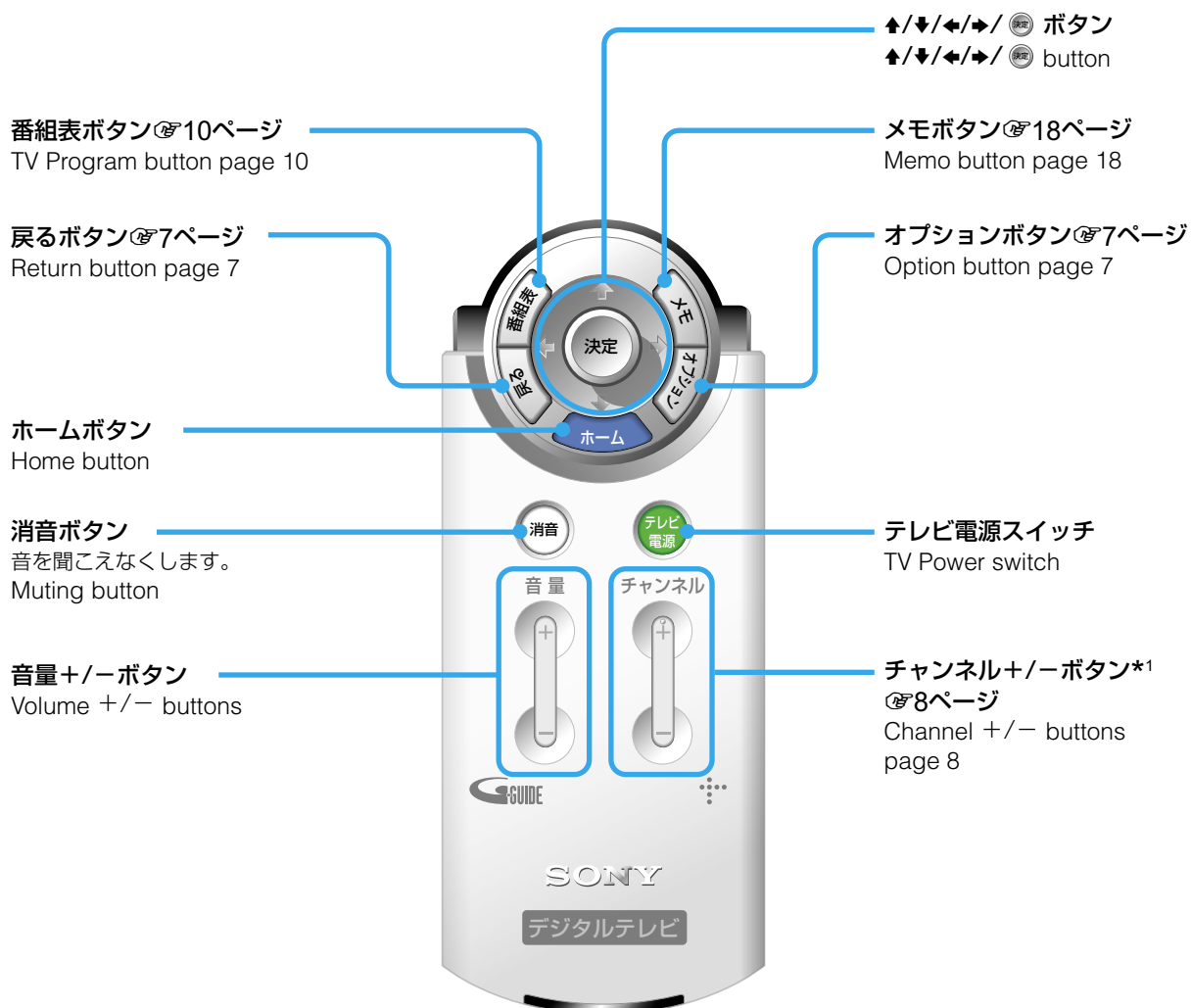
ホームボタン
Home button

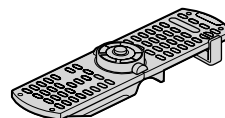
消音ボタン
音を聞こえなくします。
Muting button

テレビ電源スイッチ
TV Power switch

音量＋/－ボタン
Volume ＋/－ buttons

チャンネル＋/－ボタン*1
☞8ページ
Channel ＋/－ buttons
page 8

番組表 メモ 決定 戻る オプション ホーム 消音 テレビ電源 音量 チャンネル GUIDE SONY デジタルテレビ

リモコンホルダーの使いかた

リモコンホルダーを使うと、テーブルなどにリモコンを置いたままで操作できます。

次のページにつづく⇨

ちょっと一言

*1 の付いたボタン(チャンネル＋ボタン)には、凸点(突起)が付いています。操作の目印として、お使いください。

各部の名前 Identifying parts and controls（つづき）

ちょっと一言

*1 の付いたボタン(数字ボタン の「5」、音声切換ボタン、チャンネル＋ボタン、再生ボタン)には、凸点(突起)が付いています。操作の目印として、お使いください。

その他

索引（操作・困ったときは編）

五十音順

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

や行

その他

次のページにつづく⇨

数字・アルファベット順

その他

SONY

商品の修理、お取扱い方法、お買物相談などの問い合わせ

ホームページ ● http://www.sony.co.jp/SonyDrive/

「ソニードライブ」は、ソニーの商品情報とライフスタイルをご提案するホームページです。
「良くあるご質問」「修理情報」「ショッピング情報」は、ホームページをご活用ください。

お客様ご相談センター

● ナビダイヤル*…………………… 0570-00-3311
（全国どこからでも市内通話料でご利用いただけます）

● 携帯電話・PHSでのご利用は*……… 03-5448-3311
（ナビダイヤルがご利用できない場合はこちらをご利用ください）

● FAX……………………………………0466-31-2595

受付時間：月～金曜日 9:00～20:00　土・日・祝日 9:00～17:00

*お電話は自動音声応答にてお受けし, 内容に応じて専門の相談員が対応します。
はじめにご用件を下記より、次に音声案内にそって商品カテゴリーの番号を押してください。
選択番号は変更になることがありますので、ご容赦願います。

1：修理受付
2：使用方法や故障と思われるご相談
3：お買物相談
4：業務用・プロ用商品に関するご相談全般
5：その他のご相談

ソニー株式会社　〒141-0001 東京都品川区北品川 6-7-35

2-588-814-01 (1)

この説明書は100%古紙再生紙を使用しています。